

北川村国民健康保険保健事業実施計画
第2期データヘルス計画
評価・見直し報告書

令和6年2月

北川村

国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）
第2期評価・見直し報告書

目次

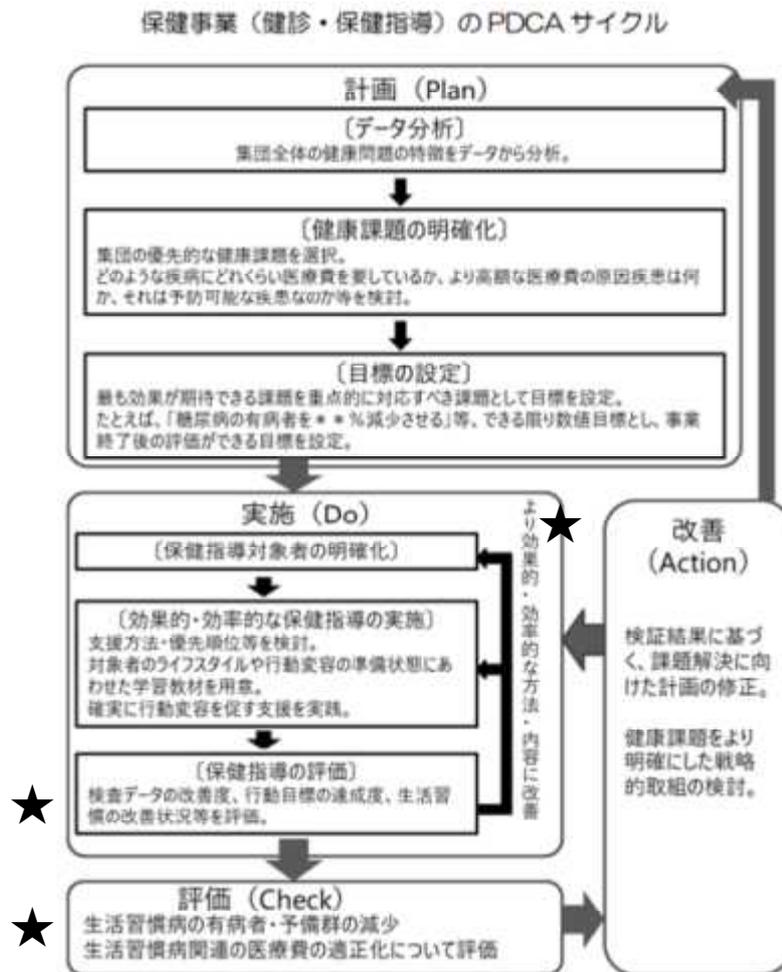
1. 評価・見直しの目的	P. 1
2. 評価方法	P. 1
3. 指標の経年データの判定	P. 2
4. 個別保健事業計画等の評価	P. 5
5. 第2期データヘルス計画まとめ・考察	P. 13
■ 個別保健事業集 個別保健事業実施計画と個別保健事業評価計画 平成29年度 平成30年度 令和元年度 令和2年度 令和3年度 令和4年度 令和5年度	P. 15
■ データ集 経年評価指標 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に係る介護情報	P. 74

1. 評価・見直しの目的

保健事業実施計画（データヘルス計画）の最終年度における目的・目標の達成状況と評価結果から課題を整理し、次期計画を修正改善することで、PDCA サイクルに沿った保健事業の実施を図ることを目的とする。（図1★印）

また、この評価・見直し報告書を通じて庁内や関係機関・団体との連携を強化するとともに、共通認識をもって引き続き課題解決に取り組むものとする。

図1



出典：標準的な健診・保健指導プログラム【令和6年度版】

2. 評価方法

「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）で用いられた「目標の評価」の方法で行う。策定時と直近値を比較したうえで、A（目標値に達した）、B（目標値に達していないが、改善傾向にある）、C（変わらない）、D（悪化している）、E（判定不能）といったように複数のレベルで評価する。

3. 指標の経年データの判定

各指標の経年データについて、判定結果を一覧に示す。

第2期データヘルス計画策定時の平成28年度から令和4年度の実績値をみて下記の5段階で判定する。

A(目標値に達した)、B(目標値に達していないが、改善傾向にある)、C(変わらない)、D(悪化している)、E(判定不能)のレベルで評価判定し、課題整理を行う。

北川村国民健康保険保健事業実施計画(データヘルス計画)第2期 評価→目的・目標・指標の確認、達成状況と判定

目的: 今回の計画の目的は、生活習慣病を減らし、健康寿命を延ばすことである。

A(目標値に達した)
 B(目標値に達していないが、改善傾向にある)
 C(変わらない)
 D(悪化している)
 E(判定不能)

中・長期目標(令和5年評価)

	目標			対象者	評価経年モニタリング								判定	
	項目	現状 (H28データ) 375人	中間年度 (H31年度)		平成35年度 (H34データ) の達成目標	指標	平成28年	平成29年	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年		令和4年 (直近の値)
データヘルス計画 本文より	・脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病の被保険者に占める患者割合を10%減少させる ・メタボリックシンドロームの該当者割合を10%減少させる ・1人当たりの医療費を10%減少することを目指す			脳血管疾患者 (40~74歳)	脳出血患者数	3.1人	3.0人	2.9人	2.7人	1.5人	1.1人	0.9人	A	
	脳出血患者数/被保険者数	0.8%	0.8%		0.9%	0.8%	0.4%	0.3%	0.3%					
	入院医療費(円)	0	0		0	861,800	0	0	0					
	脳梗塞患者数	11.5人	11.4人		13.4人	13.1人	11.3人	9.8人	7.8人					
	脳梗塞患者数/被保険者数	3.1%	3.2%		4.0%	4.0%	3.3%	3.0%	2.3%					
	入院医療費(円)	0	0		0	861,800	0	0	0					
					虚血性心疾患患者 (40~74歳)	狭心症患者数	14.4人	17.6人	19.0人	16.8人	16.1人	13.4人	12.3人	C
						狭心症患者数/被保険者数	3.8%	4.9%	5.6%	5.1%	4.7%	4.1%	3.7%	
						入院医療費(円)	0	0	0	861,800	0	0	0	
						心筋梗塞患者数	0.0人	0.8人	1.3人	1.2人	1.7人	1.6人	0.3人	
					高血圧症患者 (40~74歳)	心筋梗塞患者数/被保険者数	0.0%	0.2%	0.4%	0.4%	0.5%	0.5%	0.1%	B
						入院医療費(円)	0	0	0	861,800	0	0	0	
						高血圧症患者数	119.7人	117.8人	115.5人	107.6人	98.9人	102.1人	96.8人	
					脂質異常症患者 (40~74歳)	高血圧症患者数/被保険者数	31.9%	33.1%	34.1%	32.7%	29.1%	31.1%	29.2%	D
				脂質異常症患者数		94.3人	93.2人	94.2人	88.8人	86.5人	91.9人	84.3人		
				脂質異常症患者 (40~74歳)	脂質異常症患者数/被保険者数	25.2%	26.2%	27.8%	27.0%	25.4%	28.0%	25.4%	D	
					脂質異常症患者数	94.3人	93.2人	94.2人	88.8人	86.5人	91.9人	84.3人		
				糖尿病患者 (40~74歳)	糖尿病患者数	42.9人	42.0人	45.0人	42.3人	42.4人	44.9人	41.1人	D	
					糖尿病患者数/被保険者数	11.4%	11.8%	13.3%	12.8%	12.5%	13.7%	12.4%		
				メタボリックシンドローム 該当者(40~74歳)	該当者割合 ①男	33.3%	28.8%	33.3%	30.9%	33.9%	37.3%	33.3%	C	
					②女	7.7%	8.1%	12.1%	7.5%	8.6%	9.7%	8.3%		
				医療費 (1人当たり/月額)	医療費	35,990円	36,210円	44,070円	39,970円	37,920円	33,680円	33,100円	B	

短期目標(毎年評価する)

	目標	対象者	評価経年モニタリング								判定
			指標	平成28年	平成29年	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年 (直近の値)	
データヘルス計画 本文より	・メタボリックシンドローム要因(高血圧症、脂質異常症、糖尿病、腹囲)の減少 ○数値目標	特定健康診査受診者	収縮期血圧 有所見者割合(男性)	56.7%	56.1%	48.6%	47.1%	40.7%	50.7%	48.0%	A
			収縮期血圧 有所見者割合(女性)	56.4%	51.4%	42.4%	44.8%	50.0%	43.5%	38.3%	A
	特定健診での血圧、血糖(HbA1c)、脂質(LDL-C)、メタボリックシンドローム要因の有所見者割合を県平均以下とする	特定健康診査受診者	拡張期血圧 有所見者割合(男性)	21.7%	34.8%	30.6%	26.5%	16.9%	22.7%	21.3%	A
			拡張期血圧 有所見者割合(女性)	19.2%	21.6%	12.1%	9.0%	10.3%	8.1%	6.7%	A
	・収縮期血圧 男性:56.7%/49.5%(県) 女性:56.4%/41.7%(県) ・拡張期血圧 男性:21.7%/25.6%(県) 女性:19.2%/14.4%(県) ・HbA1c 男性:65.0%/62.2%(県) 女性:71.8%/64.9%(県) ・LDL-C 男性:40.0%/41.6%(県) 女性:57.7%/53.6%(県) ・中性脂肪 男性:30.0%/32.6%(県) 女性:26.9%/22.0%(県) ・腹囲 男性:53.3%/54.5%(県) 女性:15.4%/21.0%(県)	特定健康診査受診者	HbA1c 有所見者割合(男性)	65.0%	68.2%	61.1%	67.6%	69.5%	66.7%	65.3%	D
			HbA1c 有所見者割合(女性)	71.8%	62.2%	65.2%	71.6%	60.3%	69.4%	63.3%	A
	特定健康診査受診者	LDL-C 有所見者割合(男性)	40.0%	28.8%	50.0%	51.5%	42.4%	45.3%	37.3%	A	
		LDL-C 有所見者割合(女性)	57.7%	37.8%	50.0%	55.2%	58.6%	53.2%	53.3%	A	
	特定健康診査受診者	中性脂肪 有所見者割合(男性)	30.0%	24.2%	27.8%	30.9%	32.2%	25.3%	22.7%	A	
		中性脂肪 有所見者割合(女性)	26.9%	18.9%	27.3%	26.9%	31.0%	24.2%	21.7%	A	
	特定健康診査受診者	腹囲 有所見者割合(男性)	53.3%	54.5%	63.9%	55.9%	59.3%	62.7%	62.7%	D	
		腹囲 有所見者割合(女性)	15.4%	12.2%	18.2%	13.4%	13.8%	14.5%	21.7%	D	

個別保健事業実施計画

事業名	目的	目標	対象者	評価経年モニタリング								判定
				指標	平成28年	平成29年	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年 (直近の値)	
未受診者対策	健康意識の向上 健康管理	40～74歳の特定健診未受診者の減少	40～74歳の特定健診未受診者	40～74歳の特定健診受診率 (目標受診率:57%)	47.4%	50.5%	50.4%	50.4%	44.5%	52.9%	52.9%	B
若者健診	健康意識の向上 健康管理	若年者への受診率向上	18～39歳の国保加入者	18～39歳の国保加入者受診率 (目標受診率:20%)	-	-	17.2%	17.9%	19.0%	29.4%	35.5%	A
ハイリスク保健指導	病気の早期発見 早期治療による重症化予防	特定健診結果要医療者の医療機関受診率向上	要医療となった受診者	医療機関受診率 (目標受診率:70%) ※医療機関受診者数/健診受診者数	58.7%	61.4%	60.1%	54.1%				D
		特定健診結果受診勧奨対象者の医療機関受診率向上	要精密、要医療となった受診者	医療機関受診率 (目標受診率:90%) ※医療機関受診率/受診勧奨者率					91.5%	86.0%	85.5%	B
個別保健指導	健康への正しい理解と生活習慣の改善	特定保健指導実施率向上と生活習慣の改善	特定保健指導対象者	保健指導実施率 (目標実施率:40%)	35.0%	30.0%	13.6%	50.0%	62.5%	30.8%	60.7%	A
健康教室	健康づくりを行うことで病気の発生悪化を防ぐ	メタボリックシンドローム該当者割合の減少	40～74歳の特定健診対象者	メタボリックシンドローム該当者の減少 (前年度比2%減) ①男 ②女	①33.3% ②7.7%	①28.8% ②8.1%	①33.3% ②12.1%	①30.9% ②7.5%	①33.9% ②8.6%	①37.3% ②9.7%	①33.3% ②8.3%	C
健康チャレンジ	健康活動のきっかけ作り	運動習慣がない人の割合減少	20歳以上の村民	週2回30分/回以上の運動習慣がない人の割合減少(男女共に50%未満) ①男 ②女	①59.3% ②67.1%	①59.1% ②71.2%	①72.2% ②67.7%	①77.9% ②76.9%	①84.7% ②77.6%	①65.3% ②75.4%	①66.2% ②66.7%	D
食生活改善推進事業	食生活の見直す機会を設ける	健康意識の向上を目指す	40～74歳の特定健診対象者	週3回以上就寝前に夕食をとる人の減少(男女共に20%未満) ①男 ②女	①33.9% ②13.2%	①33.3% ②20.5%	①27.8% ②10.8%	①38.2% ②13.8%	①28.8% ②6.9%	①29.3% ②13.1%	①27.0% ②11.7%	B
健診結果説明会	健診結果を見直す機会を設けることで、健康への正しい理解と生活習慣改善を促す	健康への意識を高め、行動に繋がる	特定健診受診者及び健診結果説明会参加者	特定健診問診票の改善意欲なしの割合(男性:50%未満、女性:30%未満) ①男 ②女	①50.8% ②38.2%	①51.5% ②32.9%	①51.4% ②27.7%	①41.2% ②29.2%	①42.4% ②27.6%	①50.7% ②27.9%	①41.9% ②30.0%	A

☆事業や評価項目としてないが、データヘルズ計画中に「目標とする」などの文言があるもの

事業	目的	目標	対象者	評価経年モニタリング								判定
				指標	平成28年	平成29年	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年 (直近の値)	
その他の保健事業 COPD	「COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン 第4版」(日本呼吸器学会 2013年4月発行)によると、タバコ煙はCOPDの最大の危険因子で、COPD患者の約90%に喫煙歴があるといわれています。COPDの発症予防にはタバコ煙の暴露からの回避が重要であり、現在の青年期・壮年期の世代への生活習慣病の改善に向けた働きかけを重点的に行うことが大切	評価に用いることが可能な指標として、健康・医療情報を活用して喫煙の有無(生活習慣の状況)を把握し、国の喫煙率以下を目標とします。	村民	入院外のレセプト件数	16.1	8.2	2.9	9.1	2.9	3.0	3.0	A

4. 個別保健事業等の評価

下記様式を個別保健事業ごとに記載し、添付する。

個別保健事業等の評価

※判定基準

H29年から直近R4年の実績値を比較して下記の5段階の分類で評価する

A（目標値に達した）、B（目標値に達していないが、改善傾向にある）

C（変わらない）、D（悪化している）E（判定不能）

【受診勧奨・未受診者対策】

目的	40～74歳の特定健診受診率を向上し、住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理を目指す								
事業内容	<p>対象者：特定健診対象者（国保被保険者 40～74歳） 実施者：住民課、保健福祉推進員、健康づくり婦人会 時期：健診アンケート後（集団健診実施前）及び集団健診実施後（個別健診前） 場所：村内及び役場 方法： ・健(検)診申込アンケートの実施・保健福祉推進員によるアンケート未提出者への個別訪問 ・アンケートで「実施しない」と答えた方への電話勧奨・個別訪問（健康づくり婦人会・保健福祉推進員） ・職員による声かけ・個別受診の電話勧奨・個別訪問（保健福祉推進員） ・広報等によるPR活動</p>								
評価	評価指標	目標値	指標の変化						※判定
			H29	H30	R1	R2	R3	R4	
アウトカム	特定健診受診率	57%以上	50.5%	50.4%	50.4%	44.5%	52.9%	52.9%	B
アウトプット	受診勧奨	全員	A						
成功要因 未達要因	<p>成功要因 ・村内に医療機関が無い状況ではあるが、健診アンケートを受診対象者全員に送付し、未受診者も含めて提出を依頼することで集団健診の受診を強く促し、受診率は高い水準を推移している。</p> <p>未達要因 ・例年、健康づくり婦人会と一緒に訪問するなど地域に寄り添った取組をしているものの、毎年未受診の者や地域活動への参加が少ない者等に対しては、これまでと違った新たな取り組みが必要となってきた。 ・新規受診者は一定数確保しているが、同数程度が離脱している。 ・当村は無医村であり、医療機関と連携が取りにくく、個別健診の受診率が低い。</p>								
継続等について	<input type="checkbox"/> 継続								
	<input checked="" type="checkbox"/> 多少の見直しが必要								
	<input type="checkbox"/> 大幅な見直しが必要								
	<input type="checkbox"/> 継続要検討								
見直し改善案、次期計画の方向性	<p>これまでの受診勧奨は継続するとともに、ソーシャルマーケティングを活用した未受診者対策等、新たな対策を検討し、新規受診者の確保及び離脱者の減少に取り組む。</p>								

【若年者健診】

目的	若年者への健診を誘導し、住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理を目指す								
事業内容	対象者：国保被保険者 18～39歳 実施者：住民課、保健福祉推進員、健康づくり婦人会 時期：健診アンケート後（集団健診実施前） 場所：村民会館 方法： ・18～39歳の国保加入者への無料健診の実施 ・健(検)診申込アンケートの実施・保健福祉推進員によるアンケート未提出者への個別訪問 ・アンケートで「実施しない」と答えた方への電話勧奨・個別訪問（健康づくり婦人会・保健福祉推進員） ・職員による声かけ・個別受診の電話勧奨・個別訪問（保健福祉推進員） ・広報等によるPR活動								
評価	評価指標	目標値	指標の変化						※判定
			H29	H30	R1	R2	R3	R4	
アウトカム	若年者健診受診率	20%以上	-	17.2%	17.9%	19.0%	29.4%	35.5%	A
アウトプット	受診勧奨	全員	-	全員	全員	全員	全員	全員	A
成功要因 未達要因	成功要因 ・継続した取り組みによる若年者の関心の高まり ・若年の農業担い手（移住者）増加による健康意識の向上								
継続等について	<input checked="" type="checkbox"/>	継続							
	<input type="checkbox"/>	多少の見直しが必要							
	<input type="checkbox"/>	大幅な見直しが必要							
	<input type="checkbox"/>	継続要検討							
見直し改善案、次期計画の方向性	目標は達成しているが、更なる受診率の向上に向けてこれまでの受診勧奨は継続するとともに、ソーシャルマーケティングを活用した未受診者対策等、新たな対策を検討し、新規受診者の確保及び離脱者の減少に取り組む。								

【ハイリスク保健指導】

目的	特定健診の結果、受診勧奨対象となった者の医療機関受診率向上による病気の早期発見、早期治療及び重症化予防								
事業内容	対象者：特定健診の結果、受診勧奨対象となった者 実施者：保健師、保健福祉推進員 時期：特定健診後2ヶ月以内 場所：被保険者宅、役場 方法： ・健診結果要精密者、要医療者に対し紹介状作成 ・個別に医療機関受診勧奨 ・重症化予防対策の取り組みによる抽出者に対し、健診結果確認や面接による情報収集を行うとともに、必要時は医療機関受診を勧める ・医療機関受診結果の確認								
評価	評価指標	目標値	指標の変化						※判定
			H29	H30	R1	R2	R3	R4	
アウトカム	医療機関受診者数/健診受診者数	70%以上	61.4%	60.1%	54.1%				D
	医療機関受診率/受診勧奨者率	90%以上				91.5%	86.0%	85.5%	B
アウトプット	紹介状返却率	100%	60.0%	40.0%					D
	勧奨実施率	100%			100%	100%	100%	100%	A
成功要因 未達要因	成功要因 ・受診勧奨対象者については、直接連絡した上でできるだけ健診結果を説明しながらお渡ししており、受診の必要性を伝えるように努めている。 ・R元までは要医療者のみに受診勧奨を行っていたが、R2以降は要精密者にも受診勧奨することとしたことで受診率の向上に繋がった。 未達要因 ・症状の無い方の一部には受診の必要性が伝わっていない。								
継続等について	<input type="checkbox"/>	継続							
	<input checked="" type="checkbox"/>	多少の見直しが必要							
	<input type="checkbox"/>	大幅な見直しが必要							
	<input type="checkbox"/>	継続要検討							
見直し改善案、次期計画の方向性	症状の無い方に「病態の進展における客観的指標」を説明するなど、医療機関受診の必要性の理解を深めるよう、保健福祉推進員による個別勧奨にさらに取り組む。								

【個別保健指導】

目的	特定保健指導実施率向上により、健康への正しい理解と生活習慣の改善を目指す								
事業内容	<p>対象者：特定健診による特定保健指導対象者 実施者：保健師、住民課、委託業者 時期：集団健診実施後 場所：保健センター及び地区集会所 方法：健診時に事前予約を受け付けるとともに保健師等による電話勧奨を行うなど利用勧奨し、専門職による保健指導を実施する</p>								
評価	評価指標	目標値	指標の変化						※判定
			H29	H30	R1	R2	R3	R4	
アウトカム	保健指導実施率	40%以上	30.0%	13.6%	50.0%	62.5%	30.8%	60.7%	A
アウトプット	勧奨実施率	100%	-	91.3%	77.8%	87.5%	92.3%	92.9%	B
成功要因 未達要因	<p>成功要因 ・集団健診時には、身体測定等実施後に保健指導の対象となる可能性がある方と保健指導担当者との面談を実施しており、事前の周知に努めている。 ・保健指導対象者については、直接連絡した上でできるだけ健診結果を説明しながらお渡ししており、保健指導の必要性を伝えるように努めている。</p>								
継続等について	<input checked="" type="checkbox"/>	継続							
	<input type="checkbox"/>	多少の見直しが必要							
	<input type="checkbox"/>	大幅な見直しが必要							
	<input type="checkbox"/>	継続要検討							
見直し改善案、次期計画の方向性	目標は達成しているものの年度ごとの実施率の幅が広く、安定して実施率を向上させるための体制整備が必要である。								

【健康教室】

目的	健康づくりの意識向上を促しメタボリックシンドローム該当者を減少させ、病気の発生悪化を防ぐ								
事業内容	対象者：特定健診対象者（国保被保険者 40～74歳） 実施者：住民課、委託業者 時期：通年 場所：保健センター及び地区集会所 方法：健康教室・運動教室を開催し、日々に活かせることの紹介や体験を通じて自分でできる健康づくりに取り組み病気の発生悪化を防ぐ								
評価	評価指標	目標値	指標の変化						※判定
			H29	H30	R1	R2	R3	R4	
アウトカム	メタボリックシンドローム該当者割合	男女共に前年比2%減	男 28.8% 女 8.1%	33.3% 12.1%	30.9% 7.5%	33.9% 8.6%	37.3% 9.7%	33.3% 8.3%	C
アウトプット	国保加入者の参加人数/回	10.0人以上	-	6.0人	3.5人	2.0人	1.7人	1.0人	D
成功要因 未達要因	成功要因 ・取り組み当初は被保険者の関心も高く、ライザップと連携するなど幅広い層に参加いただけるよう取り組んだ。 未達要因 ・新型コロナウイルスの影響もあり、一度離れた参加者が戻らなかった。 ・回数を重ねるにつれてマンネリ化し、また新規参加者が少なく既存参加者も後期高齢者医療の対象となるなど国保被保険者の参加者が増えなかった。 ・女性のメタボ該当者は元々少なく、男性の参加を促したかったが困難であり、参加者増やメタボ該当者減に繋がらなかった。								
継続等について	<input type="checkbox"/>	継続							
	<input type="checkbox"/>	多少の見直しが必要							
	<input type="checkbox"/>	大幅な見直しが必要							
	<input checked="" type="checkbox"/>	継続要検討							
見直し改善案、次期計画の方向性	取組により国保加入者に運動習慣は身についたこと、また国と比較して男女ともにメタボ該当者が高い数値ではないため、本事業はR4年度で終了とし、別途効果的な取組を検討する。								

【健康チャレンジ】

目的	村独自のインセンティブ制度を導入して健康活動のきっかけを作り、日頃から健康意識を高める								
事業内容	対象者：20歳以上の村民 実施者：住民課 時期：通年 場所：役場、対象者宅、地区集会所等 方法： ・健康パスポート事業と連動して、健康チャレンジ事業（運動習慣や血圧測定等）を展開 ・広報、回覧、集会や文化祭等での周知 ・事業取り組み者には特典を用意								
評価	評価指標	目標値	指標の変化						※判定
			H29	H30	R1	R2	R3	R4	
アウトカム	運動習慣がない人の割合	男女共に50%未満	男 59.1% 女 71.2%	72.2% 67.7%	77.9% 76.9%	84.7% 77.6%	65.3% 75.4%	66.2% 66.7%	D
アウトプット	参加人数	50人以上	-	43人	35人	31人	34人	32人	D
成功要因 未達要因	未達要因 ・様々な場面で健康チャレンジの取組などを紹介したが、実際に取り組む方は限定されていた。 ・リピーターは多いが、新たに参加する方を増やすアイデアが足りなかった。								
継続等について	<input type="checkbox"/>	継続							
	<input type="checkbox"/>	多少の見直しが必要							
	<input type="checkbox"/>	大幅な見直しが必要							
	<input checked="" type="checkbox"/>	継続要検討							
見直し改善案、次期計画の方向性	県で同ような取組もあるが、村のインセンティブの方が反応が良く、またアプリを使用するなど高齢になるとハードルが上がる。 これまでの取組は継続するとともに、幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のブラッシュアップに努める必要がある。 ただし、全村民を対象とした事業であることから、国保データヘルス計画からは除外する。								

【食生活改善推進事業】

目的	食生活の改善を推進することによって、村民の健康と福祉の増進に寄与する								
事業内容	対象者：特定健診対象者（国保被保険者 40～74歳） 実施者：食生活改善推進委員 時期：通年 場所：村内、村民会館 方法： ・減塩メニュー等の提案と各集落への普及活動								
評価	評価指標	目標値	指標の変化						※判定
			H29	H30	R1	R2	R3	R4	
アウトカム	就寝前に夕食をとる人の割合	男女共に20%未満	男 33.3% 女 20.5%	27.8% 10.8%	38.2% 13.8%	28.8% 6.9%	29.3% 13.1%	27.0% 11.7%	B
アウトプット	実施・開催回数	15回	-	15回	16回	16回	9回	17回	A
成功要因 未達要因	成功要因 ・各地区での伝達研修や野菜の日キャンペーン等、直接地域住民と調理等を行うことにより食生活及び食習慣の改善を図ることができた。 未達要因 ・活動の中心が食事を作る機会の多い女性であり、女性は改善傾向が顕著であるが、男性に対する意識改善が困難であった。								
継続等について	<input type="checkbox"/>	継続							
	<input type="checkbox"/>	多少の見直しが必要							
	<input type="checkbox"/>	大幅な見直しが必要							
	<input checked="" type="checkbox"/>	継続要検討							
見直し改善案、次期計画の方向性	改善傾向にあり、これまでの取組は継続するとともに、幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のブラッシュアップに努める必要がある。 ただし、子どもも含め全村民を対象とした事業であることから、国保データヘルス計画からは除外する。								

【健診結果説明会】

目的	健診結果を見直す機会を設けることで、健康への正しい理解と生活習慣改善を促す								
事業内容	対象者：特定健診受診者及び健診結果説明会参加者 実施者：住民課、委託業者、健康づくり婦人会 時期：集団健診実施後 場所：保健センター又は村民会館 方法： ・集団健診後に健診結果説明会を行う ・広報、回覧、健診結果に折込チラシを入れ、周知・参加者特典 ・健康パスポート事業と連携し、シール配布								
評価	評価指標	目標値	指標の変化						※判定
			H29	H30	R1	R2	R3	R4	
アウトカム	改善意欲なしの割合	男:50% 未満	51.5%	51.4%	41.2%	42.4%	50.7%	41.9%	A
		女:30% 未満	32.9%	27.7%	29.2%	27.6%	27.9%	30.0%	
アウトプット	結果説明会参加率	20.0%	-	22.7%	16.2%	14.6%	1.9%	20.0%	A
成功要因 未達要因	成功要因 ・昼夜の開催や個別の声かけにより、男性や若い世代の参加や意識向上に繋がった。 ・健診結果に合わせて運動教室を開催するなど、参加率の向上に努めた。								
継続等について	<input type="checkbox"/>	継続							
	<input type="checkbox"/>	多少の見直しが必要							
	<input type="checkbox"/>	大幅な見直しが必要							
	<input checked="" type="checkbox"/>	継続要検討							
見直し改善案、次期計画の方向性	概ね目標を達成したが、参加者も固定化及び減少してきているため、本事業はR4年度で終了とし、別途効果的な取組を検討する。								

5. 第2期データヘルス計画まとめ・考察

個別保健事業まとめ

事業名	現状 (達成・未達要因)	見直し改善案、次期計画の 方向性	第3期DH計画事業内容
受診勧奨・未受診者対策	新規受診者は一定数確保しているが、同数程度が離脱	新規受診者の確保及び離脱者の減少に取り組む	ソーシャルマーケティングを活用した未受診者対策等、新たな対策の検討
若年者健診	継続した取り組みにより若年者の関心が高まっている		
ハイリスク保健指導	症状の無い方に受診の必要性が伝わっていない	医療機関受診の必要性の理解を深める	医療機関受診勧奨事業として保健福祉推進員による個別勧奨を徹底
個別保健指導	保健指導対象者に直接健診結果を説明しながら手交しており、必要性が伝わっている	年度ごとの実施率の幅が広く、安定して実施率を向上させるための体制整備が必要	保健福祉推進員による個別勧奨の徹底
健康教室	新型コロナウイルスの影響もあり、一度離れた参加者が戻らなかった	本事業はR4年度で終了とし、別途効果的な取組を検討	—
健康チャレンジ	リピーターは多いが、新たに参加する方を増やすアイデアが足りない	対象には後期高齢の方も多く、国保データヘルス計画からは除外する	—
食生活改善推進事業	男性に対する意識改善が困難	対象には後期高齢の方も多く、国保データヘルス計画からは除外する	—
健診結果説明会	昼夜の開催や個別の声かけにより、男性や若い世代の意識向上に繋がった	参加者の固定化及び減少により、保健指導対象者等への個別説明に切り替える	—

考察

北川村では、健康寿命の延伸を目指し、生活習慣病の減少及び重症化予防に取り組み、短期目標としてメタボリックシンドロームの要因となる高血圧症、脂質異常症、糖尿病、腹囲の健診有所見者割合の減少を掲げている。

短期目標である健診有所見者割合の減少では、男性のHbA1c及び男女の腹囲が増加している。一方で、その他の血圧やLDL-C等の有所見割合は改善して目標値に達しており、この改善を維持できれば生活習慣病の重症化を予防できると考える。

個別保健事業では、特定健診の受診勧奨や健康教室、健診結果説明会の開催等に取り組んだ結果、受診率や改善意欲の向上に繋がった。

現在、1人当たり医療費は改善傾向にあるが、慢性腎臓病の医療費割合は県や国を大幅に上回っている。当村は無医村であり、また周辺には栄養指導が可能な医療機関が少ないため、保険者による栄養指導を実施できる体制を構築するとともに医療機関と連携を図り、糖尿病重症化に向けた事業を実施していく。

また、計画策定時から脳血管疾患は減少しており、引き続き医療機関への受診勧奨、保健指導を継続して行う。

個別保健事業集

1. 個別保健事業実施計画と個別保健事業評価計画

平成29年度保健事業の実施内容

事業名	目的	目標	対象者	事業内容	方法	実施者	期間	場所	評価
受診勧奨	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	40才～74歳の特定健診未受診者の減少(目標受診率:50%)	40～74歳の特定健診対象者	受診勧奨	・健(検)診申込アンケートの実施・保健福祉推進員によるアンケート未提出者への個別訪問 ・アンケートで「実施しない」と答えた方への電話勧奨・個別訪問(健康づくり婦人会・保健福祉推進員) ・職員による声かけ・個別受診の電話勧奨・個別訪問(保健福祉推進員) ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員	平成29年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率
未受診者対策	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	40才～74歳の特定健診未受診者の減少(目標受診率:50%)	40才～74歳の特定健診対象者	受診勧奨	・集団検診後、保健福祉推進員及び健康づくり婦人会による受診勧奨・職員による声かけ ・個別受診の電話勧奨・個別訪問(保健福祉推進員) ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	平成29年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率
ハイリスク保健指導	病気の早期発見、早期治療による重症化予防	特定健診結果要医療者の医療機関受診率の向上(目標受診率:70%)	特定健診受診者のうち要医療者重症化予防対策の取り組み抽出	ハイリスク保健指導	・健診結果要医療者に対し紹介状作成 ・個別に医療機関受診勧奨 ・重症化予防対策取り組みによる抽出者に対し、健診結果確認や面接による情報収集を行うとともに、必要時は医療機関受診を勧める ・受診結果の確認	保健師 保健福祉推進員	平成29年度	被保険者宅 役場	要医療者の医療機関受診率
個別保健指導	健康への正しい理解と生活習慣の改善を促す	指導対象者の保健指導実施率向上と生活習慣の改善(目標実施率:40%)	特定健診による特定保健指導対象者	個別面談による保健指導	・専門職による保健指導・保健師等による電話勧奨を行い利用勧奨する	保健師 住民課 委託業者	平成29年度	保健センター及び地区集会所	特定保健指導実施率
健康教室	健康づくりを行うことで病気の発生悪化を防ぐ	介護予防教室の実施	村民	健康教室	健康教室運動教室自分のできる健康づくり、日々に活かせることの紹介や体験	住民課 委託業者	平成29年度	保健センター及び地区集会所	・実施回数 ・参加者人数
食生活改善推進事業	食生活を見直す機会を設ける	食生活改善活動に参加することで健康意識の向上を目指す 健診有所見率45%	村民	食生活改善推進事業	・減塩メニュー等の提案と各集落への普及活動 ・サンプル使用による各個人の食事チェックの補助(健診時等に国保連よりレンタル)	食生活改善推進委員	平成29年度	村内 村民会館	健診有所見率

平成29年度保健事業評価計画

個別保健事業名 受診勧奨

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率	受診率：50%	平成29年度法定報告	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：50.5% (受診者数140人/277人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか	受診勧奨者数 各地区で勧奨できたか	勧奨対象者：73人 21地区勧奨	村より集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	勧奨者：61人 (訪問勧奨：48人 電話勧奨：13人) 不在もあったが、21地区勧奨することができた。	健康づくり婦人会と目標達成に向けて個別勧奨を強化する。
プロセス	①受診勧奨の時期は適切か ②受診勧奨の方法は適切か	検診受診率	受診率：50%	村より集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：50.5% 検診申込アンケート未回収者に対して、健康づくり婦人会や保健福祉推進員、役場職員が個別に勧奨を行ったことにより、50%を超える受診率につながった。	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	①必要な予算や人材は確保できたか ②関係機関との連携は十分だったか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	①予算や人員が確保できている ②打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保できた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き、関係機関と綿密な打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

平成29年度保健事業評価計画

個別保健事業名 未受診者対策

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率	受診率：50%	平成29年度法定報告	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：50.5% ・40～74歳 (受診者数140人/277人) ・40～59歳 (受診者数21人/56人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか	各地区で勧奨できたか	受診勧奨実施地区：21地区	村より集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	対象地区全地区で勧奨することができた。	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する
プロセス	①受診勧奨の時期は適切か ②受診勧奨の内容は適切か ③受診券の送付時期は適切か	①②③同左	①適切な時期に受診勧奨できる ②受診率：50%	村より集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①集団健診実施後に、他町村で受診できるチラシを作成し未受診者へ勧奨した。 ②受診率：50.5%	健診申込みアンケートの内容検討や受診者の特性を分析し、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	①必要な予算や人材は確保できたか ②健康福利婦人会との連携はできたか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	①予算や人員が確保できている ②打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保できた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き関係機関と綿密な打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

平成29年度保健事業評価計画

個別保健事業名 ハイリスク保健指導

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ医療機関を受診したか	医療機関受診率 (ハイリスク対象者/健診受診者)	医療機関受診率：70%	受診状況の確認・集計 (KDB)	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	医療機関受診者:61.4% (医療機関受診者：86人/健診受診者140人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	どれだけの人に医療機関へ紹介の案内を送ったか	同左	紹介状返却率：100%	村より集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	返却率:60% (3件) 対象者全員の返却にはならなかった	返却率100%になるよう対象者への紹介方法を検討する
プロセス	対象者への紹介状が送付できたか	特定健診後、2ヶ月以内	特定健診後、2ヶ月以内に対象者へ紹介状が送付される	紹介状作成日等の確認	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	-	評価方法を検討する
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	継続

平成29年度保健事業評価計画

個別保健事業名 個別保健指導

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ保健指導に繋がったか	実施率	実施率：40%	平成29年度法定報告	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	全体の利用率:30.0% ・積極的支援(対象者6人) 利用者:2人 終了者:1人 ・動機付け支援(対象者14人) 利用者7人 終了者:5人	保健指導の方法を見直し、参加者増に繋げる。
アウトプット	何人に勧奨を行ったか	保健指導対象者数 終了者率	20人 終了率：100%	平成29年度法定報告	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	電話勧奨:15人 終了者：35% (7人) 電話勧奨を実施した。	訪問勧奨や、郵送などを行い、効果的な勧奨方法を検討していく。
プロセス	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に勧奨できる	担当部署で話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	電話勧奨を中心に実施した 健診結果が分かり次第、早々に勧奨を実施できた	実施に繋がる勧奨方法を検討していく。 対象者に対し、保健指導を受けない理由などを聞き取り今後の勧奨方法に繋げていく。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託事業者とは、概ね連携できた	終了率の増加に繋がるよう、関係機関との打合せ等、引き続き行っていく。

平成29年度保健事業評価計画

個別保健事業名 健康教室(介護予防)

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	介護予防の知識を深めることができたか	筋骨格系患者の減少	介護予防教室の実施	医療情報の確認・集計(KDB)	H30年	事業担当(国保担当、保健担当)	筋骨格系患者数:72.9% (76人) H28:65.3% (70人) 筋骨格系患者は減少しなかったが、各地区で介護予防教室を開催することができた。	患者数の減少に向けて、介護予防教室を継続して実施する。
アウトプット	介護予防教室にどれだけ参加したか	実施回数	実施回数(10地区)	実施できたか	H30年	事業担当(国保担当、保健担当)	10地区 延べ419回実施できた	継続
プロセス	活動の周知は適切だったか	社会福祉協議会だよりの発行	年6回発行	発行数集計	H30年	事業担当(国保担当、保健担当)	年6回発行 予定通り隔月で発行することができた	継続
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	H30年	事業担当(国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	事業継続

平成29年度保健事業評価計画

個別保健事業名 健康教室(糖尿病)

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	糖尿病重症化の理解ができたか	糖尿病患者の減少	糖尿病教室の実施	医療情報の確認・集計(KDB)	H30年	事業担当(国保担当、保健担当)	糖尿病患者数:25.2% (28人) H28:32.7% (28人) 糖尿病患者数は横ばいだった	事業内容の検討が必要
アウトプット	糖尿病教室にどれだけ参加したか	実施回数	実施回数	実施の有無	H30年	事業担当(国保担当、保健担当)	未実施	事業継続を検討
プロセス	活動の周知は適切だったか	参加人数	20人	参加者数集計	H30年	事業担当(国保担当、保健担当)	未実施	事業継続を検討
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	H30年	事業担当(国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	事業継続を検討

平成29年度保健事業評価計画

個別保健事業名 食生活改善推進協議会

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	食生活を見直せたか	高血圧症の健診有所見率	健診有所見率 45%	KDBより抽出	H30年	事業担当	健診有所見率：45.2 高血圧症の有所見率は、ほぼ横ばいだった	事業内容の検討が必要
アウトプット	低栄養等の対策の料理教室の実施	実施回数	実施回数1回	実施の有無	H30年	事業担当	未実施	事業内容の検討が必要
プロセス	活動の周知は適切だったか	参加人数	20人	参加者数集計	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	未実施	事業内容の検討が必要
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	H30年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	事業内容の検討が必要

平成30年度保健事業の実施内容

事業名	目的	目標	対象者	事業内容	方法	実施者	期間	場所	評価
受診動員	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	40～74歳の特定健診未受診者の減少(目標受診率:52%)	40～74歳の特定健診対象者	受診動員	・健(検)診申込アンケートの実施・保健福祉推進員によるアンケート未提出者への個別訪問 ・アンケートで「実施しない」と答えた方への電話動員・個別訪問(健康づくり婦人会・保健福祉推進員) ・職員による声かけ・個別受診の電話動員・個別訪問(保健福祉推進員) ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員	平成30年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率
若年者健診	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	若年者への健診を誘導し、受診を促す(目標受診率:20%)	20～39歳の国保加入者	若年者健診	20～39歳の国保加入者への無料健診の実施	住民課	平成30年度	村民会館	若年者健診受診率
未受診者対策	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	40～74歳の特定健診未受診者の減少(目標受診率:52%)	40～74歳の特定健診対象者	受診動員	・集団検診後、保健福祉推進員及び健康づくり婦人会による受診動員 職員による声かけ ・個別受診の電話動員・個別訪問(保健福祉推進員) ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	平成30年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率
ハイリスク保健指導	病気の早期発見、早期治療による重症化予防	特定健診結果要医療者の医療機関受診率の向上(目標受診率:70%)	特定健診受診者のうち要医療者 重症化予防対策の取り組み抽出	ハイリスク保健指導	・健診結果要医療者に対し紹介状作成 ・個別に医療機関受診動員 ・重症化予防対策取り組みによる抽出者に対し、健診結果確認や面接による情報収集を行うとともに、必要時は医療機関受診を勧める ・受診結果の確認	保健師 保健福祉推進員	平成30年度	被保険者宅 役場	要医療者の医療機関受診率
個別保健指導	健康への正しい理解と生活習慣の改善を促す	指導対象者の保健指導実施率向上と生活習慣の改善(目標実施率:40%)	特定健診による特定保健指導対象者	個別面談による保健指導	・専門職による保健指導・保健師等による電話動員を行い利用勧奨する	保健師 住民課 委託業者	平成30年度	保健センター及び地区集会所	特定保健指導実施率
健康教室	健康づくりを行うことで病気の発生悪化を防ぐ	メタボリックシンドローム該当者割合の減少(前年度比2%減)	40～74歳の特定健診対象者	健康教室	健康教室運動教室自分でできる健康づくり、日々に活かせることの紹介や体験	住民課 委託業者	平成30年度	保健センター及び地区集会所	・実施回数 ・参加者人数
健康チャレンジ事業	健康活動のきっかけ作り	週2回 30分/回以上の運動習慣がない人の割合減少(男女共に50%未満)	20歳以上の村民	健康チャレンジ事業	・健康サポート事業と連動して、健康チャレンジ事業を展開 ・広報、回覧、集会や文化祭等での周知 ・事業取り組み者には特典を用意	住民課	平成30年度	役場 対象者宅 地区集会所等	・運動習慣がない人の割合減少 ・参加人数
食生活改善推進事業	食生活を見直す機会を設ける	週3回以上就寝前に夕食をとる人の減少(男女共に20%未満)	40～74歳の特定健診対象者	食生活改善推進事業	・減塩メニュー等の提案と各集落への普及活動 ・サンプル使用による各個人の食事チェックの補助(健診時等に国保連よりレンタル)	食生活改善推進委員	平成30年度	村内 村民会館	・実施回数 ・参加者人数
健診結果説明会	健診結果を見直す機会を設けることで、健康への正しい理解と生活習慣改善を促す	特定健診問診票の改善意欲なしの割合(男性:50%未満、女性:30%未満)	40～74歳の特定健診対象者	健診結果説明会	・集団健診後に健診結果説明会を行う ・広報、回覧、健診結果に折込チラシを入れ、周知・参加者特典 ・健康サポート事業と連携し、シール配布	住民課 委託業者 健康づくり婦人会	平成30年度	保健センター又は村民会館	健診結果説明会参加率

平成30年度保健事業評価計画

個別保健事業名 受診勧奨

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率:52%	平成30年度法定報告	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:50.4% ・40～74歳 (受診者数137人/272人) ・40～59歳 (受診者数20人/53人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	郵送による受診勧奨:受診対象者全員 保健福祉推進員:62人 健康づくり婦人会:延べ321人 健診申込みアンケート提出の有無に関係なく、PRも兼ねて啓発した。 5月、7月広報に掲載 健診前日から村内放送を実施した。	引き続き、保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する。
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の方法は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率:50% ②受診率:52%	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率:36% (提出者99人/受診対象者数272人) ②受診率:50.4% 健診申込みアンケートの回収率は低かったが、結果大きく受診率が上がることはなかった。	健診申込みアンケートの回収率を上げるため、回収方法を検討したり回収を兼ねた訪問勧奨を積極的に行う。
ストラクチャー	①必要な予算や人材は確保できたか ②健康づくり婦人会との連携はできたか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	①予算や人員が確保できている ②打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保できた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

平成30年度保健事業評価計画

個別保健事業名 若年者健診

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	若年者健診受診率	受診率:20%	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:17.2% (受診者数5人/対象者29人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報・村内放送の有無	訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	保健福祉推進員及び健康づくり婦人会が健診申込みアンケート提出の有無及び対象年齢関係なく、PRも兼ねて啓発した。 5月、7月広報に掲載 健診前日から村内放送を実施した。	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の内容は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率:50% ②受診率:20%	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率:36%(全体) 世帯単位で申込みアンケートを作成しているため、若者単位での回収率は求めている。 ②受診率:17.2%	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保できた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

平成30年度保健事業評価計画

個別保健事業名 未受診者対策

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率:52%	平成30年度法定報告	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:50.4% ・40～74歳 (受診者数135人/268人) ・40～59歳 (受診者数21人/56人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか	受診勧奨数 各地区で勧奨できたか	各地区で受診勧奨を実施	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	保健福祉推進員による、受診勧奨数:48人 21地区で勧奨することができた。	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の方法は適切か	健診受診率	受診率:52%	平成30年度法定報告	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率:50.4%	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか 健康づくり婦人会との連携はできたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算や人員は概ね確保できた 打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き綿密な打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

平成30年度保健事業評価計画

個別保健事業名 ハイリスク保健指導

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ医療機関を受診したか	医療機関受診率 (ハイリスク対象者/健診受診者)	医療機関受診率:70% (H29年度:61.4%) (医療機関受診者:86人/健診受診者140人)	受診状況の確認・集計 (KDB)	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	医療機関受診者:60.1% (医療機関受診者:83人/健診受診者138人) 目標は達成できなかった。	医療機関に繋がるよう勧奨方法を検討する。
アウトプット	どれだけの人に医療機関へ紹介の案内を送ったか	同左	紹介状返却率:100%(紹介状返却数/医療機関へ紹介の案内をした人数)	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	返却率:40%(2件/5件)	返却率100%になるように送付者へ電話等行う。
プロセス	対象者への紹介状が送付できたか	特定健診後、2ヶ月以内	特定健診後、2ヶ月以内に対象者へ紹介状が送付される	村より集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	健診後、早期に対象者へ紹介状を送付することができた。	引き続き、対象者が医療機関の受診に繋がるよう早期に紹介状を送付する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	引き続き綿密な打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

平成30年度保健事業評価計画

個別保健事業名 個別保健指導

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ保健指導に繋がったか	実施率	実施率:40%	平成30年度法定報告	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	全体の利用率:13.6% ・積極的支援(対象者7人) 利用者:1人 終了者:2人 ・動機付け支援(対象者15人) 利用者5人 終了者:1人	勧奨の方法を見直し、参加者増に務める。 対象者が固定化されてきているため、利用しない人への個別勧奨も検討する。
アウトプット	何人に勧奨を行ったか	勧奨者割合(勧奨した人数/対象者)	勧奨実施率:100%	村で集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	勧奨率:91.3%(21人/23人) 21人に電話勧奨を行った。	効果的な勧奨方法を引き続き検討していく。勧奨時に、保健指導の必要性を説明する。
プロセス	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に勧奨できる	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	健診結果が分かり次第、早々に勧奨を開始した。 保健指導を利用しない人の原因を分析する必要がある	実施に繋がる勧奨方法の検討をする。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託事業者とは、概ね連携できた	事業継続 終了率の増加に繋がるよう、関係機関との打合せ等、引き続き行っていく。

平成30年度保健事業評価計画

個別保健事業名 健康教室

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	対象者の健診結果の数値変化	メタボリックシンドローム該当者割合の減少	前年度より、メタボリックシンドローム該当者を2%減 (H29年度 男性:28.8% 女性:8.1%)	健診情報の確認・集計(KDB)	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性:33.3% 女性:12.1% 男女共に目標は達成できなかったが、背景には受診率向上の取り組みを強化した結果、健康意識の低い層が受診したことが要因と考える。	健診受診者が健康教室参加に繋がり、日頃から運動に取り組めるよう事業を見直していく。
アウトプット	健康運動教室等に参加したか	国保加入者の参加人数	1回あたりの参加人数:10人	村で集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数:6人 国保加入者の参加が少なかった。	自宅で簡単にできる運動を実践するなど、参加者増加に努める。
プロセス	健康運動教室等の事業内容、場所、時期は適切だったか	健康運動教室等の、事業内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に開催できたか	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	運動教室 8回開催 運動教室参加者からは、「次年度も続けてほしい。」という声もあり好評だった。 栄養教室 3回開催 調理や味付けに課題が残った。	運動教室は、事業を継続し、引き続き参加者増に向けて、内容検討していく。 栄養教室は、事業含め内容を検討する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託業者とは、概ね連携できた。	事業継続 委託業者との連携を強化する。

平成30年度保健事業評価計画

個別保健事業名 健康チャレンジ事業

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人が健康活動に取り組んだか	(健診問診の)週2回1回30分以上の運動習慣がない人の割合減少	男女共に50%未満 (H29年度 男性:59.1% 女性:71.2%)	健診情報の確認・集計(KDB)	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性:72.2% 女性:67.7% 女性は減少したが、全体的に目標には達していない。	参加者増加に向けて内容を検討する。
アウトプット	どれだけの人が健康チャレンジに取り組んだか	参加人数	参加人数:50人	村で集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数:43人(延べ307人) 20~80歳代と幅広い年代で取り組まれた。 集いの場へ伺い、健康チャレンジの紹介を行うことができた。	参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	取組者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、「健康意識が高まった」など、取り組み者の反応は良かった。	幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	事業実施するための予算は確保できた	引き続き、事業が実施できるよう打合せを行う。

平成30年度保健事業評価計画

個別保健事業名 食生活改善推進協議会

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が食生活を見直すことができたか	週3回以上就寝前に夕食をとる人の減少	男女共に20%未満 (H29年度 男性:33.3% 女性:20.5%)	健診情報の確認・集計(KDB)	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性:27.8% 女性:10.8% 男女共に、前年度に比べ減少しているが、男性は目標達成に至っていない。	目標達成に向けて、引き続き事業を実施する。
アウトプット	村民向けの食生活改善事業をどれくらい取り組んだか	実施回数	15回	村で集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	開催回数:18回 食生活の大切さを事業実施のたびに啓発できた。	参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	実施者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、取り組み者の反応は良かった。	幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 関係機関とは、概ね連携できた。	引き続き、事業が実施できるよう打合せを行う。

平成30年度保健事業評価計画

個別保健事業名 健診結果説明会

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人が健康意識が高まったか	特定健診問診票の改善意欲なしの割合	男性:50%未満 女性:30%未満	健診情報の確認・集計(KDB)	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性:51.4% 女性:27.7% 目標に到達していないが、改善に向かっている。	アンケート結果を基に参加しやすい結果説明会開催を検討していく。
アウトプット	どれだけの人が結果説明会に参加したか	結果説明会参加率 (参加者/集団健診特定健診を受診した人)	参加割合:20%	村で集計	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加割合:22.7% (参加者:22人/健診受診者:97人)	目標参加率の見直し
プロセス	健診結果説明会等の内容、場所、時期は適切だったか	健診結果説明会等の内容、場所、時期は適切だったか	参加者に聞き取り調査	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加者からは「よく分かった」「自分の健康について考えるきっかけとなった」等好評だった。	多くの方が参加できるように周知方法を検討する。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	実施するための予算が確保できている 委託業者との連携が取れる	担当部署で話し合い	H31年	事業担当 (国保担当、保健担当)	事業実施するための予算は確保できた 委託業者との連携は、概ね連携できた。	引き続き委託業者と綿密な打合せを行い、事業を実施していく。

令和元年度保健事業の実施内容

事業名	目的	目標	対象者	事業内容	方法	実施者	期間	場所	評価
受診勧奨	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	40～74歳の特定健診未受診者の減少(目標受診率:53%)	40～74歳の特定健診対象者	受診勧奨	・健(検)診申込アンケートの実施・保健福祉推進員によるアンケート未提出者への個別訪問 ・アンケートで「実施しない」と答えた方への電話勧奨・個別訪問(健康づくり婦人会・保健福祉推進員) ・職員による声かけ・個別受診の電話勧奨・個別訪問(保健福祉推進員) ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員	令和元年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率
若年者健診	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	若年者への健診を誘導し、受診を促す(目標受診率:20%)	20～39歳の国保加入者	若年者健診	20～39歳の国保加入者への無料健診の実施	住民課	令和元年度	村民会館	若年者健診受診率
未受診者対策	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	40～74歳の特定健診未受診者の減少(目標受診率:53%)	40～74歳の特定健診対象者	受診勧奨	・集団検診後、保健福祉推進員及び健康づくり婦人会による受診勧奨 職員による声かけ ・個別受診の電話勧奨・個別訪問(保健福祉推進員) ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	令和元年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率
ハイリスク保健指導	病気の早期発見、早期治療による重症化予防	特定健診結果要医療者の医療機関受診率の向上(目標受診率:70%)	特定健診受診者のうち要医療者 重症化予防対策の取り組み抽出	ハイリスク保健指導	・健診結果要医療者に対し紹介状作成 ・個別に医療機関受診勧奨 ・重症化予防対策取り組みによる抽出者に対し、健診結果確認や面接による情報収集を行うとともに、必要時は医療機関受診を勧める ・受診結果の確認	保健師 保健福祉推進員	令和元年度	被保険者宅 役場	要医療者の医療機関受診率
個別保健指導	健康への正しい理解と生活習慣の改善を促す	指導対象者の保健指導実施率向上と生活習慣の改善(目標実施率:40%)	特定健診による特定保健指導対象者	個別面談による保健指導	・専門職による保健指導・保健師等による電話勧奨を行い利用勧奨する	保健師 住民課 委託業者	令和元年度	保健センター及び地区集会所	特定保健指導実施率
健康教室	健康づくりを行うことで病気の発生悪化を防ぐ	メタボリックシンドローム該当者割合の減少(前年度比2%減)	40～74歳の特定健診対象者	健康教室	健康教室運動教室自分のできる健康づくり、日々に活かせることの紹介や体験	住民課 委託業者	令和元年度	保健センター及び地区集会所	・実施回数 ・参加者人数
健康チャレ	健康活動のきっかけ作り	週2回 30分/回以上の運動習慣がない人の割合減少(男女共に50%未満)	20歳以上の村民	健康チャレンジ事業	・健康サポート事業と連動して、健康チャレンジ事業を展開 ・広報、回覧、集会や文化祭等での周知 ・事業取り組み者には特典を用意	住民課	令和元年度	役場 対象者宅 地区集会所等	・運動習慣がない人の割合減少 ・参加者人数
食生活改善推進事業	食生活を見直す機会を設ける	週3回以上就寝前に夕食をとる人の減少(男女共に20%未満)	40～74歳の特定健診対象者	食生活改善推進事業	・減塩メニュー等の提案と各集落への普及活動 ・サンプル使用による各個人の食事チェックの補助(健診時等に国保連よりレンタル)	食生活改善推進委員	令和元年度	村内 村民会館	・実施回数 ・参加者人数
健診結果説明会	健診結果を見直す機会を設けることで、健康への正しい理解と生活習慣改善を促す	特定健診問診票の改善意欲なしの割合(男性:50%未満、女性:30%未満)	40～74歳の特定健診対象者	健診結果説明会	・集団健診後に健診結果説明会を行う ・広報、回覧、健診結果に折込チラシを入れ、周知・参加者特典 ・健康サポート事業と連携し、シール配布	住民課 委託業者 健康づくり婦人会	令和元年度	保健センター又は村民会館	健診結果説明会参加率

令和元年度保健事業評価計画

個別保健事業名 受診勧奨

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率：53%	令和元年度法定報告	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：50.4% ・40～74歳 (受診者数135人/268人) ・40～59歳 (受診者数21人/56人) 目標達成はできなかった。	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	①訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	郵送による受診勧奨：受診対象者全員 保健福祉推進員：95人 健康づくり婦人会：延べ322人 健診申込みアンケート提出の有無に関係なく、PRも兼ねて啓発。 5月、7月広報に掲載 健診前日から村内放送を実施した。	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する。
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の内容は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率：50% ②受診率：53%	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率：70% (提出者199人/受診対象者数286人) ②受診率：50.4% 保健福祉推進員を中心に勧奨したことで、回収率も上がった。	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	①必要な予算や人材は確保できたか ②健康づくり婦人会との連携はできたか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	①予算や人員が確保できている ②打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保できた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和元年度保健事業評価計画

個別保健事業名 若年者健診

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	若年者健診受診率	受診率：20%	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：17.9% (受診者数5人/対象者28人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報・村内放送の有無	未提出者のうち、50%	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診勧奨者率：43.8人 (訪問者/アンケート、未提出対象者) 保健福祉推進員及び健康づくり婦人会が健診申込みアンケート提出の有無及び対象年齢関係なく、PRも兼ねて啓発した。	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する
プロセス	受診勧奨の時期は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率：50% ②受診率：20%	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率：50% 世帯単位で申込みアンケートを作成しているため、若者単位での回収率は求めている。 ②受診率：17.9%	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保できた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和元年度保健事業評価計画

個別保健事業名 未受診者対策

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率：53%	令和元年度法定報告	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：50.4% ・40～74歳 (受診者数135人/268人) ・40～59歳 (受診者数21人/56人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか	受診勧奨数 各地区で勧奨できたか	①対象者のうち：100人 ②各地区で受診勧奨を実施	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	保健福祉推進員による、受診勧奨数：50人 21地区で勧奨することができた。	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の方法は適切か	健診受診率	受診率：53%	令和元年度法定報告	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：50.4% 未受診者に聞き取りすると、通院中や多忙等の理由により、受診に繋がっていないケースが多かった。	未受診者に対して、健診の必要性や、健診を受けてくれそうな効果的な勧奨時期や方法を検討する。
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか 健康づくり婦人会との連携はできたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算や人員は概ね確保できた 打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和元年度保健事業評価計画

個別保健事業名 ハイリスク保健指導

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ医療機関を受診したか	医療機関受診率 (ハイリスク対象者/健診受診者)	医療機関受診率：70% (H30年度：61.1%) (医療機関受診者：83人/健診受診者138人)	受診状況の確認・集計 (KDB)	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	医療機関受診者:54.1% (医療機関受診者：73人/健診受診者135人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨率 (勧奨者数/ハイリスク対象者)	受診勧奨率 (勧奨者数/ハイリスク対象者)	勧奨実施率：100%	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	勧奨実施率：100%	事業継続
プロセス	対象者への紹介状が送付できたか	特定健診後、2ヶ月以内	特定健診後、2ヶ月以内に対象者へ紹介状が送付される	村より集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	健診後、早期に対象者へ紹介状を送付することができた。	引き続き、対象者が医療機関の受診に繋がるよう早期に紹介状を送付する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	事業検討

令和元年度保健事業評価計画

個別保健事業名 個別保健指導

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ保健指導に繋がったか	実施率	実施率：40%	令和元年度法定報告	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	全体の利用率:50.0% ・積極的支援(対象者4人) 利用者:1人 終了者:1人 ・動機付け支援(対象者14人) 利用者6人 終了者:8人	勧奨の方法を見直し、参加者増に務める。対象者が固定化されているため、利用しない人への個別勧奨も検討する。
アウトプット	何人に勧奨を行ったか	勧奨者割合（勧奨した人数/対象者）	勧奨実施率：100%	村で集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	勧奨率:77.8%（14人/18人） 13人に電話勧奨 1人に訪問・郵送勧奨	効果的な勧奨方法を引き続き検討していく。
プロセス	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に勧奨できる	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	健診結果が分かり次第、早々に勧奨を開始した。 保健指導を利用しない人の原因を分析する必要がある	実施に繋がる勧奨方法の検討。 次年度は、健診勧奨で保健指導の勧奨を実施する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託事業者とは、概ね連携できた	終了率の増加に繋がるよう、関係機関との打合せ等、引き続き行っている。

令和元年度保健事業評価計画

個別保健事業名 健康教室

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	対象者の健診結果の数値変化	メタボリックシンドローム該当者割合の減少	前年度より、メタボリックシンドローム該当者を2%減 (H30年度 男性：33.3% 女性：12.1%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：30.9% 女性：7.5% 男女ともに2%の目標を達成した。	引き続き健診受診者が健康教室参加に繋がりを、日頃から運動に取り組めるよう事業を進めていく。
アウトプット	健康運動教室等に参加したか	国保加入者の参加人数	1回あたりの参加人数：10人	村で集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数：3.5人 国保加入者の参加が少なかった。	参加者増に向けて、事業内容を検討する。
プロセス	健康運動教室等の事業内容、場所、時期は適切だったか	健康運動教室等の、事業内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に開催できたか	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	・運動教室を22回開催 ・参加者からは、「次年度も続けてほしい。」という声もあり好評だった。 ・アンケートの中に、運動を取り組み始めた人の割合が57%だった。	運動教室は、事業を継続し、引き続き参加者増に向けて、内容検討していく。 栄養教室は、事業含め内容を検討する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託業者とは、概ね連携できた。	委託業者との連携を強化する。

令和元年度保健事業評価計画

個別保健事業名 健康チャレンジ事業

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が健康活動に取組んだか	(健診問診の) 週2回1回30分以上の運動習慣がない人の割合減少	男女共に50%未満 (H30年度 男性：72.2% 女性：67.7%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：77.9% 女性：76.9%	参加者増加に向けて内容を検討する。
アウトプット	どれだけの方が健康チャレンジに取組んだか	参加人数	参加人数：50人	村で集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数：35人(延べ195人)	事業継続 参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	取組者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、取り組み者の反応は良かった。 健康まつりや文化祭等で、健康チャレンジの取り組みなどを紹介できた。	事業継続 幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	事業実施するための予算は確保できた	引き続き、事業が実施できるように打合せを行う。

令和元年度保健事業評価計画

個別保健事業名 食生活改善推進協議会

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が食生活を見直すことができたか	週3回以上就寝前に夕食をとる人の減少	男女共に20%未満 (H30年度 男性：27.8% 女性：10.8%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：38.2% 女性：13.8% 男女共に、前年度より増加したが、受診率向上の取り組みを強化した結果、健康意識の低い層が受診したことが要因と考える	目標達成に向けて、引き続き事業を実施する。
アウトプット	村民向けの食生活改善事業をどれくらい取り組んだか	実施回数	15回	村で集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	開催回数：16回 食生活の大切さを事業実施のたびに啓発できた。	参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	実施者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、取り組み者の反応は良かった。	幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 関係機関とは、概ね連携できた。	引き続き、事業が実施できるよう打合せを行う。

令和元年度保健事業評価計画

令和元年度保健事業評価計画				個別保健事業名 健診結果説明会				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人健康意識が高まったか	特定健診問診票の改善意欲なしの割合	男性：50%未満 女性：30%未満 (H30年度 男性：51.4% 女性：27.7%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：41.2% 女性：29.2%	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化するとともに、健診の継続受診の必要性を伝えていく。
アウトプット	どれだけの人結果説明会に参加したか	結果説明会参加率 (参加者/集団健診特定健診を受診した人)	参加割合：20%	村で集計	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加割合：16.2% (参加者：16人/健診受診者：99人)	参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	健診結果説明会等の内容、場所、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	参加者に聞き取り調査	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	・参加者から好評だった。 ・昼夜開催することで、男性の参加も見られ、反応もよかった。 ・個別の声がけにより、若い世代の参加に繋がった。 ・健診結果に合わせ、運動教室を開催することで、運動教室への参加に繋がった。	参加者が固定化してきたため、多くの方が参加できるよう周知方法を検討する。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	実施するための予算が確保できている 委託業者との連携が取れる	担当部署で話し合い	R02年	事業担当 (国保担当、保健担当)	事業実施するための予算は確保できた 委託業者との連携は、概ね連携できた。	引き続き委託業者と綿密な打合せを行い、事業を実施していく。

令和2年度保健事業の実施内容

事業名	目的	目標	対象者	事業内容	方法	実施者	期間	場所	評価
受診動奨	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	40～74歳の特定健診未受診者の減少(目標受診率:54%)	40～74歳の特定健診対象者	受診動奨	・健(検)診申込アンケートの実施・保健福祉推進員によるアンケート未提出者への個別訪問 ・アンケートで「実施しない」と答えた方への電話動奨・個別訪問(健康づくり婦人会・保健福祉推進員) ・職員による声かけ・個別受診の電話動奨・個別訪問(保健福祉推進員) ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	令和2年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率
若年者健診	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	若年者への健診を誘導し、受診を促す(目標受診率:20%)	20～39歳の国保加入者	若年者健診	20～39歳の国保加入者への無料健診の実施	住民課	令和2年度	村民会館	若年者健診受診率
未受診者対策	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	40～74歳の特定健診未受診者の減少(目標受診率:54%)	40～74歳の特定健診対象者	受診動奨	・集団検診後、保健福祉推進員及び健康づくり婦人会による受診動奨 職員による声かけ ・個別受診の電話動奨・個別訪問(保健福祉推進員) ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	令和2年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率
ハイリスク保健指導	病気の早期発見、早期治療による重症化予防	特定健診結果受診動奨対象者の医療機関受診率の向上(目標受診率:90%)	特定健診受診者のうち要精密者、要医療者 重症化予防対策の取り組み抽出	ハイリスク保健指導	・健診結果要精密者、要医療者に対し紹介状作成 ・個別に医療機関受診動奨 ・重症化予防対策取り組みによる抽出者に対し、健診結果確認や面接による情報収集を行うとともに、必要時は医療機関受診を勧める ・受診結果の確認	保健師 保健福祉推進員	令和2年度	被保険者宅 役場	受診動奨対象者の医療機関受診率
個別保健指導	健康への正しい理解と生活習慣の改善を促す	指導対象者の保健指導実施率向上と生活習慣の改善(目標実施率:40%)	特定健診による特定保健指導対象者	個別面談による保健指導	・専門職による保健指導・保健師等による電話動奨を行い利用動奨する	保健師 住民課 委託業者	令和2年度	保健センター及び地区集会所	特定保健指導実施率
健康教室	健康づくりを行うことで病気の発生悪化を防ぐ	メタボリックシンドローム該当者割合の減少(前年度比2%減)	40～74歳の特定健診対象者	健康教室	健康教室運動教室自分のできる健康づくり、日々に活かせることの紹介や体験	住民課 委託業者	令和2年度	保健センター及び地区集会所	・実施回数 ・参加者人数
健康チャレンジ事業	健康活動のきっかけ作り	週2回 30分/回以上の運動習慣がない人の割合減少(男女共に50%未満)	20歳以上の村民	健康チャレンジ事業	・健康サポート事業と連動して、健康チャレンジ事業を展開 ・広報、回覧、集会や文化祭等での周知 ・事業取り組み者には特典を用意	住民課	令和2年度	役場 対象者宅 地区集会所等	・運動習慣がない人の割合減少 ・参加人数
食生活改善推進事業	食生活を見直す機会を設ける	週3回以上就寝前に夕食をとる人の減少(男女共に20%未満)	40～74歳の特定健診対象者	食生活改善推進事業	・減塩メニュー等の提案と各集落への普及活動 ・サンプル使用による各個人の食事チェックの補助(健診時等に国保連よりレンタル)	食生活改善推進委員	令和2年度	村内 村民会館	・実施回数 ・参加者人数
健診結果説明会	健診結果を見直す機会を設けることで、健康への正しい理解と生活習慣改善を促す	特定健診問診票の改善意欲なしの割合(男性:50%未満、女性:30%未満)	40～74歳の特定健診対象者	健診結果説明会	・集団健診後に健診結果説明会を行う ・広報、回覧、健診結果に折込チラシを入れ、周知・参加者特典 ・健康サポート事業と連携し、シール配布	住民課 委託業者 健康づくり婦人会	令和2年度	保健センター又は村民会館	健診結果説明会参加率

令和2年度保健事業評価計画

個別保健事業名 受診勧奨

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率：54%	令和2年度法定報告	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：44.5% ・40～74歳 (受診者数117人/263人) ・40～59歳 (受診者数21人/58人) 目標達成はできなかった。	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	郵送による受診勧奨：受診対象者全員 保健福祉推進員及び健康づくり婦人会が健診申込みアンケート提出の有無及び対象年齢関係なく、PRも兼ねて啓発 ・延べ119名 健診前日から村内放送の実施	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する。
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の内容は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率：50% ②受診率：54%	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率：92% (提出者207人/受診対象者数225人) ②受診率：44.5% 保健福祉推進員を中心に勧奨したことで、回収率も上がった。	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	①必要な予算や人材は確保できたか ②健康づくり婦人会との連携はできたか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	①予算や人員が確保できている ②打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保できた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和2年度保健事業評価計画

個別保健事業名 若年者健診

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	若年者健診受診率	受診率：20%	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：19.0% (受診者数4人/対象者21人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	郵送による受診勧奨：受診対象者全員 保健福祉推進員及び健康づくり婦人会が健診申込みアンケート提出の有無及び対象年齢関係なく、PRも兼ねて啓発 ・延べ119名 健診前日から村内放送の実施	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する
プロセス	受診勧奨の時期は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率：50% ②受診率：20%	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率：33.3% (回収数7人/対象者21人) ②受診率：19.0%	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保できた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和2年度保健事業評価計画

個別保健事業名 未受診者対策

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率：54%	令和2年度法定報告	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：44.5% ・40～74歳 (受診者数117人/263人) ・40～59歳 (受診者数21人/58人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	保健福祉推進員及び健康づくり婦人会が健診申込みアンケート提出の有無及び対象年齢関係なく、PRも兼ねて啓発 ・延べ119名 健診前日から村内放送の実施	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の方法は適切か	健診受診率	受診率：54%	令和元年度法定報告	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：44.5% 未受診者に聞き取りすると、通院中や多忙等の理由により、受診に繋がっていないケースが多かった。	未受診者に対して、健診の必要性や、健診を受けてくれそうな効果的な勧奨時期や方法を検討する。
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか 健康づくり婦人会との連携はできたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算や人員は概ね確保できた 打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和2年度保健事業評価計画

個別保健事業名 ハイリスク保健指導

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ医療機関を受診したか	医療機関受診率 (医療機関受診率/受診勧奨者率)	医療機関受診率：90%	地域の全体像の把握 (KDB)	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	医療機関受診者:91.5% (医療機関受診率54.7%/受診勧奨者率59.8%)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨率 (勧奨者数/ハイリスク対象者)	受診勧奨率 (勧奨者数/ハイリスク対象者)	勧奨実施率：100%	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	勧奨実施率：100%	事業継続
プロセス	対象者への紹介状が送付できたか	特定健診後、2ヶ月以内	特定健診後、2ヶ月以内に対象者へ紹介状が送付される	村より集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	健診後、早期に対象者へ紹介状を送付することができた。	引き続き、対象者が医療機関の受診に繋がるよう早期に紹介状を送付する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	引き続き綿密な打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和2年度保健事業評価計画

個別保健事業名 個別保健指導

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ保健指導に繋がったか	実施率	実施率：40%	令和2年度法定報告	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	全体の利用率:62.5% ・積極的支援(対象者4人) 利用者:3人 終了者:3人 ・動機付け支援(対象者12人) 利用者5人 終了者:7人	勧奨の方法を見直し、参加者増に務める。対象者が固定化されてきているため、利用しない人への個別勧奨も検討する。
アウトプット	何人に勧奨を行ったか	勧奨者割合（勧奨した人数/対象者）	勧奨実施率：100%	村で集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	勧奨率:87.5%（14人/16人）	効果的な勧奨方法を引き続き検討していく。
プロセス	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に勧奨できる	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	健診結果が分かり次第、早々に勧奨を開始した。 保健指導を利用しない人の原因を分析する必要がある	実施に繋がる勧奨方法の検討。 引き続き、健診勧奨で保健指導の勧奨を実施する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託事業者とは、概ね連携できた	終了率の増加に繋がるよう、関係機関との打合せ等、引き続き行っている。

令和2年度保健事業評価計画

個別保健事業名 健康教室

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	対象者の健診結果の数値変化	メタボリックシンドローム該当者割合の減少	前年度より、メタボリックシンドローム該当者を2%減 (R1年度 男性：30.9% 女性：7.5%)	地域の全体像の把握 (KDB)	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：33.9% 女性：8.6% 男女ともにわずかに増加傾向であるが、国と比較して特に高い数値ではない。	引き続き健診受診者が健康教室参加に繋が り、日頃から運動に取り組めるよう事業を進めていく。
アウトプット	健康運動教室等に参加したか	国保加入者の参加人数	1回あたりの参加人数：10人	村で集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数：2.0人 国保加入者の参加が少なかった。	参加者増に向けて、事業内容を検討する。
プロセス	健康運動教室等の事業内容、場所、時期は適切だったか	健康運動教室等の、事業内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に開催できたか	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	・運動教室を23回開催	運動教室は、事業を継続し、引き続き参加者増に向けて、内容検討していく。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託業者とは、概ね連携できた。	委託業者との連携を強化する。

令和2年度保健事業評価計画

個別保健事業名 健康チャレンジ事業

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が健康活動に取組んだか	(健診問診の) 週2回1回30分以上の運動習慣がない人の割合減少	男女共に50%未満 (R元年度 男性：77.9% 女性：76.9%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：84.7% 女性：77.6%	参加者増加に向けて内容を検討する。
アウトプット	どれだけの方が健康チャレンジに取組んだか	参加人数	参加人数：50人	村で集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数：31人(延べ277人) 新型コロナウイルスの影響もあり、参加人数は減少した。	事業継続 参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	取組者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、取り組み者の反応は良かった。 健康まつりや文化祭等で、健康チャレンジの取り組みなどを紹介できた。	事業継続 幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	事業実施するための予算は確保できた	引き続き、事業が実施できるように打合せを行う。

令和2年度保健事業評価計画

個別保健事業名 食生活改善推進協議会

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が食生活を見直すことができたか	週3回以上就寝前に夕食をとる人の減少	男女共に20%未満 (R元年度 男性：38.2% 女性：13.8%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：28.8% 女性：6.9% 男女共に、前年度より大幅に減少した。	目標達成に向けて、引き続き事業を実施する。
アウトプット	村民向けの食生活改善事業をどれくらい取り組んだか	実施回数	15回	村で集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	開催回数：16回 食生活の大切さを事業実施のたびに啓発できた。	参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	実施者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、取り組み者の反応は良かった。	幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 関係機関とは、概ね連携できた。	引き続き、事業が実施できるよう打合せを行う。

令和2年度保健事業評価計画

令和2年度保健事業評価計画				個別保健事業名 健診結果説明会				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が健康意識が高まったか	特定健診問診票の改善意欲なしの割合	男性：50%未満 女性：30%未満 (R元年度 男性：41.2% 女性：29.2%)	健診情報の確認・集計 (KDB)	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：42.4% 女性：27.6%	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化するとともに、健診の継続受診の必要性を伝えていく。
アウトプット	どれだけの方が結果説明会に参加したか	結果説明会参加率 (参加者/集団健診特定健診を受診した人)	参加割合：20%	村で集計	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加割合：14.6% (参加者：13人/健診受診者：89人)	参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	健診結果説明会等の内容、場所、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	参加者に聞き取り調査	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	・参加者から好評だった。 ・昼夜開催することで、男性の参加も見られ、反応もよかった。 ・個別の声がけにより、若い世代の参加に繋がった。 ・健診結果に合わせ、運動教室を開催することで、運動教室への参加に繋がった。	参加者が固定化してきたため、多くの方が参加できるよう周知方法を検討する。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	実施するための予算が確保できている 委託業者との連携が取れる	担当部署で話し合い	R03年	事業担当 (国保担当、保健担当)	事業実施するための予算は確保できた 委託業者との連携は、概ね連携できた。	引き続き委託業者と綿密な打合せを行い、事業を実施していく。

令和3年度保健事業の実施内容

事業名	目的	目標	対象者	事業内容	方法	実施者	期間	場所	評価
受診勧奨	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	40～74歳の特定健診未受診者の減少(目標受診率:55%)	40～74歳の特定健診対象者	受診勧奨	・健(検)診申込アンケートの実施・保健福祉推進員によるアンケート未提出者への個別訪問 ・アンケートで「実施しない」と答えた方への電話勧奨・個別訪問(健康づくり婦人会・保健福祉推進員) ・職員による声かけ・個別受診の電話勧奨・個別訪問(保健福祉推進員) ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	令和3年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率
若年者健診	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	若年者への健診を誘導し、受診を促す(目標受診率:20%)	20～39歳の国保加入者	若年者健診	20～39歳の国保加入者への無料健診の実施	住民課	令和3年度	村民会館	若年者健診受診率
未受診者対策	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	40～74歳の特定健診未受診者の減少(目標受診率:55%)	40～74歳の特定健診対象者	受診勧奨	・集団検診後、保健福祉推進員及び健康づくり婦人会による受診勧奨 職員による声かけ ・個別受診の電話勧奨・個別訪問(保健福祉推進員) ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	令和3年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率
ハイリスク保健指導	病気の早期発見、早期治療による重症化予防	特定健診結果受診勧奨対象者の医療機関受診率の向上(目標受診率:90%)	特定健診受診者のうち要精密者、要医療者 重症化予防対策の取り組み抽出	ハイリスク保健指導	・健診結果要精密者、要医療者に対し紹介状作成 ・個別に医療機関受診勧奨 ・重症化予防対策取り組みによる抽出者に対し、健診結果確認や面接による情報収集を行うとともに、必要時は医療機関受診を勧める ・受診結果の確認	保健師 保健福祉推進員	令和3年度	被保険者宅 役場	受診勧奨対象者の医療機関受診率
個別保健指導	健康への正しい理解と生活習慣の改善を促す	指導対象者の保健指導実施率向上と生活習慣の改善(目標実施率:40%)	特定健診による特定保健指導対象者	個別面談による保健指導	・専門職による保健指導・保健師等による電話勧奨を行い利用勧奨する	保健師 住民課 委託業者	令和3年度	保健センター及び地区集会所	特定保健指導実施率
健康教室	健康づくりを行うことで病気の発生悪化を防ぐ	メタボリックシンドローム該当者割合の減少(前年度比2%減)	40～74歳の特定健診対象者	健康教室	健康教室運動教室自分のできる健康づくり、日々に活かせることの紹介や体験	住民課 委託業者	令和3年度	保健センター及び地区集会所	・実施回数 ・参加者人数
健康チャレンジ事業	健康活動のきっかけ作り	週2回 30分/回以上の運動習慣がない人の割合減少(男女共に50%未満)	20歳以上の村民	健康チャレンジ事業	・健康パスポート事業と連動して、健康チャレンジ事業を展開 ・広報、回覧、集会や文化祭等での周知 ・事業取り組み者には特典を用意	住民課	令和3年度	役場 対象者宅 地区集会所等	・運動習慣がない人の割合減少 ・参加人数
食生活改善推進事業	食生活を見直す機会を設ける	週3回以上就寝前に夕食をとる人の減少(男女共に20%未満)	40～74歳の特定健診対象者	食生活改善推進事業	・減塩メニュー等の提案と各集落への普及活動 ・サンプル使用による各個人の食事チェックの補助(健診時等に国保連よりレンタル)	食生活改善推進委員	令和3年度	村内 村民会館	・実施回数 ・参加者人数
健診結果説明会	健診結果を見直す機会を設けることで、健康への正しい理解と生活習慣改善を促す	特定健診問診票の改善意欲なしの割合(男性:50%未満、女性:30%未満)	40～74歳の特定健診対象者	健診結果説明会	・集団健診後に健診結果説明会を行う ・広報、回覧、健診結果に折込チラシを入れ、周知・参加者特典 ・健康パスポート事業と連携し、シール配布	住民課 委託業者 健康づくり婦人会	令和3年度	保健センター又は村民会館	健診結果説明会参加率

令和3年度保健事業評価計画

個別保健事業名 受診勧奨

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率：55%	令和3年度法定報告	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：52.9% ・40～74歳 (受診者数136人/257人) ・40～59歳 (受診者数29人/57人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	郵送による受診勧奨：受診対象者全員 保健福祉推進員及び健康づくり婦人会が健診申込みアンケート提出の有無及び対象年齢関係なく、PRも兼ねて啓発 ・国保被保険者延べ196名 健診前日から村内放送の実施	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する。
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の内容は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率：50% ②受診率：55%	村より集計	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率：65.1% (提出者192人/受診対象者数295人) ②受診率：52.9% 保健福祉推進員を中心に勧奨したことで、回収率も上がった。	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	①必要な予算や人材は確保できたか ②健康づくり婦人会との連携はできたか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	①予算や人員が確保できている ②打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保できた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和3年度保健事業評価計画

個別保健事業名 若年者健診

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	若年者健診受診率	受診率：20%	村より集計	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：29.4% (受診者数10人/対象者34人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	郵送による受診勧奨：受診対象者全員 保健福祉推進員及び健康づくり婦人会が健診申込みアンケート提出の有無及び対象年齢関係なく、PRも兼ねて啓発 ・国保被保険者延べ196名 健診前日から村内放送の実施	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する
プロセス	受診勧奨の時期は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率：50% ②受診率：20%	村より集計	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率：55.9% (回収数19人/対象者34人) ②受診率：29.4%	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保できた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和3年度保健事業評価計画

個別保健事業名 未受診者対策

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率：55%	令和3年度法定報告	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：52.9% ・40～74歳 (受診者数136人/257人) ・40～59歳 (受診者数29人/57人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	保健福祉推進員及び健康づくり婦人会が健診申込みアンケート提出の有無及び対象年齢関係なく、PRも兼ねて啓発 ・国保被保険者延べ196名 健診前日から村内放送の実施	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の方法は適切か	健診受診率	受診率：55%	令和3年度法定報告	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：52.9% 未受診者に聞き取りすると、通院中や多忙等の理由により、受診に繋がっていないケースが多かった。	未受診者に対して、健診の必要性や、健診を受けてくれそうな効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか 健康づくり婦人会との連携はできたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算や人員は概ね確保できた 打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和3年度保健事業評価計画

個別保健事業名 ハイリスク保健指導

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ医療機関を受診したか	医療機関受診率 (医療機関受診率/受診勧奨者率)	医療機関受診率：90%	地域の全体像の把握 (KDB)	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	医療機関受診者:86.0% (医療機関受診率49.6%/受診勧奨者率57.7%)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨率 (勧奨者数/ハイリスク対象者)	受診勧奨率 (勧奨者数/ハイリスク対象者)	勧奨実施率：100%	村より集計	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	勧奨実施率：100%	事業継続
プロセス	対象者への紹介状が送付できたか	特定健診後、2ヶ月以内	特定健診後、2ヶ月以内に対象者へ紹介状が送付される	村より集計	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	健診後、早期に対象者へ紹介状を送付することができた。	引き続き、対象者が医療機関の受診に繋がるよう早期に紹介状を送付する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	引き続き綿密な打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和3年度保健事業評価計画

個別保健事業名 個別保健指導

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ保健指導に繋がったか	実施率	実施率：40%	令和3年度法定報告	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	全体の利用率:30.8% ・積極的支援(対象者6人) 利用者:1人 終了者:1人 ・動機付け支援(対象者20人) 利用者7人 終了者:7人	勧奨の方法を見直し、参加者増に務める。対象者が固定化されてきているため、利用しない人への個別勧奨も検討する。
アウトプット	何人に勧奨を行ったか	勧奨者割合（勧奨した人数/対象者）	勧奨実施率：100%	村で集計	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	勧奨率:92.3%（24人/26人）	効果的な勧奨方法を引き続き検討していく。
プロセス	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に勧奨できる	担当部署で話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	健診結果が分かり次第、早々に勧奨を開始した。 保健指導を利用しない人の原因を分析する必要がある	実施に繋がる勧奨方法の検討。 引き続き、健診勧奨で保健指導の勧奨を実施する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託事業者とは、概ね連携できた	終了率の増加に繋がるよう、関係機関との打合せ等、引き続き行っている。

令和3年度保健事業評価計画

個別保健事業名 健康教室

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	対象者の健診結果の数値変化	メタボリックシンドローム該当者割合の減少	前年度より、メタボリックシンドローム該当者を2%減 (R2年度 男性：33.9% 女性：8.6%)	地域の全体像の把握 (KDB)	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：37.3% 女性：9.7% 前年度に引き続き、男女ともに増加傾向であるが、背景には受診率向上の取り組みを強化した結果、受診率が向上し健康意識の低い層が受診したことが要因と考える。	引き続き健診受診者が健康教室参加に繋がりを、日頃から運動に取り組めるよう事業を進めていく。
アウトプット	健康運動教室等に参加したか	国保加入者の参加人数	1回あたりの参加人数：10人	村で集計	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数：1.7人 国保加入者の参加が少なかった。	参加者増に向けて、事業内容を検討する。
プロセス	健康運動教室等の事業内容、場所、時期は適切だったか	健康運動教室等の、事業内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に開催できたか	担当部署で話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	ライザップを講師として招くなど運動教室を24回開催	運動教室は、事業を継続し、引き続き参加者増に向けて、内容検討していく。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託業者とは、概ね連携できた。	委託業者との連携を強化する。

令和3年度保健事業評価計画

個別保健事業名 健康チャレンジ事業

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が健康活動に取組んだか	(健診問診の) 週2回1回30分以上の運動習慣がない人の割合減少	男女共に50%未満 (R2年度 男性：84.7% 女性：77.6%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：65.3% 女性：75.4%	参加者増加に向けて内容を検討する。
アウトプット	どれだけの方が健康チャレンジに取組んだか	参加人数	参加人数：50人	村で集計	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数：34人(延べ363人)	事業継続 参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	取組者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、取り組み者の反応は良かった。 健康まつりや文化祭等で、健康チャレンジの取り組みなどを紹介できた。	事業継続 幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	事業実施するための予算は確保できた	引き続き、事業が実施できるように打合せを行う。

令和3年度保健事業評価計画

個別保健事業名 食生活改善推進協議会

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が食生活を見直すことができたか	週3回以上就寝前に夕食をとる人の減少	男女共に20%未満 (R2年度 男性：28.8% 女性：6.9%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：29.3% 女性：13.1%	目標達成に向けて、引き続き事業を実施する。
アウトプット	村民向けの食生活改善事業をどれくらい取り組んだか	実施回数	15回	村で集計	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	開催回数：9回 新型コロナウイルスの影響により実施回数は減少したが、食生活の大切さを事業実施のたびに啓発できた。	参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	実施者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、取り組み者の反応は良かった。	幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 関係機関とは、概ね連携できた。	引き続き、事業が実施できるよう打合せを行う。

令和3年度保健事業評価計画

令和3年度保健事業評価計画				個別保健事業名 健診結果説明会				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が健康意識が高まったか	特定健診問診票の改善意欲なしの割合	男性：50%未満 女性：30%未満 (R2年度 男性：42.4% 女性：27.6%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：50.7% 女性：27.9%	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化するとともに、健診の継続受診の必要性を伝えていく。
アウトプット	どれだけの方が結果説明会に参加したか	結果説明会参加率 (参加者/集団健診特定健診を受診した人)	参加割合：20%	村で集計	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加割合：1.9% (参加者：2人/健診受診者：106人) ※南部は悪天候のため中止	参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	健診結果説明会等の内容、場所、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	参加者に聞き取り調査	担当部署で話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	・参加者からは好評であるが、悪天候の影響で南部では開催できなかった。	参加者が固定化してきたため、多くの方が参加できるよう周知方法を検討する。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	実施するための予算が確保できている 委託業者との連携が取れる	担当部署で話し合い	R04年	事業担当 (国保担当、保健担当)	事業実施するための予算は確保できた 委託業者との連携は、概ね連携できた。	引き続き委託業者と綿密な打合せを行い、事業を実施していく。

令和4年度保健事業の実施内容

事業名	目的	目標	対象者	事業内容	方法	実施者	期間	場所	評価
受診勧奨	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	40～74歳の特定健診未受診者の減少(目標受診率:56%)	40～74歳の特定健診対象者	受診勧奨	・健(検)診申込アンケートの実施・保健福祉推進員によるアンケート未提出者への個別訪問 ・アンケートで「実施しない」と答えた方への電話勧奨・個別訪問(健康づくり婦人会・保健福祉推進員) ・職員による声かけ・個別受診の電話勧奨・個別訪問(保健福祉推進員) ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	令和4年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率
若年者健診	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	若年者への健診を誘導し、受診を促す(目標受診率:20%)	20～39歳の国保加入者	若年者健診	20～39歳の国保加入者への無料健診の実施	住民課	令和4年度	村民会館	若年者健診受診率
未受診者対策	住民全体、特に若い世代の健康意識の向上及び健康管理	40～74歳の特定健診未受診者の減少(目標受診率:56%)	40～74歳の特定健診対象者	受診勧奨	・集団検診後、保健福祉推進員及び健康づくり婦人会による受診勧奨 職員による声かけ ・個別受診の電話勧奨・個別訪問(保健福祉推進員) ・広報等によるPR活動	住民課 保健福祉推進員 健康づくり婦人会	令和4年度	村内及び役場	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率
ハイリスク保健指導	病気の早期発見、早期治療による重症化予防	特定健診結果受診勧奨対象者の医療機関受診率の向上(目標受診率:90%)	特定健診受診者のうち要精密者、要医療者 重症化予防対策の取り組み抽出	ハイリスク保健指導	・健診結果要精密者、要医療者に対し紹介状作成 ・個別に医療機関受診勧奨 ・重症化予防対策取り組みによる抽出者に対し、健診結果確認や面接による情報収集を行うとともに、必要時は医療機関受診を勧める ・受診結果の確認	保健師 保健福祉推進員	令和4年度	被保険者宅 役場	受診勧奨対象者の医療機関受診率
個別保健指導	健康への正しい理解と生活習慣の改善を促す	指導対象者の保健指導実施率向上と生活習慣の改善(目標実施率:40%)	特定健診による特定保健指導対象者	個別面談による保健指導	・専門職による保健指導・保健師等による電話勧奨を行い利用勧奨する	保健師 住民課 委託業者	令和4年度	保健センター及び地区集会所	特定保健指導実施率
健康教室	健康づくりを行うことで病気の発生悪化を防ぐ	メタボリックシンドローム該当者割合の減少(前年度比2%減)	40～74歳の特定健診対象者	健康教室	健康教室運動教室自分のできる健康づくり、日々に活かせることの紹介や体験	住民課 委託業者	令和4年度	保健センター及び地区集会所	・実施回数 ・参加者人数
健康チャレンジ事業	健康活動のきっかけ作り	週2回 30分/回以上の運動習慣がない人の割合減少(男女共に50%未満)	20歳以上の村民	健康チャレンジ事業	・健康パスポート事業と連動して、健康チャレンジ事業を展開 ・広報、回覧、集会や文化祭等での周知 ・事業取り組み者には特典を用意	住民課	令和4年度	役場 対象者宅 地区集会所等	・運動習慣がない人の割合減少 ・参加人数
食生活改善推進事業	食生活を見直す機会を設ける	週3回以上就寝前に夕食をとる人の減少(男女共に20%未満)	40～74歳の特定健診対象者	食生活改善推進事業	・減塩メニュー等の提案と各集落への普及活動 ・サンプル使用による各個人の食事チェックの補助(健診時等に国保連よりレンタル)	食生活改善推進委員	令和4年度	村内 村民会館	・実施回数 ・参加者人数
健診結果説明会	健診結果を見直す機会を設けることで、健康への正しい理解と生活習慣改善を促す	特定健診問診票の改善意欲なしの割合(男性:50%未満、女性:30%未満)	40～74歳の特定健診対象者	健診結果説明会	・集団健診後に健診結果説明会を行う ・広報、回覧、健診結果に折込チラシを入れ、周知・参加者特典 ・健康パスポート事業と連携し、シール配布	住民課 委託業者 健康づくり婦人会	令和4年度	保健センター又は村民会館	健診結果説明会参加率

令和4年度保健事業評価計画

個別保健事業名 受診勧奨

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率：56%	令和4年度法定報告	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：52.9% ・40～74歳 (受診者数135人/255人) ・40～59歳 (受診者数29人/63人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	郵送による受診勧奨：受診対象者全員 保健福祉推進員及び健康づくり婦人会が健診申込みアンケート提出の有無及び対象年齢関係なく、PRも兼ねて啓発 ・国保被保険者延べ153名 健診前日から村内放送の実施	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する。
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の内容は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率：50% ②受診率：56%	村より集計	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率：61.0% (提出者169人/受診対象者数277人) ②受診率：52.9% 保健福祉推進員を中心に勧奨したことで、回収率も上がった。	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	①必要な予算や人材は確保できたか ②健康づくり婦人会との連携はできたか	①予算確保及び執行状況 ②打合せ等が適切に行われたか	①予算や人員が確保できている ②打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保できた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和4年度保健事業評価計画

個別保健事業名 若年者健診

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	若年者健診受診率	受診率：20%	村より集計	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：35.5% (受診者数11人/対象者31人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか 広報・村内放送	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	郵送による受診勧奨：受診対象者全員 保健福祉推進員及び健康づくり婦人会が健診申込みアンケート提出の有無及び対象年齢関係なく、PRも兼ねて啓発 ・国保被保険者延べ153名 健診前日から村内放送の実施	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する
プロセス	受診勧奨の時期は適切か	①健診申込みアンケートの回収率 ②健診受診率	①回収率：50% ②受診率：20%	村より集計	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①回収率：58.1% (回収数18人/対象者31人) ②受診率：35.5%	健診申込みアンケートの内容の検討を行うとともに、より効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等を行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	①予算や人員は概ね確保できた ②打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和4年度保健事業評価計画

個別保健事業名 未受診者対策

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの人々が健康意識が向上し、健康管理ができるようになったか	特定健診受診率 ・40～74歳の受診率 ・40～59歳の受診率	受診率：56%	令和4年度法定報告	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：52.9% ・40～74歳 (受診者数135人/255人) ・40～59歳 (受診者数29人/63人)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨をどれだけ行ったか	受診対象者全員 広報、村内放送の有無	訪問勧奨 ・各地区で受診勧奨を実施 ・広報へ掲載 ・村内放送	村より集計	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	保健福祉推進員及び健康づくり婦人会が健診申込みアンケート提出の有無及び対象年齢関係なく、PRも兼ねて啓発 ・国保被保険者延べ153名 健診前日から村内放送の実施	保健福祉推進員を中心に、目標達成に向けて個別勧奨を強化する
プロセス	受診勧奨の時期は適切か 受診勧奨の方法は適切か	健診受診率	受診率：56%	令和4年度法定報告	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	受診率：52.9% 未受診者に聞き取りすると、通院中や多忙等の理由により、受診に繋がっていないケースが多かった。	未受診者に対して、健診の必要性や、健診を受けてくれそうな効果的な勧奨時期や方法等を検討する。
ストラクチャー	必要な予算や人材は確保できたか 健康づくり婦人会との連携はできたか	予算確保及び執行状況 打合せ等が適切に行われたか	予算や人員が確保できている 打合せ等行う体制が整っている	担当部署で話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算や人員は概ね確保できた 打合せ等スムーズに行うことができ、連携体制は十分だった。	引き続き打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和4年度保健事業評価計画

個別保健事業名 ハイリスク保健指導

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ医療機関を受診したか	医療機関受診率 (医療機関受診率/受診勧奨者率)	医療機関受診率：90%	地域の全体像の把握 (KDB)	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	医療機関受診者:85.5% (医療機関受診率44.4%/受診勧奨者率51.9%)	受診率向上に向けて、個別受診勧奨を強化する
アウトプット	受診勧奨率 (勧奨者数/ハイリスク対象者)	受診勧奨率 (勧奨者数/ハイリスク対象者)	勧奨実施率：100%	村より集計	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	勧奨実施率：100%	事業継続
プロセス	対象者への紹介状が送付できたか	特定健診後、2ヶ月以内	特定健診後、2ヶ月以内に対象者へ紹介状が送付される	村より集計	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	健診後、早期に対象者へ紹介状を送付することができた。	引き続き、対象者が医療機関の受診に繋がるよう早期に紹介状を送付する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた	引き続き綿密な打合せを十分行い、情報共有を徹底する。

令和4年度保健事業評価計画

個別保健事業名 個別保健指導

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけ保健指導に繋がったか	実施率	実施率：40%	令和4年度法定報告	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	全体の利用率:60.7% ・積極的支援(対象者6人) 利用者:4人 終了者:3人 ・動機付け支援(対象者22人) 利用者14人 終了者:14人	勧奨の方法を見直し、参加者増に務める。対象者が固定化されてきているため、利用しない人への個別勧奨も検討する。
アウトプット	何人に勧奨を行ったか	勧奨者割合（勧奨した人数/対象者）	勧奨実施率：100%	村で集計	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	勧奨率:92.9%（26人/28人）	効果的な勧奨方法を引き続き検討していく。
プロセス	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	保健指導勧奨方法や、指導の内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に勧奨できる	担当部署で話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	健診結果が分かり次第、早々に勧奨を開始した。 保健指導を利用しない人の原因を分析する必要がある	実施に繋がる勧奨方法の検討。 引き続き、健診勧奨で保健指導の勧奨を実施する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託事業者とは、概ね連携できた	終了率の増加に繋がるよう、関係機関との打合せ等、引き続き行っている。

令和4年度保健事業評価計画

個別保健事業名 健康教室

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	対象者の健診結果の数値変化	メタボリックシンドローム該当者割合の減少	前年度より、メタボリックシンドローム該当者を2%減 (R3年度 男性：37.3% 女性：9.7%)	地域の全体像の把握 (KDB)	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：33.3% 女性：8.3% 女性は目標を達成できなかったが、男女共に減少傾向にある。	取組により国保加入者に運動習慣は身についたこと、また国と比較してメタボ該当者が高い数値ではないため、本事業はR4年度で終了とし、別途効果的な取組を検討する。
アウトプット	健康運動教室等に参加したか	国保加入者の参加人数	1回あたりの参加人数：10人	村で集計	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数：1.0人 国保加入者の参加が少なかった。	事業の見直しを実施しているが参加者増には繋がらず、国保加入者向けには別途効果的な取組を検討する。
プロセス	健康運動教室等の事業内容、場所、時期は適切だったか	健康運動教室等の、事業内容、場所、時期は適切だったか	適切な時期に開催できたか	担当部署で話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	・運動教室を26回開催	事業の見直しを実施しているが参加者増には繋がらず、国保加入者向けには別途効果的な取組を検討する。
ストラクチャー	予算の確保や委託業者との連携体制は整っていたか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 委託業者とは、概ね連携できた。	-

令和4年度保健事業評価計画

個別保健事業名 健康チャレンジ事業

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が健康活動に取り組んだか	(健診問診の) 週2回1回30分以上の運動習慣がない人の割合減少	男女共に50%未満 (R3年度 男性：65.3% 女性：75.4%)	地域の全体像の把握(KDB)	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：66.2% 女性：66.7%	参加者増加に向けて内容を検討する。
アウトプット	どれだけの方が健康チャレンジに取り組んだか	参加人数	参加人数：50人	村で集計	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加人数：32人(延べ290人)	事業継続 参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	取組者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、取り組み者の反応は良かった。 健康まつりや文化祭等で、健康チャレンジの取り組みなどを紹介できた。	事業継続 幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	事業実施するための予算は確保できた	引き続き、事業が実施できるように打合せを行う。

令和4年度保健事業評価計画

個別保健事業名 食生活改善推進協議会

評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が食生活を見直すことができたか	週3回以上就寝前に夕食をとる人の減少	男女共に20%未満 (R3年度 男性：29.3% 女性：13.1%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：27.0% 女性：11.7% 男女共に、前年度より若干減少したが、男性は目標を達成していない。	目標達成に向けて、引き続き事業を実施する。
アウトプット	村民向けの食生活改善事業をどれくらい取り組んだか	実施回数	15回	村で集計	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	開催回数：17回 食生活の大切さを事業実施のたびに啓発できた。	参加者増加に向けて、普及啓発方法を検討する。
プロセス	事業内容、方法、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	実施者に対して、聞き取り調査	担当部署で話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	取り組み者は限定されていたが、取り組み者の反応は良かった。	幅広い層に事業に取り組んでもらえるように、周知方法や内容のバリエーションを広げる。
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	事業実施するための予算が確保できている	担当部署で話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	予算の確保はできた 関係機関とは、概ね連携できた。	引き続き、事業が実施できるよう打合せを行う。

令和4年度保健事業評価計画

令和4年度保健事業評価計画				個別保健事業名 健診結果説明会				
評価の枠組み	評価項目	評価指標	目標	評価手段	評価時期	評価体制	評価結果	今後の対策
アウトカム	どれだけの方が健康意識が高まったか	特定健診問診票の改善意欲なしの割合	男性：50%未満 女性：30%未満 (R3年度 男性：50.7% 女性：27.9%)	健診情報の確認・集計(KDB)	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	男性：41.9% 女性：30.0%	概ね目標を達成したが、参加者も固定化及び減少してきているため、本事業はR4年度で終了とし、別途効果的な取組を検討する。
アウトプット	どれだけの方が結果説明会に参加したか	結果説明会参加率 (参加者/集団健診特定健診を受診した人)	参加割合：20%	村で集計	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	参加割合：20.0% (参加者：21人/健診受診者：105人)	概ね目標を達成したが、参加者も固定化及び減少してきているため、本事業はR4年度で終了とし、別途効果的な取組を検討する。
プロセス	健診結果説明会等の内容、場所、時期は適切だったか	事業内容、方法、時期は適切だったか	参加者に聞き取り調査	担当部署で話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	・参加者から好評だった。 ・昼夜開催することで、男性の参加も見られ、反応もよかった。 ・個別の声がけにより、若い世代の参加に繋がった。 ・健診結果に合わせ、運動教室を開催することで、運動教室への参加に繋がった。	
ストラクチャー	予算の確保や関係機関との連携は十分だったか	予算の確保・執行状況	実施するための予算が確保できている 委託業者との連携が取れる	担当部署で話し合い	R05年	事業担当 (国保担当、保健担当)	事業実施するための予算は確保できた 委託業者との連携は、概ね連携できた。	

データ集

1.医療情報

①医療費について

表 1

(1)総医療費

項目	総医療費【円】											
	全体				入院				入院外			
	件数	増減	費用額	増減	件数	増減	費用額	増減	件数	増減	費用額	増減
平成28年度	3,686		161,048,450		122		70,744,480		3,564		90,303,970	
平成29年度	3,546	-140	158,244,610	-2,803,840	109	-13	65,028,330	-5,716,150	3,437	-127	93,216,280	2,912,310
平成30年度	3,329	-217	181,574,120	23,329,510	149	40	91,915,940	26,887,610	3,180	-257	89,658,180	-3,558,100
令和01年度	3,097	-232	158,451,460	-23,122,660	119	-30	71,831,010	-20,084,930	2,978	-202	86,620,450	-3,037,730
令和02年度	2,961	-136	154,624,640	-3,826,820	106	-13	74,411,660	2,580,650	2,855	-123	80,212,980	-6,407,470
令和03年度	2,945	-16	136,962,220	-17,662,420	97	-9	66,611,390	-7,800,270	2,848	-7	70,350,830	-9,862,150
令和04年度	2,839	-106	133,211,180	-3,751,040	99	2	61,173,260	-5,438,130	2,740	-108	72,037,920	1,687,090

表 2

(2)1人あたり医療費

項目	1人あたり医療費【円】※			伸び率（％）			
	全体	入院	入院外	全体	入院	入院外	
H28年度	保険者【地区】	35,990	15,810	20,180			
	同規模	26,930	11,990	14,940			
	高知県	29,350	13,370	15,980			
	国	25,340	10,150	15,190			
H29年度	保険者【地区】	36,210	14,880	21,330	1%	-6%	6%
	同規模	27,800	12,370	15,430	3%	3%	3%
	高知県	30,450	14,020	16,430	4%	5%	3%
	国	26,210	10,560	15,650	3%	4%	3%
H30年度	保険者【地区】	44,070	22,310	21,760	22%	50%	2%
	同規模	28,310	12,990	15,320	2%	5%	-1%
	高知県	30,930	14,520	16,410	2%	4%	-0%
	国	26,560	10,870	15,690	1%	3%	0%
R01年度	保険者【地区】	39,970	18,120	21,850	-9%	-19%	0%
	同規模	29,090	13,300	15,790	3%	2%	3%
	高知県	31,620	14,670	16,950	2%	1%	3%
	国	27,470	11,220	16,250	3%	3%	4%
R02年度	保険者【地区】	37,920	18,250	19,670	-5%	1%	-10%
	同規模	28,500	12,930	15,570	-2%	-3%	-1%
	高知県	31,500	14,790	16,710	-0%	1%	-1%
	国	26,960	10,990	15,970	-2%	-2%	-2%
R03年度	保険者【地区】	33,680	16,380	17,300	-11%	-10%	-12%
	同規模	29,440	13,140	16,300	3%	2%	5%
	高知県	32,570	15,230	17,340	3%	3%	4%
	国	28,470	11,480	16,990	6%	4%	6%
R04年度	保険者【地区】	33,100	15,200	17,900	-2%	-7%	3%
	同規模	29,990	13,460	16,530	2%	2%	1%
	高知県	32,440	15,040	17,400	-0%	-1%	0%
	国	29,050	11,650	17,400	2%	1%	2%

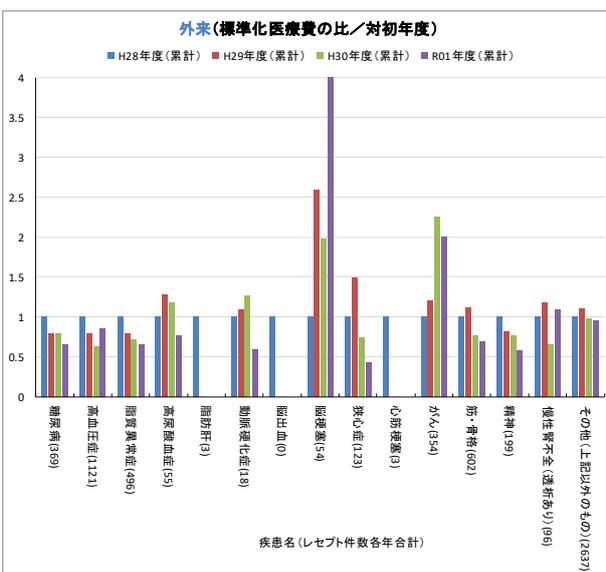
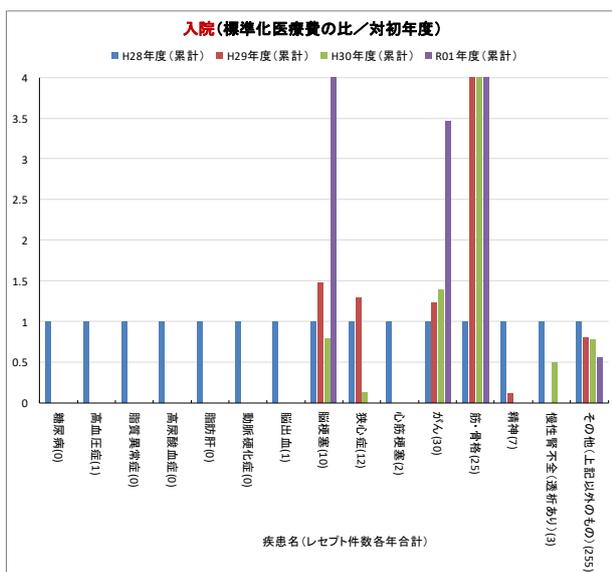
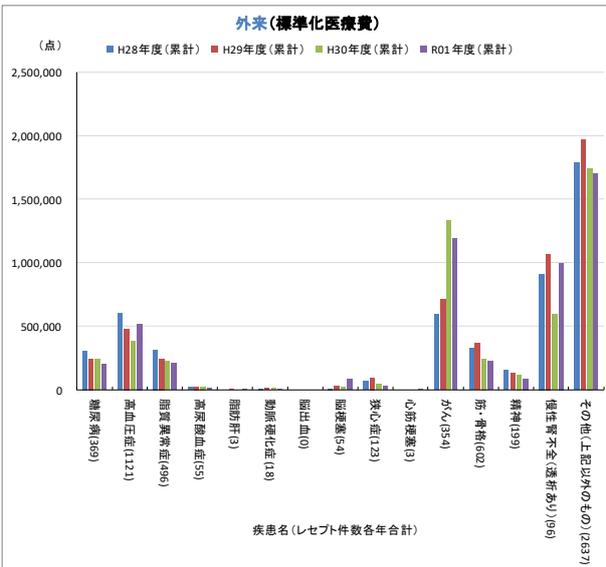
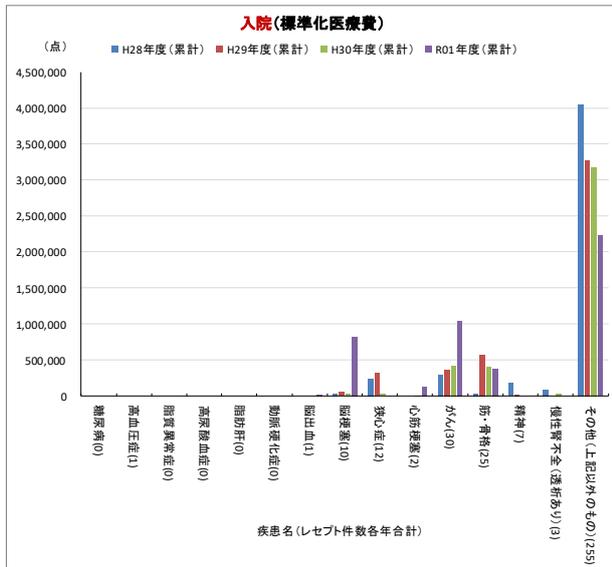
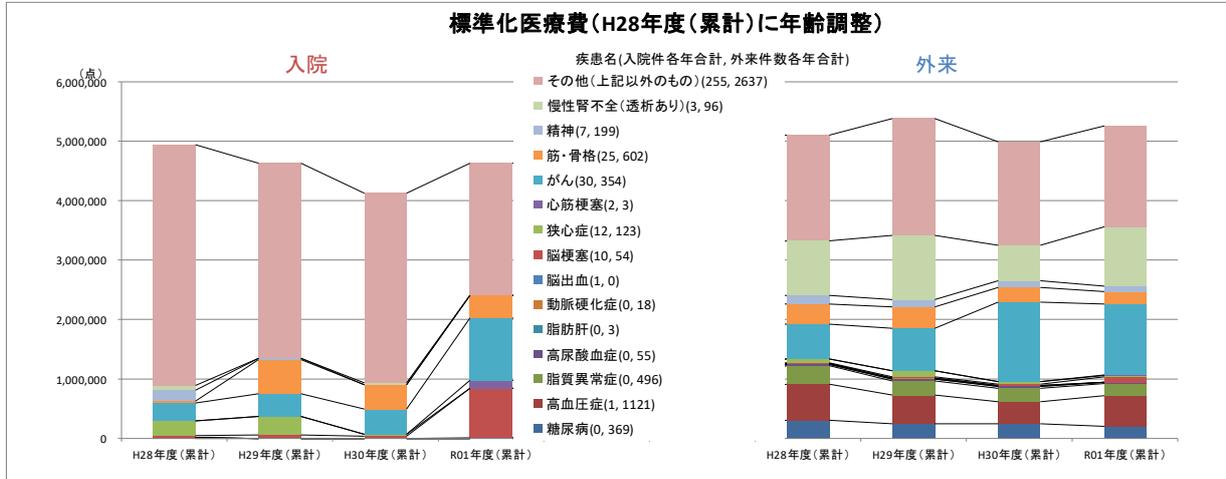
※1ヶ月医療費の年度内平均を表示

②疾病別医療費分析（生活習慣病）

図 2

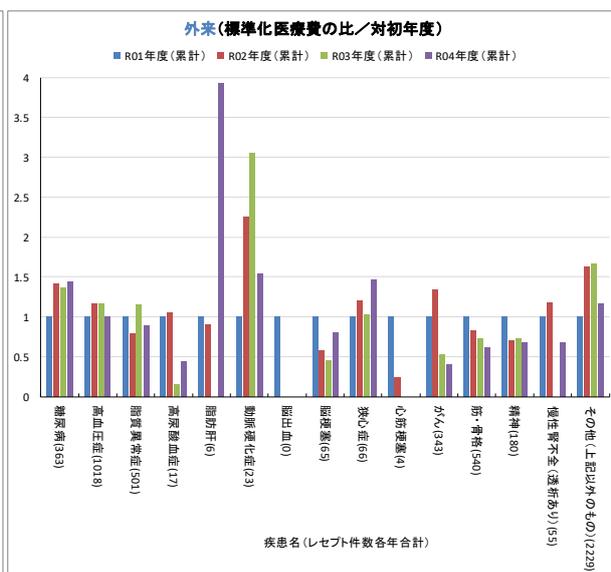
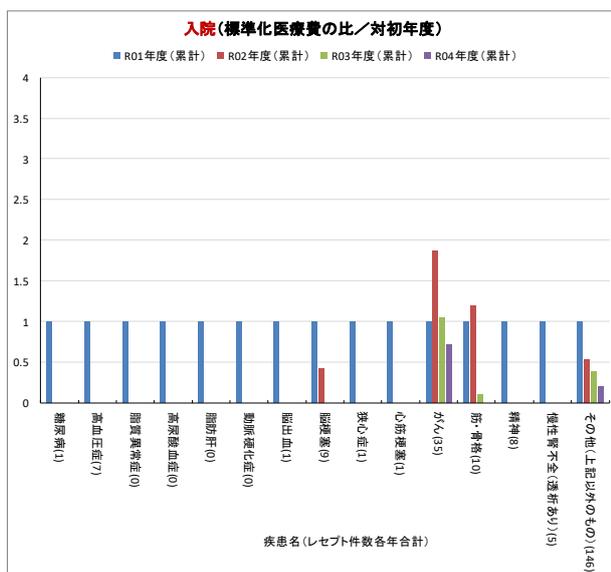
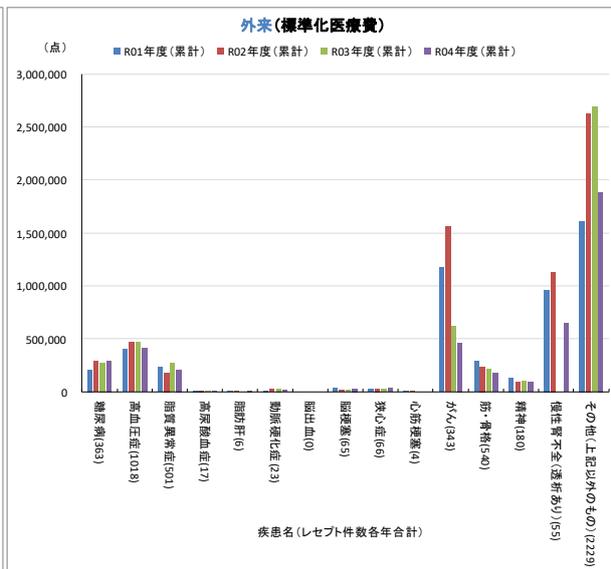
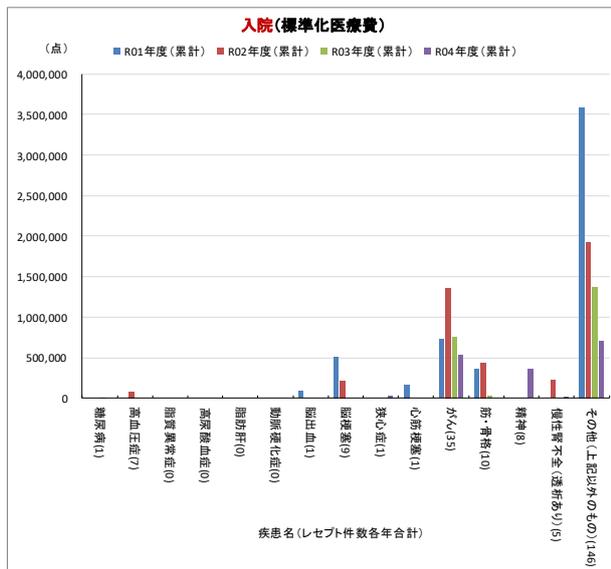
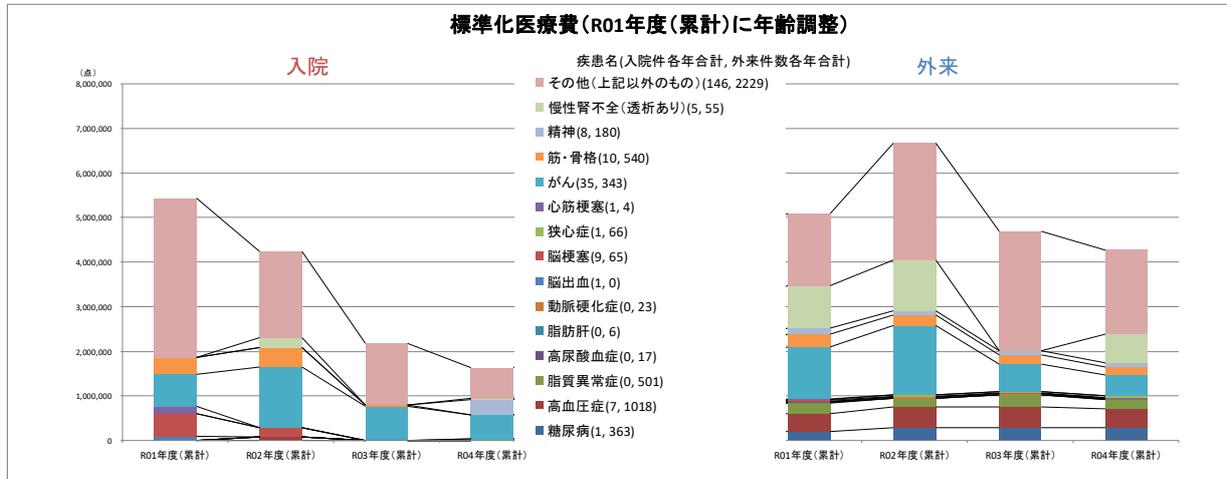
疾病別医療費分析(生活習慣病)
北川村 H28年度(累計)～R01年度(累計) 男性 0～74歳

2023年7月21日



疾病別医療費分析(生活習慣病)
北川村 R01年度(累計)~R04年度(累計) 男性 0~74歳

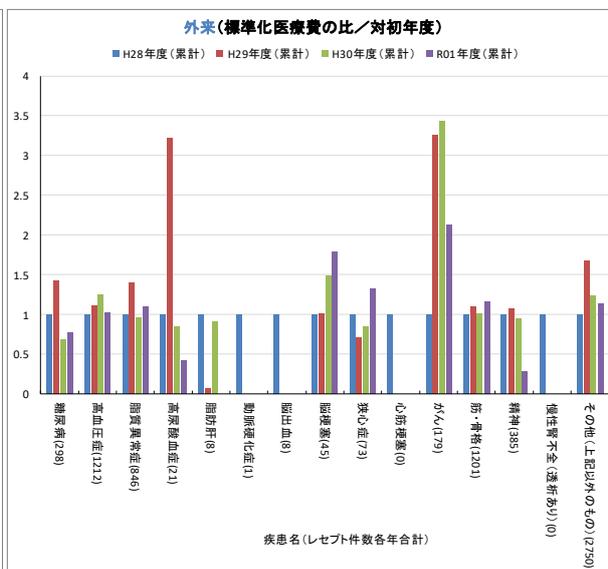
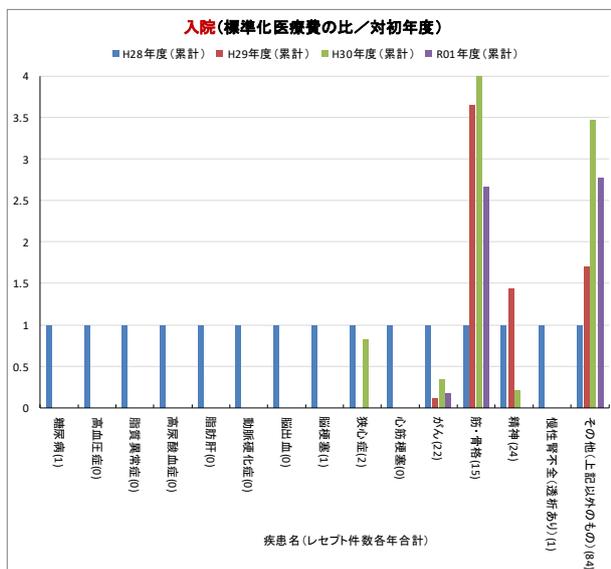
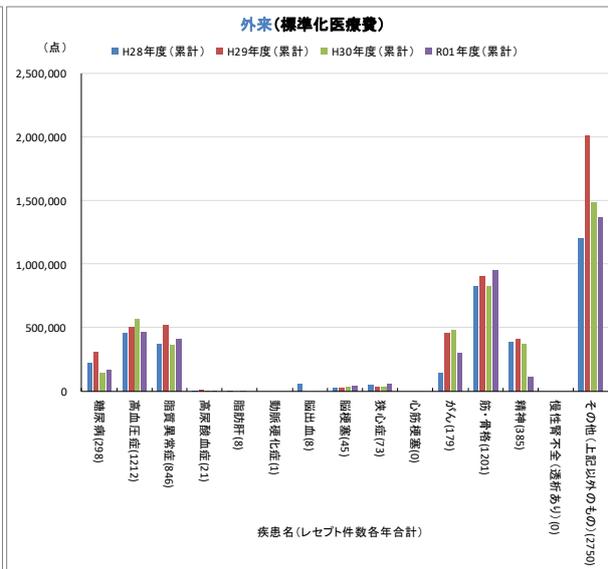
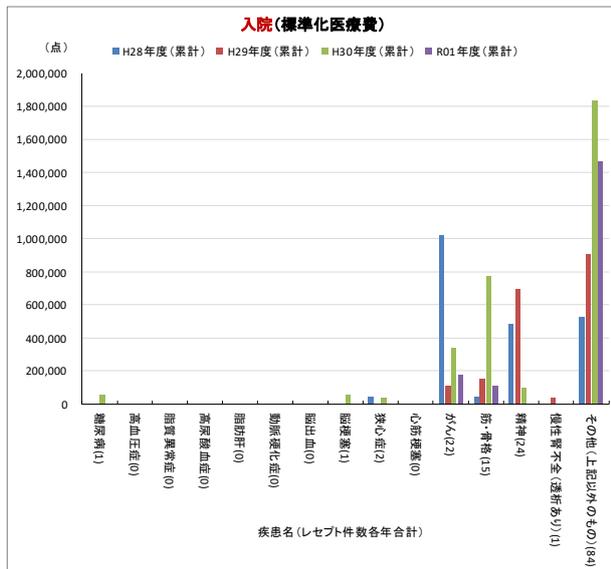
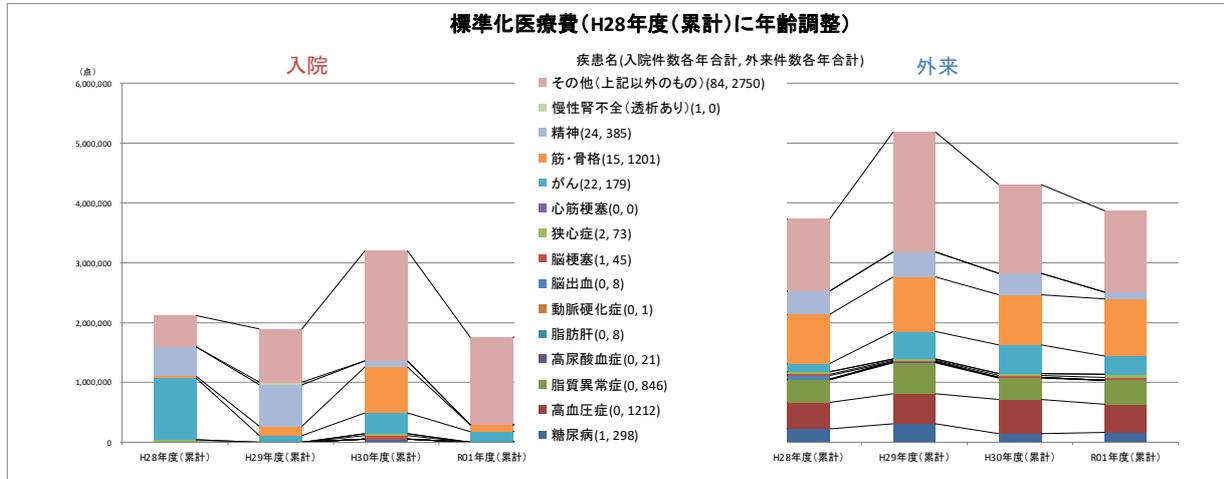
2023年7月21日



疾病別医療費分析(生活習慣病)

北川村 H28年度(累計)～R01年度(累計) 女性 0～74歳

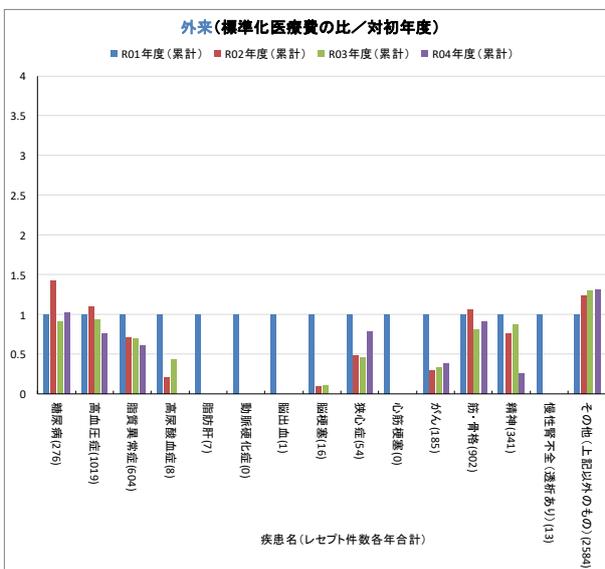
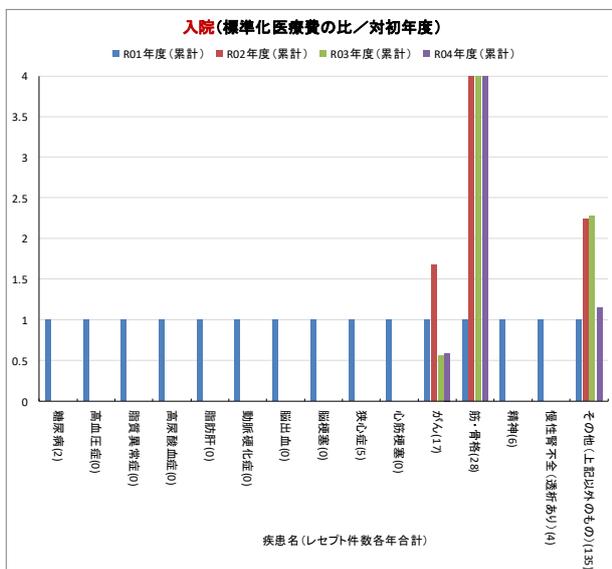
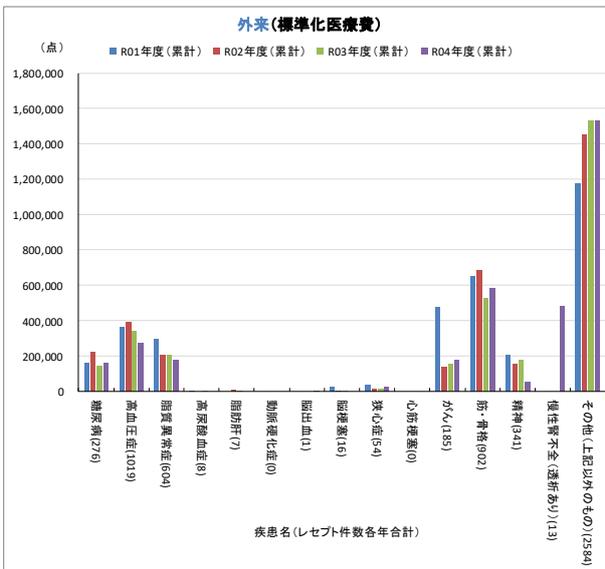
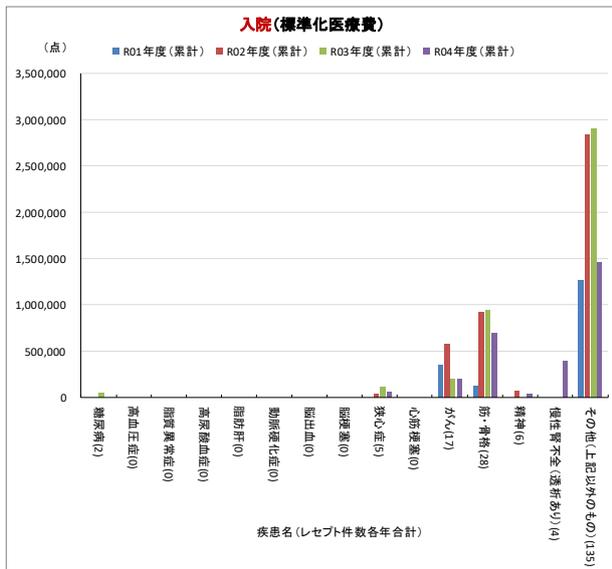
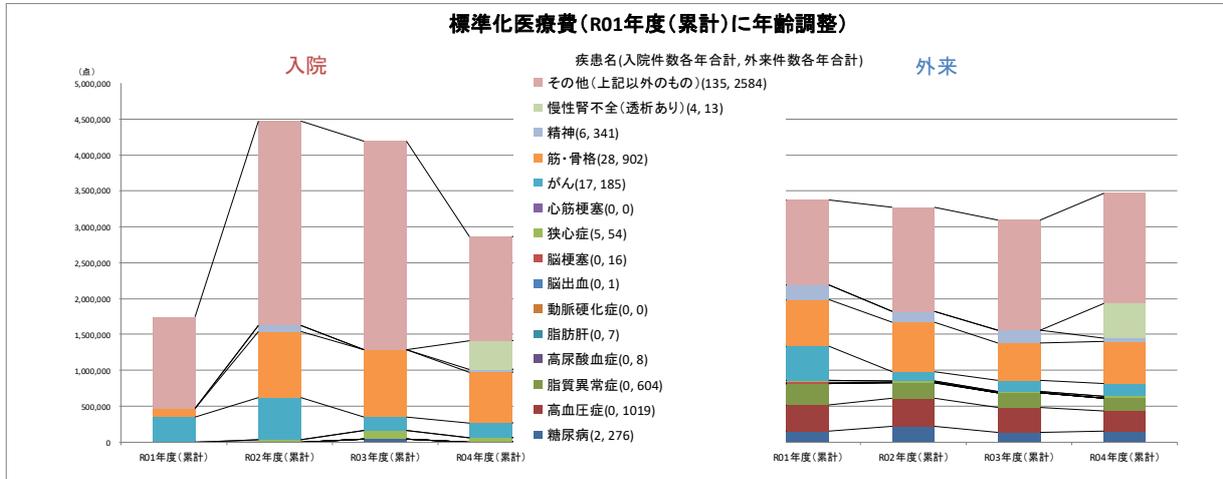
2023年7月21日



疾病別医療費分析(生活習慣病)

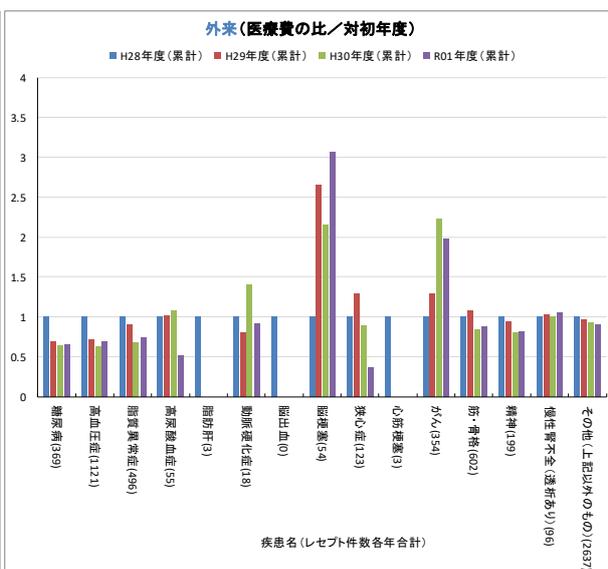
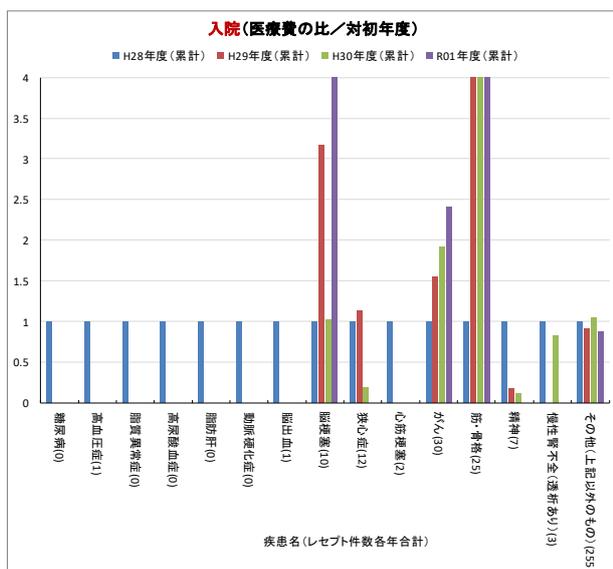
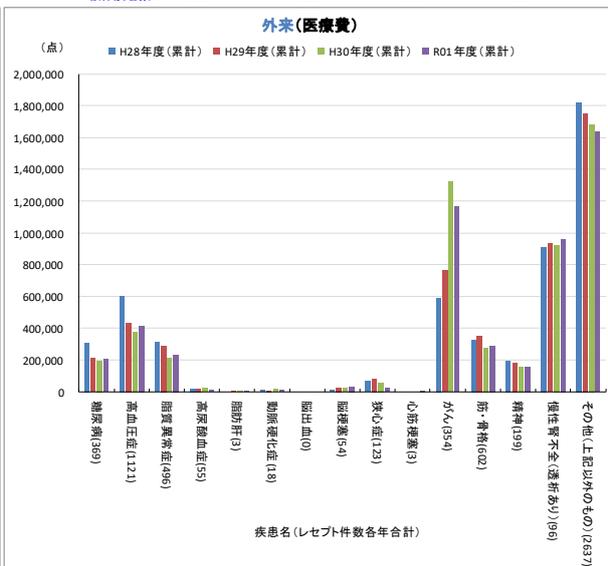
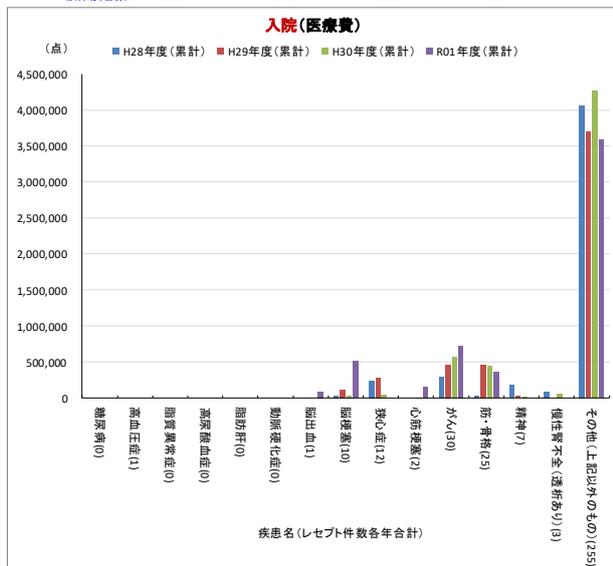
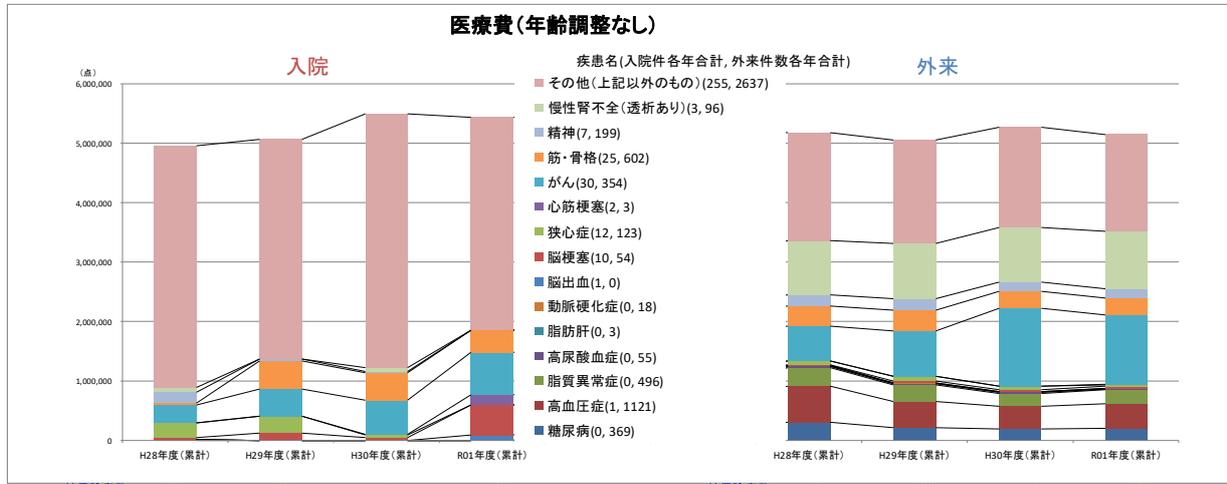
北川村 R01年度(累計)～R04年度(累計) 女性 0～74歳

2023年7月21日



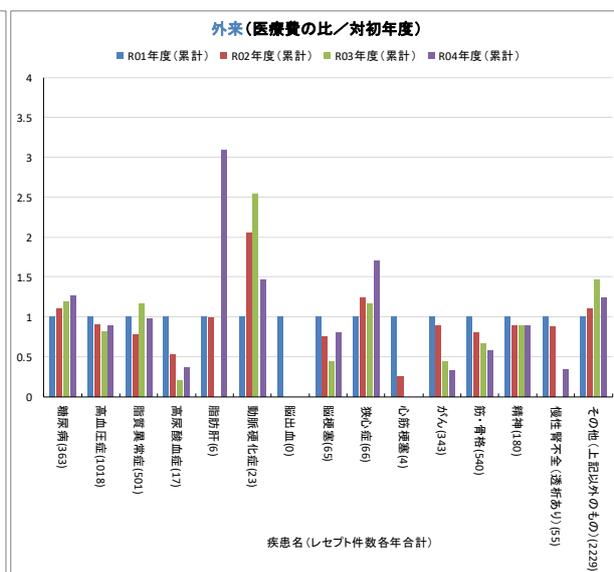
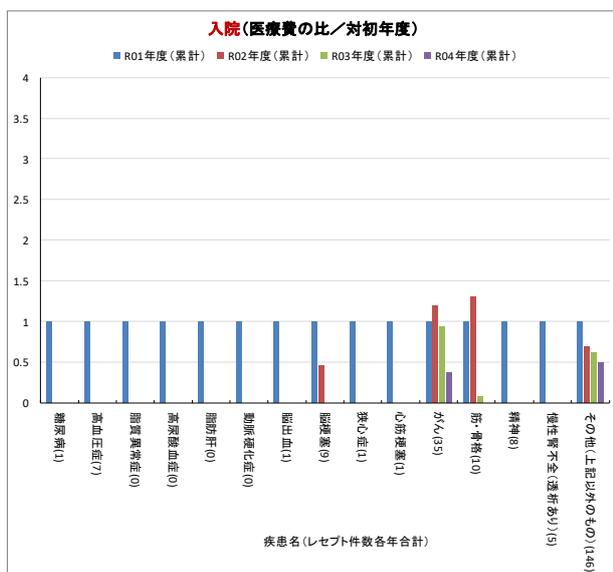
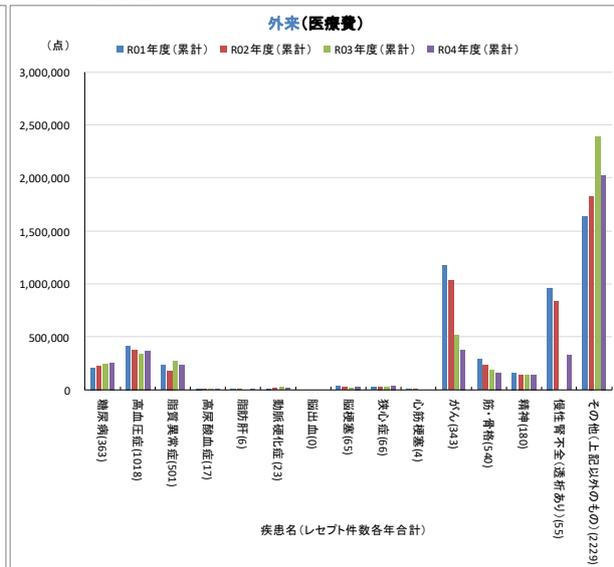
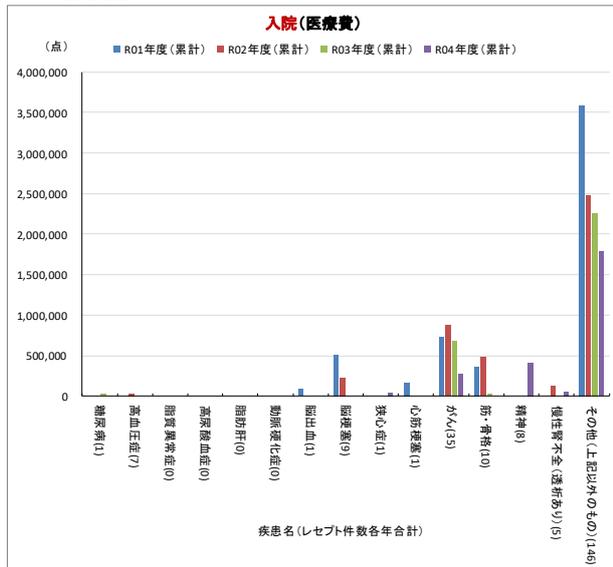
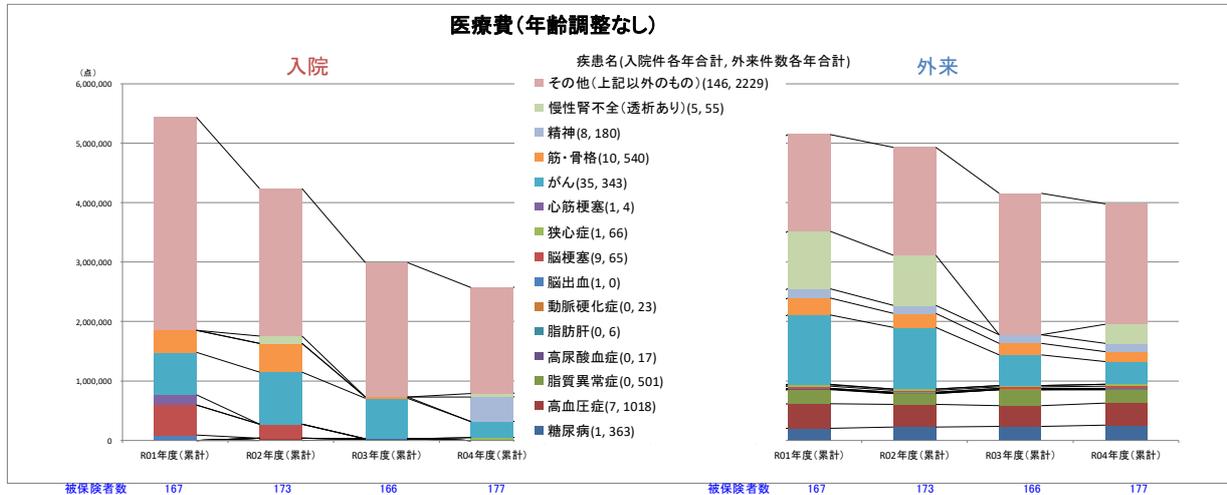
疾病別医療費分析(生活習慣病)
北川村 H28年度(累計)~R01年度(累計) 男性 0~74歳

2023年7月21日



疾病別医療費分析(生活習慣病)
北川村 R01年度(累計)~R04年度(累計) 男性 0~74歳

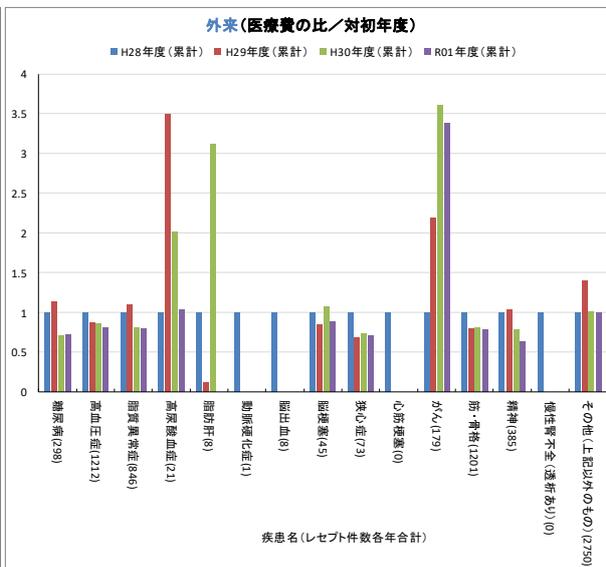
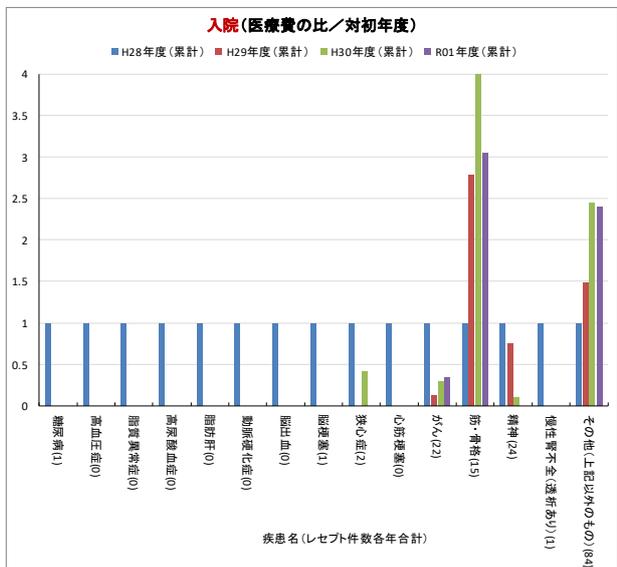
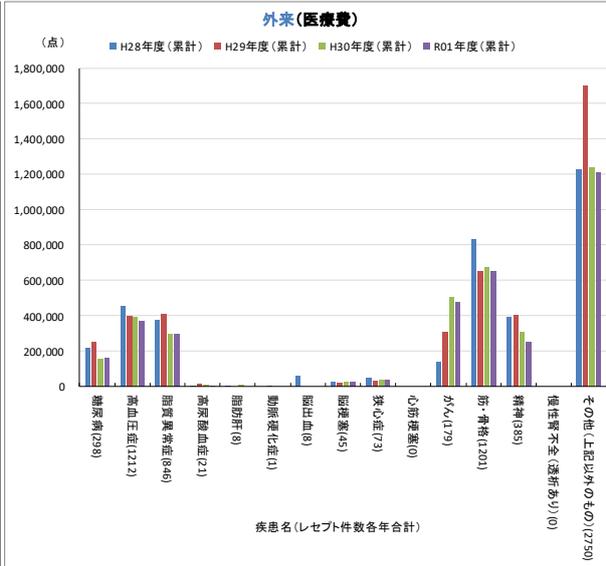
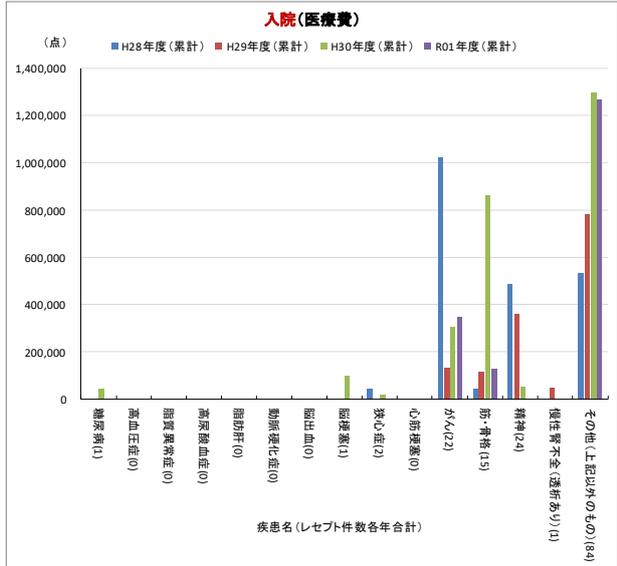
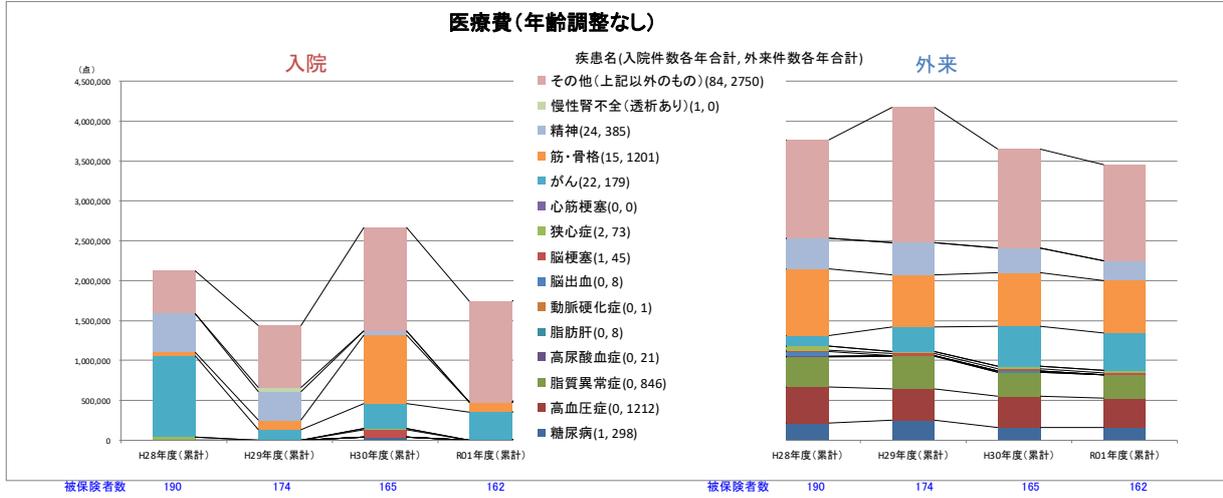
2023年7月21日



疾病別医療費分析(生活習慣病)

北川村 H28年度(累計)～R01年度(累計) 女性 0～74歳

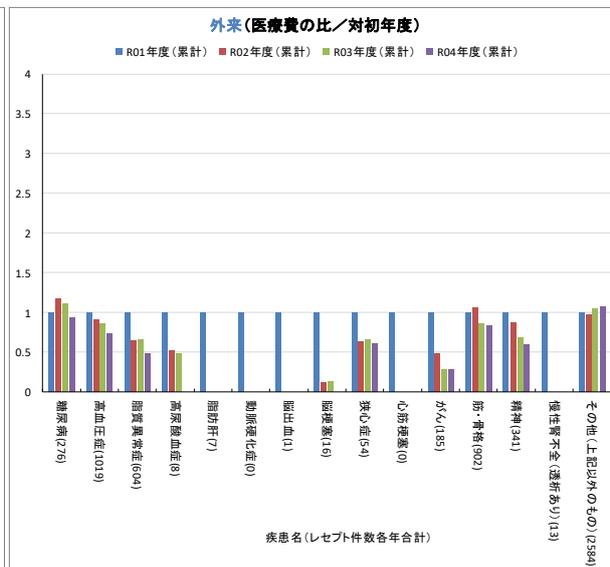
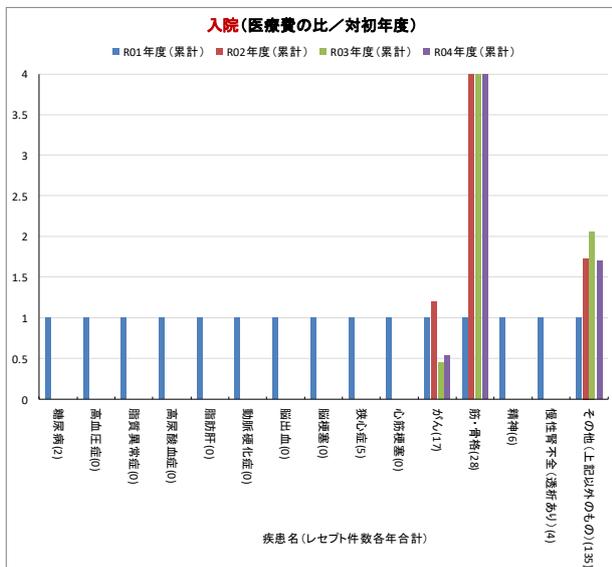
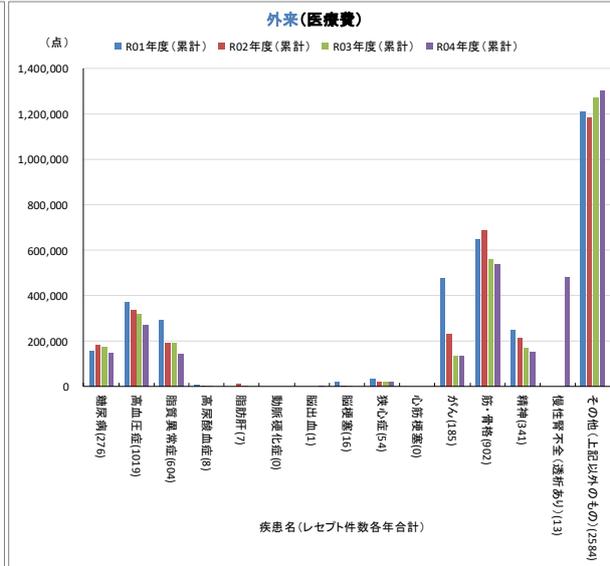
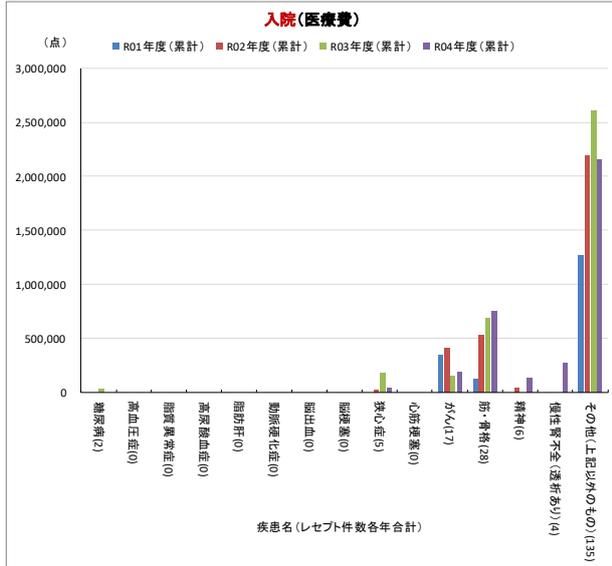
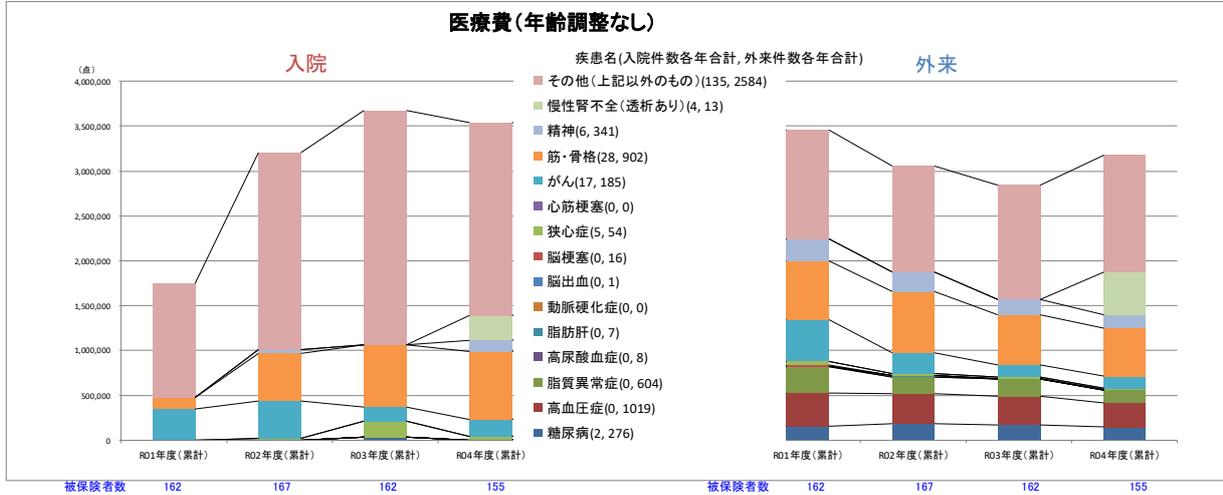
2023年7月21日



疾病別医療費分析(生活習慣病)

北川村 R01年度(累計)～R04年度(累計) 女性 0～74歳

2023年7月21日



③生活習慣病 重症疾患

表 3

疾病の発生状況の経年変化

疾病の発生状況(中長期的な目標疾患)

	虚血性心疾患										
	新規患者数 ※1	増減	心筋梗塞				狭心症				
			患者数	増減	入院医療費(※2)	伸び率	患者数	増減	入院医療費(※2)	伸び率	
平成28年	3		0.0		0			14.4		2,881,430	
平成29年	3	0.0	0.8	0.8	0			17.6	3.2	2,782,340	-3.4%
平成30年	1	-2.0	1.3	0.5	144,540			19.0	1.4	640,410	-77.0%
令和01年	1	0.0	1.2	-0.2	1,635,180		1031.3%	16.8	-2.2	0	-100.0%
令和02年	0	-1.0	1.7	0.5	0		-100.0%	16.1	-0.8	196,470	
令和03年	1	1.0	1.6	-0.1	0			13.4	-2.7	1,833,020	833.0%
令和04年	2	1.0	0.3	-1.3	0			12.3	-3.8	864,580	-52.8%

	脳血管疾患														
	新規患者数 ※1	増減	脳梗塞						脳出血						
			新規患者数※1	増減	患者数	増減	入院医療費(※2)	伸び率	新規患者数※1	増減	患者数	増減	入院医療費(※2)	伸び率	
平成28年	1		1		11.5			389,800		0		3.1		0	
平成29年	1	0.0	1	0.0	11.4	-0.1	1,233,980	216.6%	0	0.0	3.0	-0.1	0	0	
平成30年	2	1.0	2	1.0	13.4	2.0	1,345,400	9.0%	0	0.0	2.9	-0.1	0	0	
令和01年	3	1.0	2	0.0	13.1	-0.3	5,111,450	279.9%	1	1.0	2.7	-0.3	861,800		
令和02年	1	-2.0	1	-1.0	11.3	-1.8	2,351,930	-54.0%	0	-1.0	1.5	-1.2	0	-100.0%	
令和03年	0	-1.0	0	-1.0	9.8	-1.4	0	-100.0%	0	0.0	1.1	-0.4	0		
令和04年	0	0.0	0	0.0	7.8	-2.1	0		0	0.0	0.9	-0.2	0		

※1:新規患者は費用額〇円以上のレセプトを新規とみなし患者数をカウントする
 ※2:入院医療費については最大医療資源傷病名をカウントする

人工透析を算定しているレセプト集計

	件数	患者数	新規患者数	糖尿病 有病者数	合計金額
平成28年	26	2人		1人	9,950,260円
平成29年	25	3人		0人	9,800,020円
平成30年	25	2人		0人	9,911,320円
令和01年	24	2人		0人	9,590,950円
令和02年	38	3人		0人	14,363,580円
令和03年	34	3人		0人	12,645,260円
令和04年	54	5人		1人	21,861,860円

④生活習慣病 基礎疾患

表 4

疾患	糖尿病				高血圧				脂質異常症				高尿酸血症							
	患者数 (月平均)	増減	増減率	新規患者数 (微保険者千人当たり) (年度内合計)		患者数 (月平均)	増減	増減率	新規患者数 (微保険者千人当たり) (年度内合計)		患者数 (月平均)	増減	増減率	新規患者数 (微保険者千人当たり) (年度内合計)						
				保険者	同規模※				保険者	同規模※				保険者	同規模※	保険者	同規模※			
平成28年	43			115.31	102.77	120			155.53	100.35	94			109.94	78.70	49			48.27	20.08
平成29年	42	-1	-2%	90.60	105.44	118	-2	-2%	120.80	101.48	93	-1	-1%	96.09	76.34	45	-4	-9%	38.44	20.28
平成30年	45	3	7%	90.29	108.70	116	-2	-2%	99.03	106.41	94	1	1%	78.64	83.38	47	2	4%	40.78	22.24
令和01年	42	-3	-6%	75.66	108.14	108	-8	-7%	102.90	106.61	89	-5	-6%	102.90	79.28	47	0	1%	78.69	21.79
令和02年	42	0	0%	73.58	99.91	99	-9	-8%	103.02	101.82	87	-2	-3%	94.19	76.45	46	-1	-1%	73.58	21.50
令和03年	45	3	6%	94.44	104.11	102	3	3%	109.20	102.53	92	5	6%	100.34	79.28	44	-3	-6%	73.78	21.93
令和04年	41	-4	-9%	83.48	100.91	97	-5	-5%	122.24	96.54	84	-8	-8%	80.50	73.37	41	-3	-7%	77.52	21.26

年間集計

※同規模は直接法で保険者の性・年齢構成に調整している

2. 健診情報

①有所見者割合

表 5

健診データのうち有所見者割合の高い項目や年代を把握する（厚生労働省様式6-2～6-7）

KDB帳票No23 令和5年8月7日抽出

性別		BMI	腹囲	中性脂肪	GPT	HDL-C	空腹時血糖	HbA1c	尿酸	収縮期血圧	拡張期血圧	LDL-C	クレアチニン
		25以上	85以上	150以上	31以上	40未満	100以上	5.6以上	7.0以上	130以上	85以上	120以上	1.3以上
		人数 割合(%)											
H28	合計	21 35.0	32 53.3	18 30.0	14 23.3	6 10.0	1 1.7	39 65.0	14 23.3	34 56.7	13 21.7	24 40.0	3 5.0
	40-64	5 27.8	8 44.4	6 33.3	5 27.8	0 0.0	0 0.0	12 66.7	2 11.1	6 33.3	5 27.8	6 33.3	0 0.0
	65-74	16 38.1	24 57.1	12 28.6	9 21.4	6 14.3	1 2.4	27 64.3	12 28.6	28 66.7	8 19.0	18 42.9	3 7.1
H29	合計	22 33.3	36 54.5	16 24.2	13 19.7	9 13.6	0 0.0	45 68.2	14 21.2	37 56.1	23 34.8	19 28.8	4 6.1
	40-64	8 40.0	8 40.0	7 35.0	6 30.0	2 10.0	0 0.0	13 65.0	6 30.0	9 45.0	10 50.0	9 45.0	0 0.0
	65-74	14 30.4	28 60.9	9 19.6	7 15.2	7 15.2	0 0.0	32 69.6	8 17.4	28 60.9	13 28.3	10 21.7	4 8.7
H30	合計	30 41.7	46 63.9	20 27.8	21 29.2	8 11.1	0 0.0	44 61.1	14 19.4	35 48.6	22 30.6	36 50.0	3 4.2
	40-64	12 50.0	13 54.2	9 37.5	11 45.8	3 12.5	0 0.0	12 50.0	5 20.8	9 37.5	9 37.5	15 62.5	0 0.0
	65-74	18 37.5	33 68.8	11 22.9	10 20.8	5 10.4	0 0.0	32 66.7	9 18.8	26 54.2	13 27.1	21 43.8	3 6.3
R01	合計	22 32.4	38 55.9	21 30.9	19 27.9	8 11.8	0 0.0	46 67.6	15 22.1	32 47.1	18 26.5	35 51.5	2 2.9
	40-64	6 26.1	8 34.8	7 30.4	8 34.8	3 13.0	0 0.0	15 65.2	4 17.4	9 39.1	8 34.8	17 73.9	0 0.0
	65-74	16 35.6	30 66.7	14 31.1	11 24.4	5 11.1	0 0.0	31 68.9	11 24.4	23 51.1	10 22.2	18 40.0	2 4.4
R02	合計	21 35.6	35 59.3	19 32.2	20 33.9	5 8.5	0 0.0	41 69.5	14 23.7	24 40.7	10 16.9	25 42.4	2 3.4
	40-64	6 26.1	9 39.1	5 21.7	8 34.8	1 4.3	0 0.0	15 65.2	5 21.7	8 34.8	7 30.4	14 60.9	0 0.0
	65-74	15 41.7	26 72.2	14 38.9	12 33.3	4 11.1	0 0.0	26 72.2	9 25.0	16 44.4	3 8.3	11 30.6	2 5.6
R03	合計	29 38.7	47 62.7	19 25.3	14 18.7	6 8.0	0 0.0	50 66.7	16 21.3	38 50.7	17 22.7	34 45.3	6 8.0
	40-64	11 33.3	19 57.6	7 21.2	8 24.2	1 3.0	0 0.0	20 60.6	7 21.2	12 36.4	8 24.2	18 54.5	3 9.1
	65-74	18 42.9	28 66.7	12 28.6	6 14.3	5 11.9	0 0.0	30 71.4	9 21.4	26 61.9	9 21.4	16 38.1	3 7.1
R04	合計	31 41.3	47 62.7	17 22.7	20 26.7	3 4.0	0 0.0	49 65.3	13 17.3	36 48.0	16 21.3	28 37.3	3 4.0
	40-64	11 35.5	16 51.6	7 22.6	11 35.5	1 3.2	0 0.0	20 64.5	3 9.7	16 51.6	10 32.3	15 48.4	1 3.2
	65-74	20 45.5	31 70.5	10 22.7	9 20.5	2 4.5	0 0.0	29 65.9	10 22.7	20 45.5	6 13.6	13 29.5	2 4.5

性別		BMI	腹囲	中性脂肪	GPT	HDL-C	空腹時血糖	HbA1c	尿酸	収縮期血圧	拡張期血圧	LDL-C	クレアチニン
		25以上	85以上	150以上	31以上	40未満	100以上	5.6以上	7.0以上	130以上	85以上	120以上	1.3以上
		人数 割合(%)											
H28	合計	22 28.2	12 15.4	21 26.9	9 11.5	3 3.8	1 1.3	56 71.8	1 1.3	44 56.4	15 19.2	45 57.7	2 2.6
	40-64	7 33.3	5 23.8	4 19.0	2 9.5	1 4.8	0 0.0	14 66.7	0 0.0	7 33.3	4 19.0	14 66.7	0 0.0
	65-74	15 26.3	7 12.3	17 29.8	7 12.3	2 3.5	1 1.8	42 73.7	1 1.8	37 64.9	11 19.3	31 54.4	2 3.5
H29	合計	22 29.7	9 12.2	14 18.9	6 8.1	2 2.7	0 0.0	46 62.2	4 5.4	38 51.4	16 21.6	28 37.8	1 1.4
	40-64	5 25.0	3 15.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 55.0	2 10.0	7 35.0	4 20.0	7 35.0	0 0.0
	65-74	17 31.5	6 11.1	11 20.4	6 11.1	2 3.7	0 0.0	35 64.8	2 3.7	31 57.4	12 22.2	21 38.9	1 1.9
H30	合計	22 33.3	12 18.2	18 27.3	5 7.6	0 0.0	0 0.0	43 65.2	0 0.0	28 42.4	8 12.1	33 50.0	2 3.0
	40-64	5 33.3	4 26.7	7 46.7	1 6.7	0 0.0	0 0.0	7 46.7	0 0.0	4 26.7	2 13.3	10 66.7	0 0.0
	65-74	17 33.3	8 15.7	11 21.6	4 7.8	0 0.0	0 0.0	36 70.6	0 0.0	24 47.1	6 11.8	23 45.1	2 3.9
R01	合計	20 29.9	9 13.4	18 26.9	7 10.4	1 1.5	2 3.0	48 71.6	2 3.0	30 44.8	6 9.0	37 55.2	1 1.5
	40-64	5 33.3	3 20.0	3 20.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	9 60.0	1 6.7	4 26.7	2 13.3	11 73.3	0 0.0
	65-74	15 28.8	6 11.5	15 28.8	5 9.6	1 1.9	2 3.8	39 75.0	1 1.9	26 50.0	4 7.7	26 50.0	1 1.9
R02	合計	18 31.0	8 13.8	18 31.0	8 13.8	1 1.7	0 0.0	35 60.3	2 3.4	29 50.0	6 10.3	34 58.6	1 1.7
	40-64	4 36.4	2 18.2	2 18.2	2 18.2	0 0.0	0 0.0	4 36.4	0 0.0	4 36.4	1 9.1	7 63.6	0 0.0
	65-74	14 29.8	6 12.8	16 34.0	6 12.8	1 2.1	0 0.0	31 66.0	2 4.3	25 53.2	5 10.6	27 57.4	1 2.1
R03	合計	21 33.9	9 14.5	15 24.2	3 4.8	0 0.0	0 0.0	43 69.4	4 6.5	27 43.5	5 8.1	33 53.2	1 1.6
	40-64	5 35.7	1 7.1	4 28.6	1 7.1	0 0.0	0 0.0	6 42.9	1 7.1	2 14.3	1 7.1	6 42.9	0 0.0
	65-74	16 33.3	8 16.7	11 22.9	2 4.2	0 0.0	0 0.0	37 77.1	3 6.3	25 52.1	4 8.3	27 56.3	1 2.1
R04	合計	19 31.7	13 21.7	13 21.7	5 8.3	2 3.3	0 0.0	38 63.3	0 0.0	23 38.3	4 6.7	32 53.3	1 1.7
	40-64	4 33.3	4 33.3	4 33.3	2 16.7	1 8.3	0 0.0	6 50.0	0 0.0	3 25.0	1 8.3	5 41.7	0 0.0
	65-74	15 31.3	9 18.8	9 18.8	3 6.3	1 2.1	0 0.0	32 66.7	0 0.0	20 41.7	3 6.3	27 56.3	1 2.1

②メタボリックシンドローム

表 6

メタボリックシンドローム該当者・予備群の把握（厚生労働省様式6-8）

KDB帳票No24 令和5年8月7日抽出

性別	年齢	健診受診者		腹囲のみ		予備群		高血糖		高血圧		脂質異常症		該当者		血糖+血圧		血糖+脂質		血圧+脂質		3項目全て	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
男性	合計	60	40.0	4	6.7	8	13.3	0	0.0	5	8.3	3	5.0	20	33.3	2	3.3	2	3.3	7	11.7	9	15.0
	40-64	18	28.6	3	16.7	3	16.7	0	0.0	1	5.6	2	11.1	2	11.1	0	0.0	0	0.0	2	11.1	0	0.0
	65-74	42	48.3	1	2.4	5	11.9	0	0.0	4	9.5	1	2.4	18	42.9	2	4.8	2	4.8	5	11.9	9	21.4
	合計	66	45.2	3	4.5	14	21.2	0	0.0	11	16.7	3	4.5	19	28.8	0	0.0	5	7.6	5	7.6	9	13.6
	40-64	20	37.0	1	5.0	5	25.0	0	0.0	3	15.0	2	10.0	2	10.0	0	0.0	0	0.0	2	10.0	0	0.0
	65-74	46	50.0	2	4.3	9	19.6	0	0.0	8	17.4	1	2.2	17	37.0	0	0.0	5	10.9	3	6.5	9	19.6
	合計	72	49.7	5	6.9	17	23.6	1	1.4	11	15.3	5	6.9	24	33.3	4	5.6	2	2.8	9	12.5	9	12.5
	40-64	24	42.9	3	12.5	8	33.3	0	0.0	3	12.5	5	20.8	2	8.3	0	0.0	0	0.0	1	4.2	1	4.2
	65-74	48	53.9	2	4.2	9	18.8	1	2.1	8	16.7	0	0.0	22	45.8	4	8.3	2	4.2	8	16.7	8	16.7
合計	68	47.2	3	4.4	14	20.6	0	0.0	11	16.2	3	4.4	21	30.9	4	5.9	2	2.9	10	14.7	5	7.4	
40-64	23	41.8	2	8.7	4	17.4	0	0.0	2	8.7	2	8.7	2	8.7	0	0.0	0	0.0	2	8.7	0	0.0	
65-74	45	50.6	1	2.2	10	22.2	0	0.0	9	20.0	1	2.2	19	42.2	4	8.9	2	4.4	8	17.8	5	11.1	
合計	59	42.8	3	5.1	12	20.3	0	0.0	8	13.6	4	6.8	20	33.9	4	6.8	2	3.4	9	15.3	5	8.5	
40-64	23	42.6	2	8.7	5	21.7	0	0.0	3	13.0	2	8.7	2	8.7	0	0.0	0	0.0	2	8.7	0	0.0	
65-74	36	42.9	1	2.8	7	19.4	0	0.0	5	13.9	2	5.6	18	50.0	4	11.1	2	5.6	7	19.4	5	13.9	
合計	75	56.0	7	9.3	12	16.0	1	1.3	7	9.3	4	5.3	28	37.3	6	8.0	3	4.0	14	18.7	5	6.7	
40-64	33	58.9	4	12.1	7	21.2	1	3.0	3	9.1	3	9.1	8	24.2	3	9.1	1	3.0	4	12.1	0	0.0	
65-74	42	53.8	3	7.1	5	11.9	0	0.0	4	9.5	1	2.4	20	47.6	3	7.1	2	4.8	10	23.8	5	11.9	
合計	75	54.7	7	9.3	15	20.0	0	0.0	13	17.3	2	2.7	25	33.3	7	9.3	3	4.0	10	13.3	5	6.7	
40-64	31	54.4	4	12.9	3	9.7	0	0.0	2	6.5	1	3.2	9	29.0	2	6.5	1	3.2	4	12.9	2	6.5	
65-74	44	55.0	3	6.8	12	27.3	0	0.0	11	25.0	1	2.3	16	36.4	5	11.4	2	4.5	6	13.6	3	6.8	

性別	年齢	健診受診者		腹囲のみ		予備群		高血糖		高血圧		脂質異常症		該当者		血糖+血圧		血糖+脂質		血圧+脂質		3項目全て	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
女性	合計	78	55.3	0	0.0	6	7.7	1	1.3	4	5.1	1	1.3	6	7.7	2	2.6	1	1.3	1	1.3	2	2.6
	40-64	21	43.8	0	0.0	4	19.0	1	4.8	2	9.5	1	4.8	1	4.8	0	0.0	1	4.8	0	0.0	0	0.0
	65-74	57	61.3	0	0.0	2	3.5	0	0.0	2	3.5	0	0.0	5	8.8	2	3.5	0	0.0	1	1.8	2	3.5
	合計	74	56.1	1	1.4	2	2.7	0	0.0	2	2.7	0	0.0	6	8.1	2	2.7	1	1.4	1	1.4	2	2.7
	40-64	20	45.5	1	5.0	1	5.0	0	0.0	1	5.0	0	0.0	1	5.0	0	0.0	1	5.0	0	0.0	0	0.0
	65-74	54	61.4	0	0.0	1	1.9	0	0.0	1	1.9	0	0.0	5	9.3	2	3.7	0	0.0	1	1.9	2	3.7
	合計	66	51.6	1	1.5	3	4.5	0	0.0	3	4.5	0	0.0	8	12.1	0	0.0	2	3.0	4	6.1	2	3.0
	40-64	15	37.5	0	0.0	1	6.7	0	0.0	1	6.7	0	0.0	3	20.0	0	0.0	2	13.3	1	6.7	0	0.0
	65-74	51	58.0	1	2.0	2	3.9	0	0.0	2	3.9	0	0.0	5	9.8	0	0.0	0	0.0	3	5.9	2	3.9
合計	67	53.6	3	4.5	1	1.5	0	0.0	0	0.0	1	1.5	5	7.5	1	1.5	1	1.5	2	3.0	1	1.5	
40-64	15	40.5	2	13.3	1	6.7	0	0.0	0	0.0	1	6.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
65-74	52	59.1	1	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	9.6	1	1.9	1	1.9	2	3.8	1	1.9	
合計	58	46.4	0	0.0	3	5.2	0	0.0	3	5.2	0	0.0	5	8.6	0	0.0	0	0.0	3	5.2	2	3.4	
40-64	11	30.6	0	0.0	2	18.2	0	0.0	2	18.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
65-74	47	52.8	0	0.0	1	2.1	0	0.0	1	2.1	0	0.0	5	10.6	0	0.0	0	0.0	3	6.4	2	4.3	
合計	62	49.6	2	3.2	1	1.6	1	1.6	0	0.0	0	0.0	6	9.7	2	3.2	1	1.6	2	3.2	1	1.6	
40-64	14	38.9	1	7.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
65-74	48	53.9	1	2.1	1	2.1	1	2.1	0	0.0	0	0.0	6	12.5	2	4.2	1	2.1	2	4.2	1	2.1	
合計	60	50.4	5	8.3	3	5.0	1	1.7	1	1.7	1	1.7	5	8.3	0	0.0	0	0.0	2	3.3	3	5.0	
40-64	12	34.3	2	16.7	1	8.3	0	0.0	1	8.3	0	0.0	1	8.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	8.3	
65-74	48	57.1	3	6.3	2	4.2	1	2.1	0	0.0	1	2.1	4	8.3	0	0.0	0	0.0	2	4.2	2	4.2	

③厚生労働省様式(様式 5-2)健診受診者所見の推移

図 10

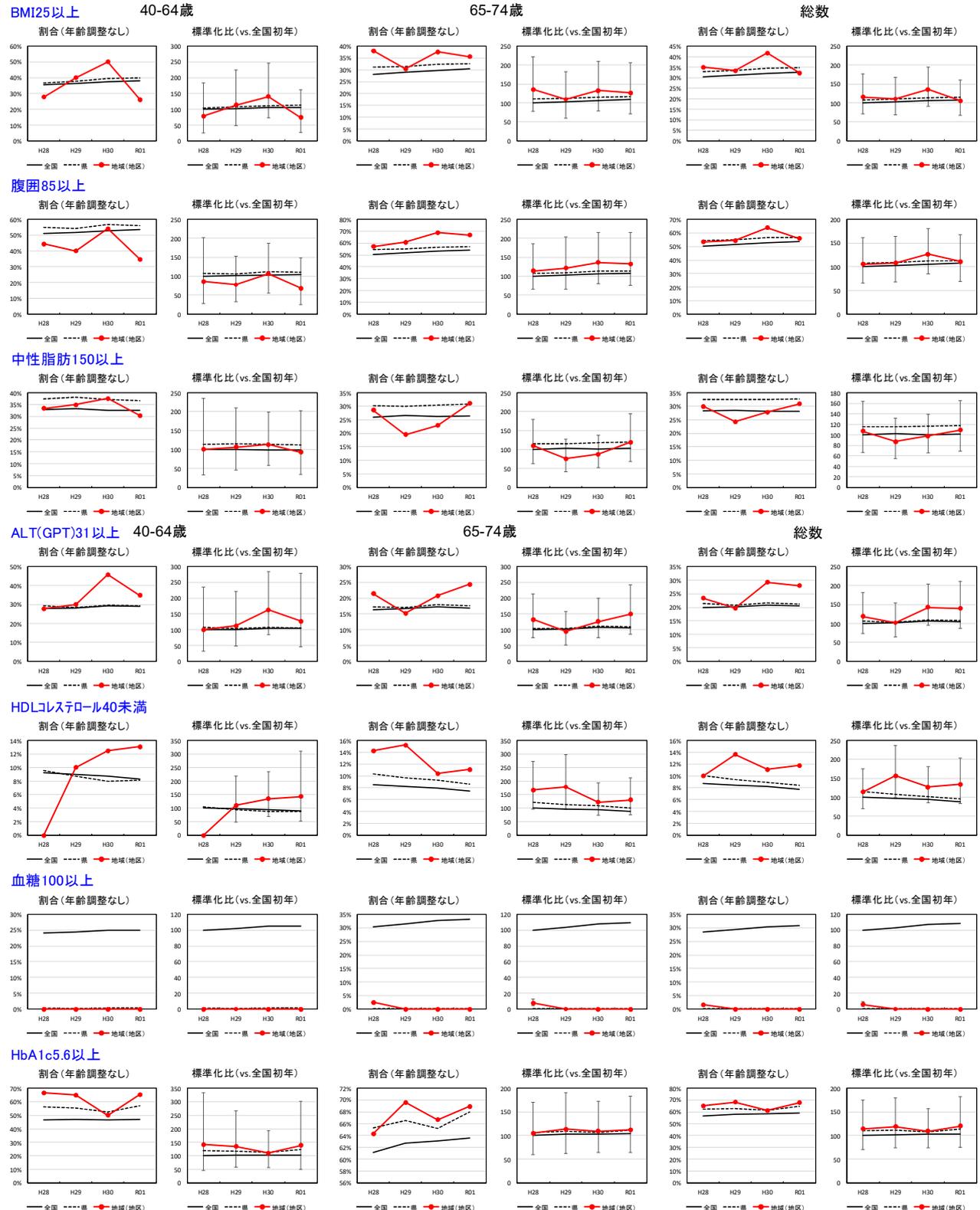
データ集 ⑤H28-R01, R02-R04 厚生労働省(様式 5-2) 健診有所見者の経年推移から貼付

厚生労働省様式(様式 5-2) 健診有所見者状況(男女別・年齢調整)の経年推移【男性】

健診受診者数	H28	H29	H30	R01	H29
40-64歳					
全国	979147	936531	904925	875102	1395009
県	6994	6599	6564	6298	246973
地域(地区)	18	20	24	23	1166
65-74歳					
全国	2154913	2181981	2160522	2128521	2655916
県	13849	14104	14504	14169	281977
地域(地区)	42	46	49	45	2331
総数					
全国	3134060	3118512	3065447	3003623	4050925
県	20843	20703	21068	20467	528950
地域(地区)	60	66	72	68	3497

作成日: 2023/7/21
 保険者番号: 380245
 保険者名: 北川村
 地区:

国保データベース(KDB)のCSVファイル(厚生労働省様式(様式5-2) 健診有所見者状況(男女別・年代別)より計算。
 標準化比は全国(初年度)を基準率とし、調整法による。調整率は95%信頼区間。
 Ver. 1.2 (2018.12.20) 平成26年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)健診・医療・介護等データベースの活用による地区診断と保健事業の立案を
 含む生活習慣病対策事業を行う地域保健人材の育成に関する研究(H25-循環器等(左記)-一般-014)(研究代表: 横山徹爾)



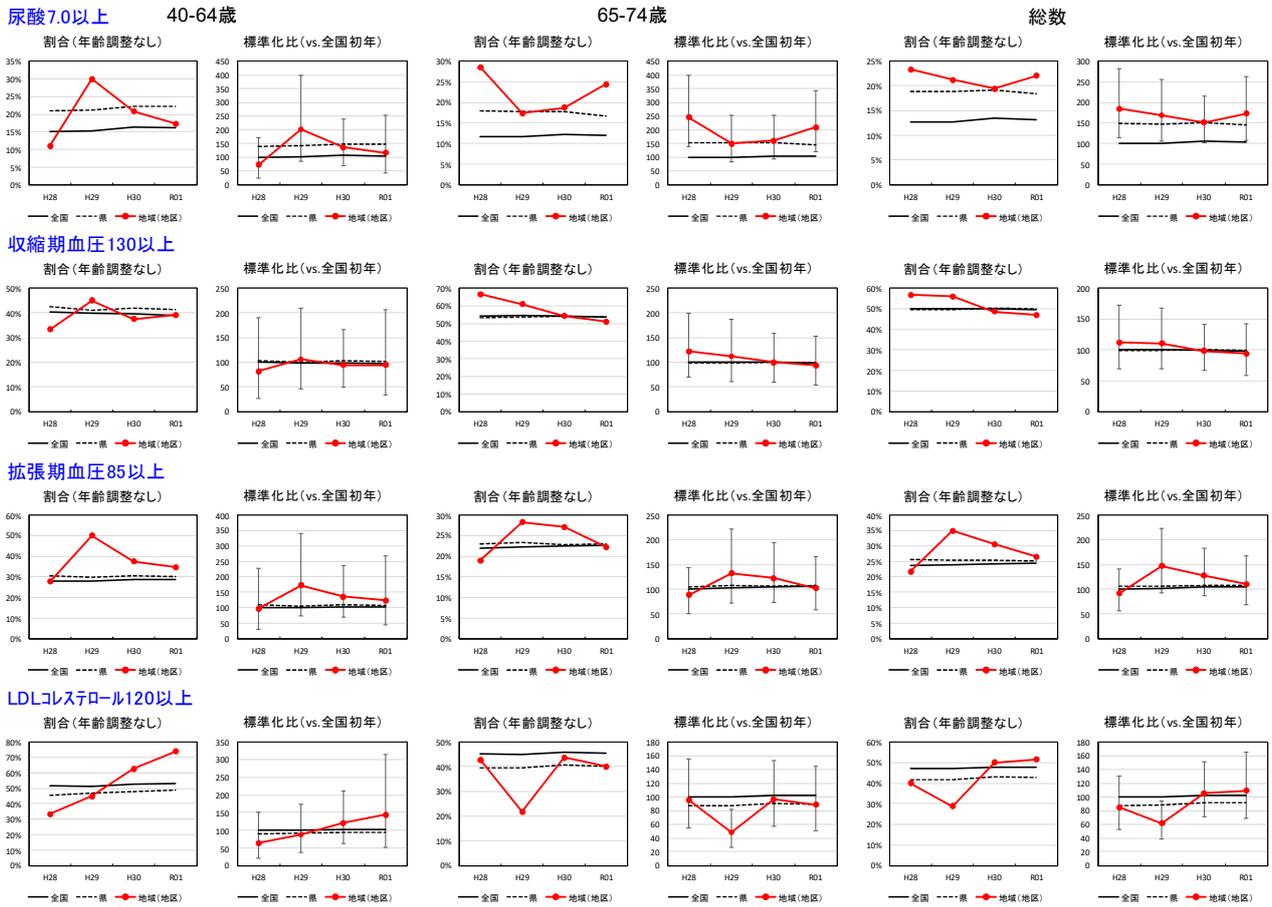


図 11

厚生労働省様式(様式5-2) 健診有所見者状況(男女別・年齢調整)の経年推移【男性】

年齢	項目	R02	R03	R04	H28	H2
40-64歳	全国	738556	811090	801501	1395501	1
	県	5434	5600	5785	247294	
	地域(地区)	23	33	31	1160	1166
65-74歳	全国	1912229	1975493	1871129	2649150	2655916
	県	13178	12851	12260	280896	281977
	地域(地区)	36	42	44	2339	2331
総数	全国	2650785	2786583	2672630	4044651	4050925
	県	18612	18451	18045	528190	528950
	地域(地区)	59	75	75	3499	3497

作成日: 2023/7/21
 保健番号: 390245
 保健者名: 北川村
 地区:

国保データベース(KDB)のCSVファイル(厚生労働省様式(様式5-2) 健診有所見者状況(男女別・年代別))より計算。
 標準化比は全国(初年度)を基準とした間接法による。誤差は5%信頼区間。
 Ver. 1.2 (2019.12.20) 平成26年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・難疾病等生活習慣病対策総合研究事業)健診・医療・介護等データベースの活用による地域診断と保健事業の立案を
 含む生活習慣病対策事業を担う地域保健人材の育成に関する研究(H25-産理器等(生衛)-一般-014) (研究代表: 横山徹爾)

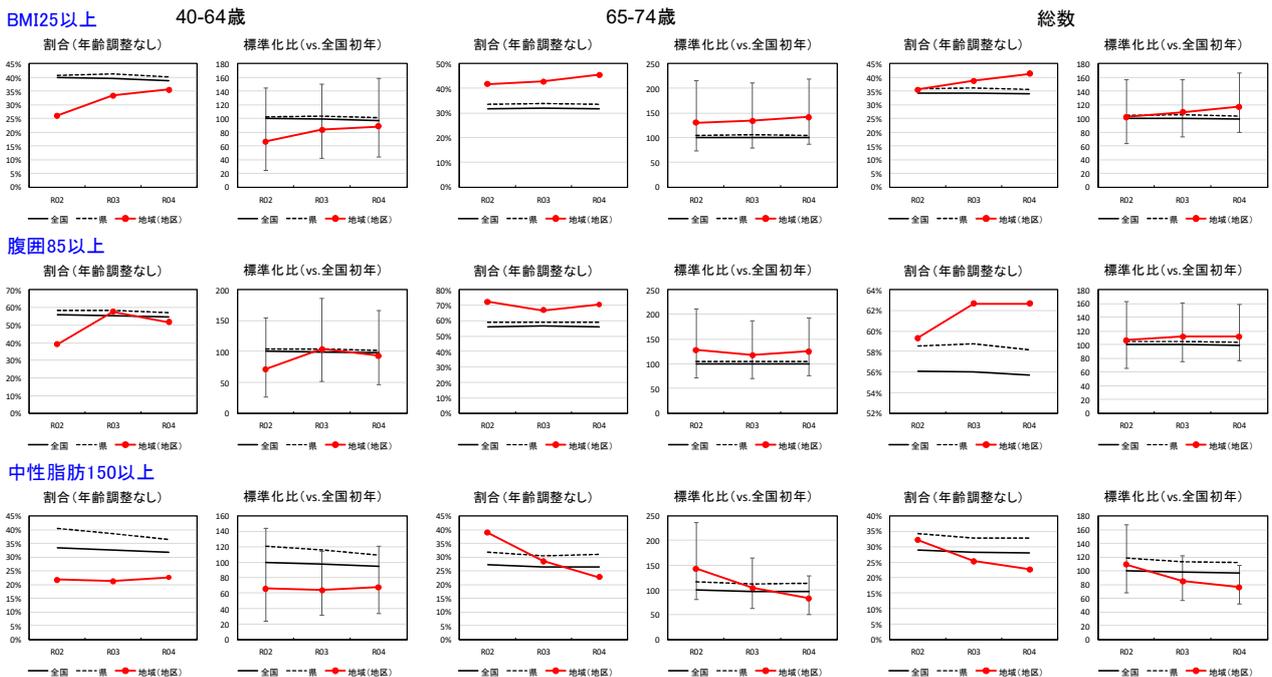


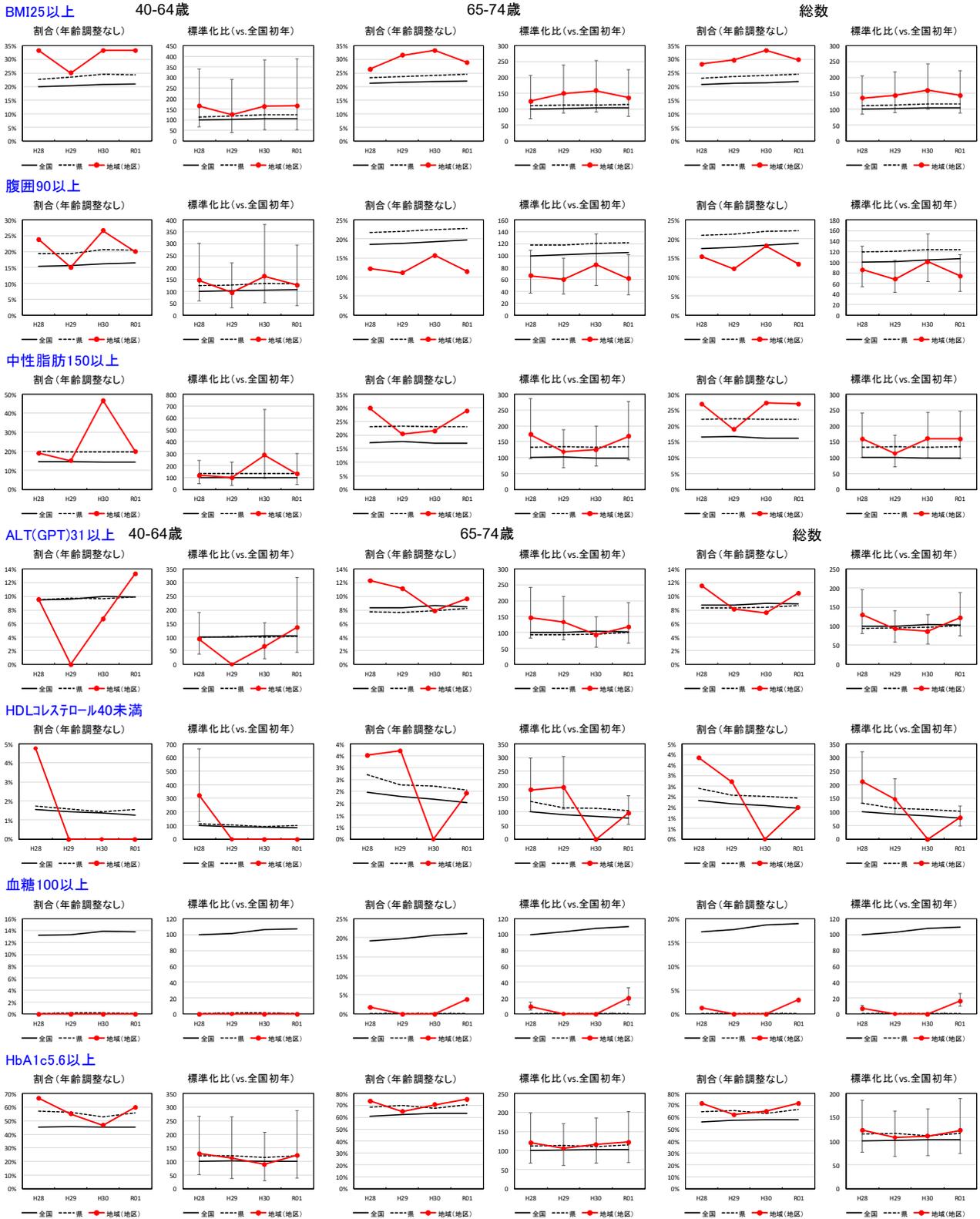
図 12

厚生労働省様式(様式5-2) 健診有所見者状況(男女別・年齢調整)の経年推移【女性】

健診参加人数		H28	H29	H30	R01	H29
40-64歳	全国	1366623	1294708	1233141	1162995	1807872
	県	8547	7872	7675	7012	270432
	地域(地区)	21	20	15	15	1470
65-74歳	全国	2897899	2932440	2906926	2860807	3499054
	県	18825	18844	19321	18526	395040
	地域(地区)	57	54	51	52	3398
総数	全国	4264522	4227148	4140067	4023802	5306926
	県	27372	26716	26996	25538	665472
	地域(地区)	78	74	66	67	4888

作成日: 2023/7/21
 保健番号: 380245
 保健者名: 北川村
 地区:

国保データベース(KDB)のCSVファイル(厚生労働省様式(様式5-2) 健診有所見者状況(男女別・年代別))より計算。
 標準化比は全国(初年度)を基準とした間接法による。誤差線は95%信頼区間。



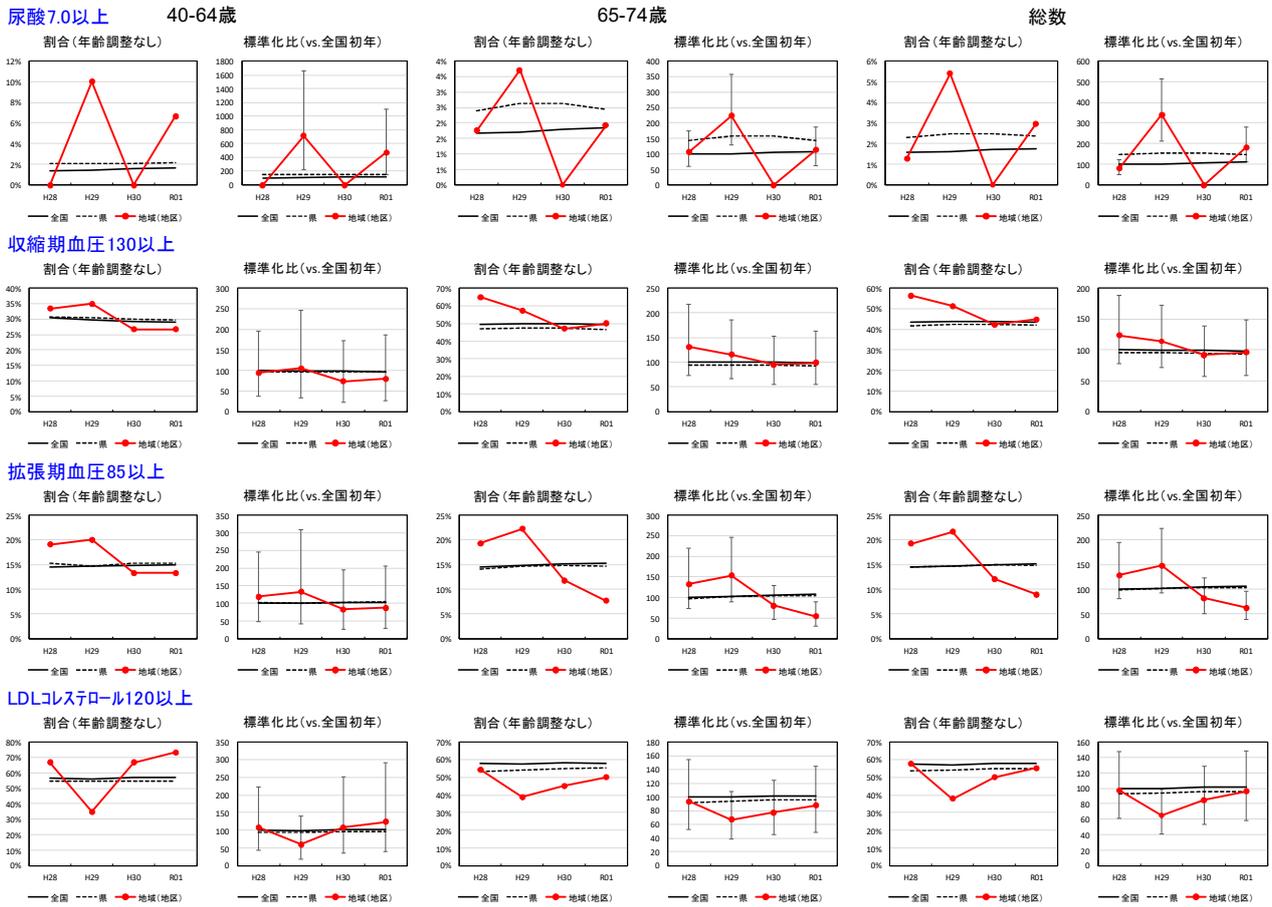


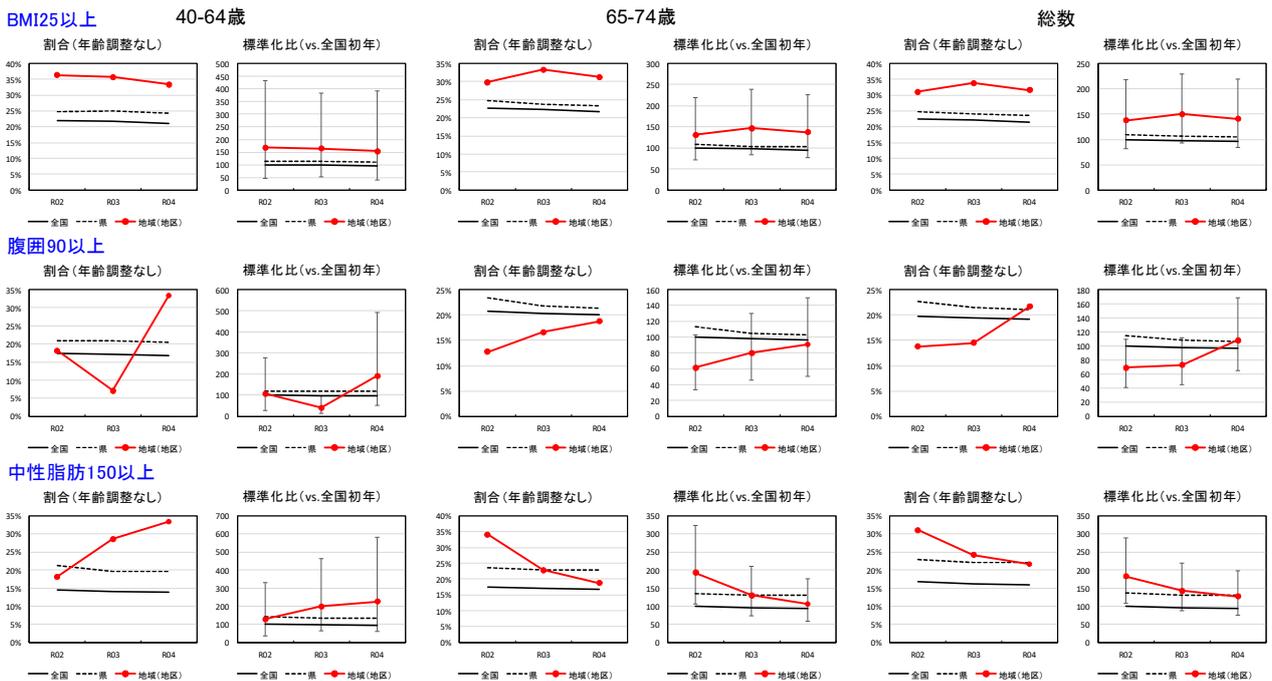
図 13

厚生労働省様式(様式5-2) 健診有所見者状況(男女別・年齢調整)の経年推移【女性】

年齢層	性別	R02	R03	R04	H28	H29
40-64歳	全国	966132	1043199	1007290	1802062	1807872
	県	6253	6102	6128	270322	270432
	地域(地区)	11	14	12	1474	1470
65-74歳	全国	2577924	2671482	2531700	3453352	3499054
	県	17532	16923	16010	394658	395040
	地域(地区)	47	48	48	3375	3398
総数	全国	3544056	3714681	3538990	5297414	5306926
	県	23785	23025	22138	664980	665472
	地域(地区)	58	62	60	4849	4868

作成日: 2023/7/21
 保健番号: 390245
 保健者名: 北川村
 地区:

国保データベース(KDB)のCSVファイル(厚生労働省様式(様式5-2) 健診有所見者状況(男女別・年代別))より計算。
 標準化比は全国(初年度)を基準とした間接法による。誤差線は95%信頼区間。



④質問票
表 7

生活習慣の変化

KDB帳票No.1 令和5年8月7日抽出

項目	① 服薬			② 喫煙	③ 週3回以上朝食を抜く	④ 週3回以上夕食後間食	⑤ 週3回以上就寝前夕食	⑥ 食べる速度が遅い	⑦ 20歳時体重から10kg体重増加	⑧ 1日30分以上運動なし	⑨ 1日1時間以上運動なし	⑩ 睡眠不足	⑪ 毎日飲酒	⑫ 時々飲酒	⑬ 咀嚼		⑭ 間食	
	高血圧症	糖尿病	脂質異常症												噛みにくい	ほとんど噛めない	毎日	時々
	平成28年	42.8%	8.7%	28.3%	15.9%	6.7%	17.8%	22.2%	25.9%	36.3%	63.7%	47.4%	23.7%	25.9%	20.7%	-	-	-
平成29年	44.3%	10.0%	23.6%	19.3%	14.4%	20.9%	26.6%	23.0%	36.7%	65.5%	51.8%	23.7%	30.9%	20.1%	-	-	-	-
平成30年	44.2%	7.2%	28.3%	18.1%	10.2%	0.0%	19.7%	25.5%	43.1%	70.1%	42.3%	27.0%	32.1%	15.3%	32.8%	2.9%	21.9%	53.3%
令和01年	44.4%	9.6%	26.7%	21.5%	10.5%	0.0%	26.3%	24.1%	39.1%	77.4%	46.6%	28.6%	29.3%	15.0%	32.3%	0.8%	21.8%	47.4%
令和02年	42.7%	6.0%	23.1%	19.7%	11.1%	0.0%	17.9%	29.9%	47.9%	81.2%	58.1%	25.6%	31.6%	15.4%	25.6%	0.9%	26.5%	52.1%
令和03年	35.0%	8.0%	21.2%	19.7%	16.2%	0.0%	22.1%	28.7%	36.0%	69.9%	50.0%	27.2%	33.1%	16.2%	24.3%	0.7%	17.6%	58.1%
令和04年	35.8%	6.0%	23.1%	20.1%	17.9%	0.0%	20.1%	31.3%	39.6%	66.4%	47.0%	30.6%	30.6%	16.4%	32.1%	1.5%	23.9%	56.0%

補足

平成30年特定健康診査制度改正により「④週3回以上夕食後間食」は削除項目になっている。新たに「⑬咀嚼」「⑭間食」が追加された項目である。

⑤特定健診受診率
表 8

性・年齢階級別_特定健診受診率(法定報告)

男	H29			H30			R01			R02			R03		
	対象者	受診者	受診率												
40～44歳	8	2	25.0%	10	4	40.0%	8	4	50.0%	10	7	70.0%	7	6	85.7%
45～49歳	4	1	25.0%	5	2	40.0%	7	2	28.6%	7	1	14.3%	9	6	66.7%
50～54歳	9	4	44.4%	6	4	66.7%	5	1	20.0%	9	3	33.3%	11	6	54.5%
55～59歳	13	5	38.5%	13	6	46.2%	14	8	57.1%	9	4	44.4%	8	3	37.5%
60～64歳	19	8	42.1%	21	7	33.3%	20	8	40.0%	19	8	42.1%	19	11	57.9%
65～69歳	46	20	43.5%	42	26	61.9%	40	22	55.0%	33	13	39.4%	31	17	54.8%
70～74歳	46	26	56.5%	47	22	46.8%	49	23	46.9%	51	23	45.1%	47	25	53.2%
合計	145	66	45.5%	144	71	49.3%	143	68	47.6%	138	59	42.8%	132	74	56.1%

女	H29			H30			R01			R02			R03		
	対象者	受診者	受診率												
40～44歳	3	1	33.3%	3	0	0.0%	5	1	20.0%	7	2	28.6%	6	2	33.3%
45～49歳	5	2	40.0%	5	0	0.0%	6	1	16.7%	6	2	33.3%	4	2	50.0%
50～54歳	7	2	28.6%	6	2	33.3%	5	1	20.0%	2	0	0.0%	5	1	20.0%
55～59歳	6	2	33.3%	5	2	40.0%	5	3	60.0%	8	2	25.0%	7	3	42.9%
60～64歳	23	13	56.5%	21	11	52.4%	16	9	56.2%	13	5	38.5%	14	6	42.9%
65～69歳	49	29	59.2%	48	29	60.4%	33	20	60.6%	33	16	48.5%	33	15	45.5%
70～74歳	39	25	64.1%	40	22	55.0%	55	32	58.2%	56	31	55.4%	56	33	58.9%
合計	132	74	56.1%	128	66	51.6%	125	67	53.6%	125	58	46.4%	125	62	49.6%

図 14

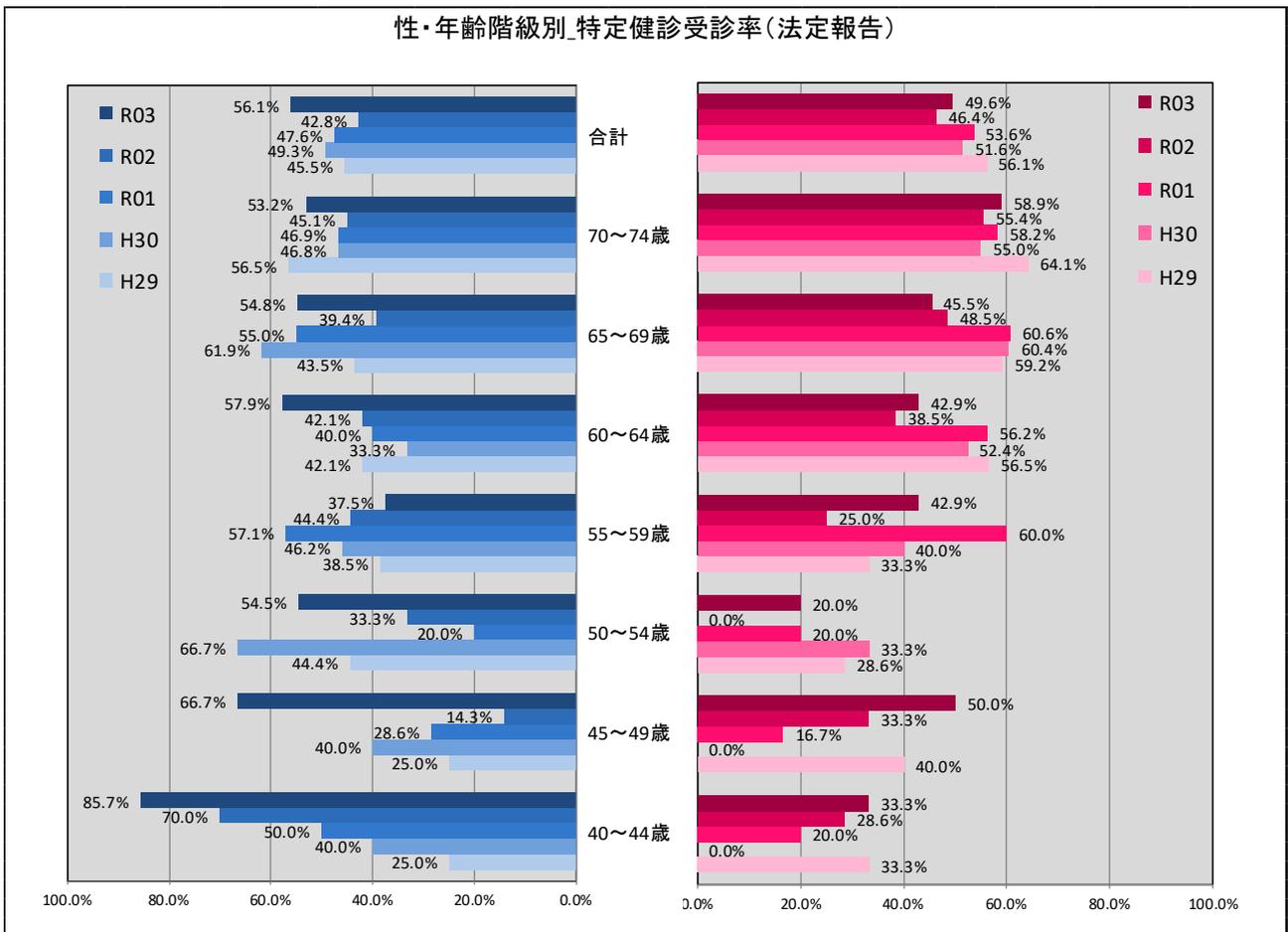
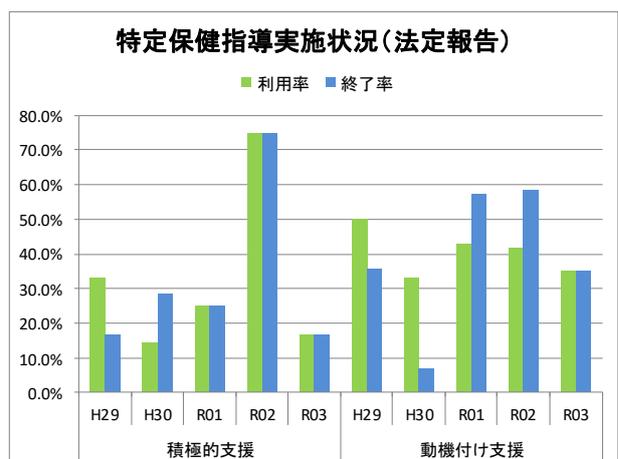


表 9

特定保健指導実施状況(法定報告)

		対象者	利用者	終了者	利用率	終了率
積極的支援	H29	6	2	1	33.3%	16.7%
	H30	7	1	2	14.3%	28.6%
	R01	4	1	1	25.0%	25.0%
	R02	4	3	3	75.0%	75.0%
	R03	6	1	1	16.7%	16.7%
動機付け支援	H29	14	7	5	50.0%	35.7%
	H30	15	5	1	33.3%	6.7%
	R01	14	6	8	42.9%	57.1%
	R02	12	5	7	41.7%	58.3%
	R03	20	7	7	35.0%	35.0%

図 15



2. 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施を踏まえて、関係機関と共有するために介護の有病状況を経年的に表示する。

医療保険が北川村の国保と後期である介護認定者のみを集計し、レセプトの診断名より重複して計上している。赤色は血管疾患、重症化した疾患として循環器疾患と生活習慣病の基礎疾患を表示している。他、フレイル関連疾患として認知症、筋・骨格疾患、歯肉炎歯周病を表示する。

- ※ 認知症とは ICD10 コードにおける F00:アルツハイマー病の認知症、F01:血管性認知症及び詳細不明の認知症、F02：その他の疾患の認知症、F03:詳細不明の認知症。
- ※ 筋・骨格系とは ICD10 コードにおける M00～99：筋骨格系及び結合組織の疾患であり、M00～25：関節障害、M30～36：全身性結合組織障害、M40～54：脊柱障害、M60～79：軟部組織障害、M80～94：骨障害及び軟骨障害、M95～99：筋骨格系及び結合組織のその他の障害。

3. 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に関わる介護情報

表 10

介護認定者の経年有病状況【年齢区分別】

		年 齢	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度						トレンド検定 *有意差あり(P値<0.05)			
被保険者数 (国保と後期の各年齢区分被保険者数)	40~64歳		144	135	119	109	123	111	112									
	65~74歳		209	206	203	198	201	201	187									
	75歳以上		379	376	377	366	349	352	361									
	合 計		732	717	699	673	673	664	660									
認定者数	40~64歳		2	0	0	0	0	0	0									
	65~74歳		4	4	7	7	9	9	10									
	75歳以上		90	95	96	80	89	88	92									
	合 計		96	99	103	87	98	97	102									
認定率(認定者数/被保険者数)	40~64歳		1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%									
	65~74歳		1.9%	1.9%	3.4%	3.5%	4.5%	4.5%	5.3%									
	75歳以上		23.7%	25.3%	25.5%	21.9%	25.5%	25.0%	25.5%									
	合 計		13.1%	13.8%	14.7%	12.9%	14.6%	14.6%	15.5%									
(レセプトの診断名より重複して計上)	循環器疾患	脳血管疾患	40~64歳	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	P値(増加) 0.569
			65~74歳	2	50.0%	2	50.0%	3	42.9%	4	57.1%	5	55.6%	6	60.0%	P値(増加) 0.560		
			75歳以上	51	56.7%	53	55.8%	53	55.2%	48	60.0%	51	57.3%	48	54.5%		P値(増加) 0.493	
			合 計	54	56.3%	55	55.6%	56	54.4%	52	59.8%	56	57.1%	53	54.6%	P値(増加) 0.493		
		脳出血	40~64歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		0	0.0%
			65~74歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	1	11.1%	1	11.1%	P値(増加) 0.251		
			75歳以上	2	2.2%	0	0.0%	3	3.1%	4	5.0%	2	2.2%	2	2.3%		P値(増加) 0.105	
		合 計	2	2.1%	0	0.0%	3	2.9%	5	5.7%	3	3.1%	3	3.1%	P値(増加) 0.105			
		脳梗塞	40~64歳	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0.0%	0	0.0%
	65~74歳		2	50.0%	2	50.0%	3	42.9%	4	57.1%	5	55.6%	6	60.0%	P値(増加) 0.565			
	75歳以上		50	55.6%	53	55.8%	52	54.2%	46	57.5%	50	56.2%	48	54.5%		P値(増加) 0.492		
	合 計	53	55.2%	55	55.6%	55	53.4%	50	57.5%	55	56.1%	53	54.6%	P値(増加) 0.492				
	虚血性心疾患	40~64歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0.0%	0	0.0%	P値(減少) 0.281
		65~74歳	3	75.0%	3	75.0%	3	42.9%	4	57.1%	5	55.6%	4	40.0%	P値(増加) 0.776			
		75歳以上	44	48.9%	46	48.4%	43	44.8%	38	47.5%	43	48.3%	40	45.5%		P値(増加) 0.859		
	合 計	47	49.0%	49	49.5%	46	44.7%	42	48.3%	48	49.0%	45	46.4%	P値(増加) 0.859				
	腎不全	40~64歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0.0%	0	0.0%	P値(増加) 0.838
		65~74歳	1	25.0%	1	25.0%	2	28.6%	2	28.6%	2	22.2%	1	11.1%	P値(増加) 0.146			
75歳以上		40	44.4%	45	47.4%	52	54.2%	42	52.5%	49	55.1%	49	55.7%	P値(増加) 0.203				
合 計	41	42.7%	46	46.5%	54	52.4%	44	50.6%	51	52.0%	50	51.5%	P値(増加) 0.203					
人工透析	40~64歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0.0%	0	0.0%	P値(増加) 0.201	
	65~74歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	P値(増加) 0.254				
	75歳以上	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	1	1.3%	1	1.1%	1	1.1%		P値(増加) 0.107			
合 計	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	1	1.1%	1	1.0%	1	1.0%	P値(増加) 0.107					
血管疾患	糖尿病	40~64歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%	P値(減少) * 0.014
		65~74歳	4	100.0%	4	100.0%	6	85.7%	5	71.4%	5	55.6%	4	44.4%	P値(増加) 0.211			
		75歳以上	63	70.0%	63	66.3%	65	67.7%	58	72.5%	67	75.3%	65	73.9%		P値(増加) 0.487		
		合 計	67	69.8%	67	67.7%	71	68.9%	63	72.4%	72	73.5%	69	71.1%	P値(増加) 0.487			
	腎症	40~64歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		0	0.0%	P値(減少) * 0.047
		65~74歳	1	25.0%	1	25.0%	1	14.3%	1	14.3%	1	11.1%	0	0.0%	P値(増加) 0.301			
		75歳以上	2	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	2	2.2%	2	2.2%		P値(増加) 0.913		
	合 計	3	3.1%	1	1.0%	1	1.0%	2	2.3%	3	3.1%	2	2.1%	P値(増加) 0.913				
	網膜症	40~64歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0.0%	0	0.0%	P値(減少) 0.151
65~74歳		1	25.0%	1	25.0%	2	28.6%	2	28.6%	2	22.2%	0	0.0%	P値(減少) 0.997				
75歳以上		7	7.8%	5	5.3%	5	5.2%	6	7.5%	5	5.6%	6	6.8%		P値(減少) 0.788			
合 計	8	8.3%	6	6.1%	7	6.8%	8	9.2%	7	7.1%	6	6.2%	P値(減少) 0.788					
神経障害	40~64歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0.0%	0	0.0%	P値(増加) 0.816	
	65~74歳	1	1.1%	1	1.1%	0	0.0%	1	1.3%	1	1.1%	1	1.1%	P値(増加) 0.851				
	75歳以上	1	1.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	1.1%	1	1.0%	1	1.0%		P値(増加) 0.851			
合 計	1	1.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	1.1%	1	1.0%	1	1.0%	P値(増加) 0.851					
高血圧	40~64歳	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0.0%	0	0.0%	P値(増加) 0.439	
	65~74歳	3	75.0%	4	100.0%	5	71.4%	6	85.7%	7	77.8%	7	77.8%	P値(増加) 0.853				
	75歳以上	80	88.9%	87	91.6%	90	93.8%	73	91.3%	80	89.9%	79	89.8%		P値(増加) 0.802			
	合 計	85	88.5%	91	91.9%	95	92.2%	79	90.8%	87	88.8%	86	88.7%	P値(増加) 0.802				
脂質異常症	40~64歳	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		0	0.0%	P値(増加) 0.290	
	65~74歳	2	50.0%	2	50.0%	4	57.1%	4	57.1%	7	77.8%	6	66.7%	P値(減少) 0.401				
	75歳以上	64	71.1%	67	70.5%	66	68.8%	58	72.5%	60	67.4%	61	69.3%		P値(減少) 0.589			
合 計	67	69.8%	69	69.7%	70	68.0%	62	71.3%	67	68.4%	67	69.1%	P値(減少) 0.589					
高尿酸血症	40~64歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0.0%	0	0.0%	P値(減少) 0.712	
	65~74歳	2	50.0%	2	50.0%	3	42.9%	2	28.6%	3	33.3%	2	22.2%	P値(減少) * 0.018				
	75歳以上	58	64.4%	59	62.1%	56	58.3%	49	61.3%	52	58.4%	45	51.1%		P値(減少) * 0.014			
合 計	60	62.5%	61	61.6%	59	57.3%	51	58.6%	55	56.1%	47	48.5%	P値(減少) * 0.014					
血管疾患合計	40~64歳	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0.0%	0	0.0%	P値(増加) 0.912	
	65~74歳	4	100.0%	4	100.0%	6	85.7%	6	85.7%	8	88.9%	8	88.9%	P値(減少) 0.503				
	75歳以上	89	98.9%	94	98.9%	95	99.0%	78	97.5%	87	97.8%	87	98.9%		P値(減少) 0.436			
合 計	95	99.0%	98	99.0%	101	98.1%	84	96.6%	95	96.9%	95	97.9%	P値(減少) 0.436					
認知症	40~64歳	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0.0%	0	0.0%	P値(増加) 0.801	
	65~74歳	1	25.0%	1	25.0%	1	14.3%	1	14.3%	2	22.2%	3	33.3%	P値(増加) * 0.009				
	75歳以上	45	50.0%	49	51.6%	52	54.2%	47	58.8%	54	60.7%	51	58.0%		P値(増加) * 0.029			
合 計	47	49.0%	50	50.5%	53	51.5%	48	55.2%	56	57.1%	54	55.7%	P値(増加) * 0.029					
筋・骨格疾患	40~64歳	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0.0%	0	0.0%	P値(増加) * 0.047	
	65~74歳	3	75.0%	3	75.0%	6	85.7%	6	85.7%	8	88.9%	9	100.0%	P値(減少) 0.967				
	75歳以上	88	97.8%	94	98.9%	95	99.0%	78	97.5%	85	95.5%	87	98.9%		P値(増加) 0.524			
合 計	93	96.9%	97	98.0%	101	98.1%	84	96.6%	93	94.9%	96	99.0%	P値(増加) 0.524					
歯肉炎歯周病	40~64歳	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0.0%	0	0.0%	P値(減少) 0.388	
	65~74歳	3	75.0%	3	75.0%	4	57.1%	6	85.7%	7	77.8%	6	66.7%	P値(増加) * 0.002				
	75歳以上	37	41.1%	46	48.4%	49	51.0%	44	55.0%	50	56.2%	51	58.0%		P値(増加) * 0.003			
合 計	41	42.7%	49	49.5%	53	51.5%	50	57.5%	57	58.2%	57	58.8%	P値(増加) * 0.003					

※医療保険が北川村の国保又は後期である介護認定者のみ集計